

各教科等 WG における 資質・能力の構造化等 に関する検討のポイント等

- 各教科等WGにおける資質・能力の
構造化等に関連する検討のポイント P2~37
- 各教科等以外のWGにおける検討のポイント P38~55
- 「高次の資質・能力」等を活かした
単元計画づくりの参考イメージ P56~86



各教科等WGにおける資質・能力の 構造化等に関する検討のポイント



前回からの更新のポイント

① 各教科等の「資質・能力の構造化等に関連する検討のポイント」 (更新)

- ・WGでの議論を踏まえて、2月の企画特別部会から黄色マーカー部分を新たに更新・追記

② 「高次の資質・能力」の設定の趣旨や授業改善に向けたねらい (新規作成)

- ・育成したい資質・能力を理解すること、それを具体の授業デザインに落とし込めることとの間には小さいとは言えない隔りがある。
- ・そのため、「高次の資質・能力」を基にした構造化により、単に育成したい資質・能力をわかりやすく示すということにとどまらず、各教科等固有の「深い学び」のあり方を教師が具体的にイメージできるようにすることで、実際の授業改善に役立つものとしていくという視点が重要。
- ・その観点から、各教科等ごとに、「高次の資質・能力」をどのような授業改善に向けてどういった意図をもって設定したのかといった趣旨・ねらいを解説した資料を作成。

③ 「高次の資質・能力」等を生かした授業づくりの参考イメージ (新規作成)

- ・②のような趣旨・ねらいを踏まえて、「高次の資質・能力」等を授業づくりに活かすプロセスを可視化した参考イメージを作成。(2月の企画特別部会で示された方向性に基づくもの)

※既にWGで資料が提示・議論された教科等に限りお示ししている

(国語WG) 資質・能力の構造化等に関連する検討のポイント

1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

- 国語科は、思考力・判断力・表現力等の系統性が明確であり、知識及び技能が全体として思考力・判断力・表現力等の深まりを助けることを明確にするため、**「並行」パターンでの表形式化を検討**
- 短文でのやりとりが中心となるSNSなどに日常的に接する中で、まとまりのある思考を深めたり表現を工夫したりする経験が不足しており、**目的や場面に応じて、自分の思いや考えに適した言葉を用いて表現することなどに課題**。「何のために言葉を使うのか」という視点を明確にし、学習活動の目的を意識できるようにするため、思考力・判断力・表現力等の内容については、**従来の「話す・聞く／書く／読む」といった領域のみならず、「事実や知識の整理と理解／考えや主張の理由付けと吟味／思いや経験の表出と想像／協働による深化や合意／伝統的な言語文化の継承と創造」といった「話や文章の機能（仮称）」を基に整理**して示す方向で検討

2. その他の重要論点について

- **学習の基盤となる資質・能力である「言語能力」の在り方**について、AIによる大量の言語生成が可能となり、それをSNS等で容易に発信可能な時代だからこそ、自らの意思や考えを形成・表現することや、他者の経験・感情を理解することといった**人間ならではの言語能力を重視する観点から再整理**。また教育課程全体を通じた言語能力育成の一層の推進のため、国語科と各教科等での言語能力育成の役割分担について整理
- **高校国語科の選択科目について**、現行の趣旨は維持しつつ、論理的思考力、感性・情緒の両面について、二項対立に陥らず、**バランスよく統合的かつ効果的に育成する等の観点から、再編を検討**

選択科目の見直しの方向性

- ① 選択科目（論理国語・文学国語・国語表現・古典探究）の中から、標準的な内容項目を抽出し、**主として論理的に考える力を育成し、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域を偏りなく学ぶ4単位科目（現代の国語Ⅱ）**
主として感性や情緒を豊かに育み、古典と近代以降の文章を、我が国の言語文化として学ぶ4単位科目（言語文化Ⅱ）
を大多数の生徒の履修を想定した**選択科目として新設**することで、領域の学びの偏りを解消し、多様な文章を読む機会を確保する。
- ② その上で、上記「Ⅱ」科目の履修を前提に、より**発展的に内容を焦点化して学ぶ選択科目群（論説と批評、対話と表現、文学と叙述、古典と文化）**（2単位相当）を設定し、**生徒の興味・関心に応じた選択を可能にする科目構成とする。**

(国語WG)「高次の資質・能力」の設定の趣旨や授業改善に向けたねらい【並行】

① 相手や状況、目的に応じて、「話や文章の機能（仮称）」ごとに位置付けた思考・判断・表現の力を総合的に発揮し、自分の考えや思いをよりよく伝えることができる姿を示している。これにより、文章の型や手順をなぞって終わる授業ではなく、文章の機能を踏まえつつ生徒が相手や状況、目的を意識し、相手によりよく伝える表現を工夫する授業へと改善することを促す。

② 言葉の知識を、相手や状況、目的に応じて使うことで、理解・思考・表現の質が高まることを生徒が理解している姿を示している。これにより、語句や文法などの個別の知識を機械的に覚える授業ではなく、それらを実際の話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの中で結び付けて使い、文章の理解が深まり、考えが整理され、表現がよりよくなることを実感できる授業へと改善することを促す。

③ 言葉や文字の仕組み、読書、伝統的な言語文化を学ぶ意義や価値を生徒が理解している姿を示している。これにより、言葉や文字の仕組みを知ること、古典や読書に親しむこと、文字を整えて書くことなどを、それぞれの知識や技能を機械的に習得する授業ではなく、それらが自分の考え方や感じ方、他者との関わり、社会や文化の在り方にとどうつながるのかを実感できる授業へと改善することを促す。

※例は「書くこと」の領域であるが、知識及び技能①の側面は、「読むこと」など他の領域の学習の過程でも生かし深めることを前提としている。

		書くこと	
思考力・判断力・表現力等	総合的な発揮	話や文章の機能（仮称）	内容項目例
		<p><u>相手や状況、目的に応じて、文章の書き方を工夫することにより、考えや思いをよりよく伝えることができる。</u></p>	<p>事実や知識の整理と理解 ・説明や解説などの文章を書く</p> <p>考えや主張の理由付けと吟味 ・根拠に基づいて主張する文章などを書く</p> <p>思いや経験の表出と想像 ・経験や想像したことを基に思いや感動を伝える文章などを書く</p>
知識及び技能	①各領域の学習の過程で生かし深める側面	統合的な理解	事項のまとめ
		<p><u>社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。</u></p>	<p>文や文章の構造 ・話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴、段落の構造、場面の設定など</p> <p>表現の仕方 ・文脈の中での語句の意味理解、文脈に応じた語句の選択、表現の技法の種類とその特徴、引用の仕方や効果など</p> <p>情報と情報の関係 ・情報と情報との関係、情報の整理の仕方など</p> <p>情報の信頼性 ・情報の信頼性の確かめ方など</p>
		統合的な理解	事項のまとめ
		<p><u>幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。</u></p>	<p>言葉のきまりや使い方 ・言語が共通にもつ言葉の働き、書き言葉と話し言葉、漢字の読み方・書き方、漢字の構成、単語の類別、単語の活用、助詞や助動詞などの働き など</p> <p>伝統的な言語文化 ・音読するなどして言葉の響きや伝統的な言語文化の世界に親しむ、古典に表れたものの方見方や考え方</p> <p>書写 ・楷書や行書の書き方、文字言語の豊かさに触れながら効果的に文字を書く</p> <p>読書 ・選書の仕方、自らの興味・関心等に応じた自立的な読書</p>



(外国語WG) 資質・能力の構造化等に関連する検討のポイント

1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

- 英語科は知識及び技能よりも思考力・判断力・表現力等の系統性が明確であり、知識及び技能が全体として思考力・判断力・表現力等の深まりを助けることを明確にするため、**「並行」パターン**での表形式化を検討
- 「言語活動」について、活動を資質・能力にどのように結びつけるか分かりにくい、「知・技」を育成するための学習過程を十分に示すことができていないなどの課題があることを踏まえ、「コミュニケーション活動」（主に思・判・表を育成する活動）と「コミュニケーション活動を支える活動」（主に知・技を育成する活動）に再整理し、目標の柱書に位置づける
- 「外国語を使って何ができるようになるか」の段階的な高度化を「思考力・判断力・表現力等」の深まりとして示し、観点別評価も行いやすくするため、**領域別目標の要素（聞くこと、読むこと、話すこと【やり取り】、話すこと【発表】、書くこと）を「思考力・判断力・表現力等」の内容に移行**
- 高次の資質・能力のうち、「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」については、CEFRの分類（Reception・Production・Interaction）も**参照**し、「理解する・表現する・伝え合う」に分けて記載

2. その他の重要論点について

- **AI時代に外国語を必修とする「本質的意義」として、「言葉、文化、コミュニケーションへの深い理解を育むこと」と「自分の考えが磨かれて思考が深まる、人間関係が豊かになること」**を柱に要素を整理（見方・考え方に反映）
- 高校の英語科目については、英語によるコミュニケーションを中核とする科目趣旨を端的に示すため、5領域を総合的に扱う**「英語コミュニケーション」は「英語コミュニケーション（総合）」**に、話すことや書くことを中心に扱う**「論理・表現」は、発信力の一層の強化を図るため「英語コミュニケーション（発信）」に変更**（これらを踏まえた内容構成の変更が生じるため、資質・能力の構造化の素案については英語コミュニケーション（総合）Ⅰ及び英語コミュニケーション（発信）Ⅰのみ示している。）
- コミュニケーションに必要な重要な語彙に繰り返し触れ、様々な文脈や場面で発信に活用できるようにするため、**指導すべき語彙数の精選も含めて、基盤語彙リストを整備**する方向で検討

(外国語WG) 「高次の資質・能力」の設定の趣旨や授業改善に向けたねらい【並行】

- ① 外国語を学ぶ意義の議論を踏まえ、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じた情報や考えの整理・表現の工夫・互いの考えを伝え合うことを目指すことを明確化しつつ、国際的な通用性のある外国語能力を育成する観点から、国際的な基準であるCEFRの分類（Reception・Production・Interaction）を参照し、理解する・表現する・伝え合うに分けて記載。
- ② 一定の言語体系が習得されており、各技能の熟達と言語運用能力に直結する母語の学習とは異なり、未習得言語の学習では特に4技能をバランス良く育成し、実現可能なコミュニケーションの水準を全体として高めていくことが重要であることから、国語のように技能領域別ではなく、コミュニケーションの意味のまとまり別に示している。これにより、4技能をバランス良く発揮させるような授業づくりを促す。

- ③ 英語で聞く・読む・話す・書くことに向けて、様々な音声や語彙、表現、文構造及び文法等を学ぶことの意義を理解している姿を端的に表す。これにより、単に単語の意味や文法を覚えるのではなく、そうした知識を、場面や状況に応じてコミュニケーション活動で組み合わせて使うことにより、英語を聞く・読む際に理解しやすくなったり、話す・書く際により自分が伝えたいことが表現できるようになるなど、理解や表現の質が高まることを実感できる授業づくりへの改善を促す。

総合的な発揮		領域	内容項目例 (第1学年相当)	内容項目例 (第2学年相当)	内容項目例 (第3学年相当)	
思考力、判断力、表現力等	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、 ・情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などと関連付けたりして、 考えを形成することができる。【理解する】 ・情報や自分の考えなどを整理し、 表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】 ・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを整理し、 表現等を工夫して伝え合うことができ、相互理解を図ることができる。【伝え合う】	聞くこと	話題	日常的な話題について 身近な社会的な話題について ※後半以降を想定		
			条件	簡単な語句や文で、はっきりと話されれば できること (ア) 必要な情報を聞き取ることができる・・・		
		読むこと	条件	簡単な語句や文で書かれた できること (ア) 必要な情報を読み取ることができる・・・		
			話題	日常的な話題について（身近な話題について、（自分にとって）興味・関心のある話題について） 身近な社会的な話題について ※後半以降を想定		
		話すこと (やり取り)	条件	簡単な語句や文を用いて できること (ア) 自分の考えや気持ちなどを即興で伝え合うことができる（※身近な社会的な話題については対象としない） ・・・		
			話すこと (発表)	（ア）自分の考えや気持ちなどを即興で話すことができる（※身近な社会的な話題については対象としない） ・・・		
書くこと	（ア）情報や自分の考え、気持ちなどを文で書くことができる ・・・					
統合的な理解		領域	内容項目例 (1学年相当)	内容項目例 (第2学年相当)	内容項目例 (第3学年相当)	
知識及び技能	音声、語彙、表現、文構造及び文法並びに【P】言語の働きなどの知識を、場面や状況に応じて組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。	英語の特徴やきまりに関する事項	ア 音声	音声の特徴を理解し、読んだり話したりする際に、場面や状況に応じて活用できる・・・		
			イ 符号	符号の意味や使い方を理解し、読んだり書いたりする際に場面や状況に応じて活用できる・・・		
			ウ 語、連語及び慣用表現	語、連語及び慣用表現の意味や使い方を理解でき、聞いたり読んだりする際に、文脈に応じて活用できる・・・		
			エ 文、文構造及び文法事項	文、文構造及び文法事項の意味、形式及び働きを理解し、聞いたり読んだり、話したり書いたりする際に、場面や状況に応じて活用できる ・ 文・・・		
		【P】言語の働きに関する事項	次の事項について、使用される場面や状況でどのような働きをするのかを理解し、聞いたり読んだり、話したり書いたりする際に、場面や状況に応じて活用できる ア・・・	・・・		



(社会・地理歴史・公民WG) 資質・能力の構造化等に関連する検討のポイント

1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

- 民主的で持続可能な社会の創り手を育成する観点から、社会的事象に関する**概念の理解**、**確かな情報に基づき適切かつ効果的に調べまとめる技能**や、資料や概念に基づき**自らの考えを批判的に捉え直す力**を養うことなどを重視する方向で目標を改善。

(目標の見直しのポイント)

(知識及び技能) …社会的事象に関する概念の理解を重視。真偽が定かでない情報が行き交う中、情報の信ぴょう性の確認を重視。

・小中：「**確かな**」情報に基づく「**適切かつ**」効果的に調べまとめる技能の習得。

・高校： 批判的に情報を扱う視点を重視し「**妥当性を吟味しながら**」調べまとめる技能の習得。

(思考力、判断力、表現力等) …より深い学びを具現化するため、**自らの考えを批判的に捉え直す力**の育成を追記。

(学びに向かう力、人間性等) …**自らの学びを振り返りながら、主体的かつ協働的に問題解決しようとする態度**を明記。

- 従来「**見方・考え方**」で学びの深まりの鍵として示していた「**位置や空間的な広がり、時期や時間の経過**」といった着目すべき視点や、「**比較・分類したり総合したり**」といった対象を分析する方法については、**一層授業改善に活かす**観点から、「**社会的な視点や方法等**」として「**総合的な発揮**」において示すこととした
- 社会科・地歴公民科については、知識及び技能の系統性が明確であり、個々の知識及び技能と一体的に育成する思考力・判断力・表現力等を具体的に示すことが授業改善に繋がることから、「**並列パターン**」での構造化を検討

2. その他の重要論点について

- **今後「高次の資質・能力」と個別の内容の精査を往還する中で必要な内容の精選を進めつつ、教科書レベルでの記載の精選のための具体的な方針を検討する。**グローバルな協調や競争に関する課題や自然災害、デジタル技術の発展、人口減少社会がもたらす社会構造の変化など**複雑化・多様化が進展する社会の状況を踏まえた内容の在り方等についても検討**
- **技術の進展に伴い情報や資料等の真偽や意図、背景等を把握することがこれまで以上に求められていることを踏まえ、収集した情報や読み取った情報、まとめた情報の信ぴょう性等を確認する新たな技能（「情報の妥当性の確認」に関する技能）を位置付け、既存の「社会的事象等について調べまとめる技能」の内容を含めて整理・充実することとして検討**

(社会WG)「高次の資質・能力」の設定の趣旨や授業改善に向けたねらい【並列】

① 社会的事象に関する個別の知識・技能を統合して、社会における様々な場面で活用できる概念として習得された姿を示している。これにより、個別の用語の暗記にとどまらず、それらの意味が結びつけられて統合的に理解できるような授業への改善を促す。

② 抽象度が高くなりすぎず、授業構想に活かしやすくするため、概ね現在評価参考資料で示している「内容のまとめり」を基本にして高次の資質・能力を設定。

③ 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の社会的な視点や方法等を示している。これにより、これまで社会科において「見方・考え方」と捉えられてきたものの具体化を図るとともに、知識・技能が統合的に理解されるために重要となる、学習過程を通じて追究する「本質的な問い」を教師が構想しやすくする。

④ 当事者意識を持って、自分の意見を形成し、対話と合意ができる社会の創り手を育成することを重視。そのため、社会的事象を様々な側面や角度から捉えて考察することや、社会に見られる課題解決のために、自分の意見や考えをまとめることを示している。

		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
		統合的な理解	総合的な発揮
		国際社会の動向や近隣の諸地域との関係を背景に、国際情勢の推移とその対応が政治や社会の変化を促したことや、 戦争による惨禍が繰り返された経緯から国際協調の意義 について理解する。	時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの 視点に着目 して、近代後半の日本について 多面的・多角的に考察し 、それ以前との比較などから時代の特色を大観して 現代の諸課題の解決に向けた手掛かりについて構想し、表現 することができる。
内容項目例			
中学校 社会歴史的分野 C 近現代の日本と世界	(2)近代(後半)の日本と世界	(ア)(第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現) ・ 次の①から③などを題材に、第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解する。 ① 第一次世界大戦の背景とその影響 ② 民族運動の高まりと国際協調の動き ③ 我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化	(ア)世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現について、多面的・多角的に考察し、表現する。
		(イ)(第二次世界大戦と人類への惨禍) ・ 次の①から⑤などを題材に、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解する。 ① 経済の世界的な混乱と社会問題の発生 ② 昭和初期から第二次世界大戦終結までの我が国の政治・外交の動き ③ 中国などアジア諸国との関係 ④ 欧米諸国の動き ⑤ 戦時下の国民の生活	(イ)経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第二次世界大戦と人類への惨禍について、多面的・多角的に考察し、表現する。

🔗 (算数・数学WG) 資質・能力の構造化等に関連する検討のポイント

1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

- 算数・数学の学習の本質を明確にしつつ、**小・中・高を通じて一貫性・系統性を確保**した指導を充実する観点から、小・中・高で**教科の目標を統一**しつつ、必履修部分に係る**学習内容を共通する6つの「分野」で整理**
- 世界トップレベルの数学的リテラシーを有しつつ、高校卒業後の進路に理工系が選択されにくい現状や、その一因として、数学と社会・職業との関係の理解が進んでいない状況
- また、現代社会の重要なインフラとなりつつある**AI技術や数理科学、データサイエンス等**の仕組みを理解し、適切に活用できるようにする観点から、それらの**基盤となる学習（行列、微分・積分、確率、統計）を充実**する必要
- これらの観点から、以下の改善を検討
 - **中学校及び高校**で、数学と社会・職業との関係や数学全体の見取り図を示す「**数学ガイダンス**（仮称）」を**新設**
 - **高等学校「数学Ⅰ」**において、AI等の基盤となる内容を含め、**高校卒業時に身に付けるべき数学的素養の基礎を実社会における数学的場面**をもとに学ぶ「**社会を読み解く数学**（仮称）」を**新設**
- 算数・数学科については、知識及び技能の系統性が明確であり、個々の知識及び技能と一体的に育成する思考力・判断力・表現力等を示すことが授業改善に繋がることから、「**並列パターン**」で**構造化**

※ 学習内容の実質的増加につながらないよう、**教科全体の学習内容について必要な精選**を図ることを前提

2. その他の重要論点について

- **校種間で教科が異なり学びに不連続が見られる**ことから、小・中・高を通じた**指導の一貫性・連続性・系統性を確保・充実するため**、教科の目標等とあわせて、**小・中・高で教科の統一を検討**
※小学校の教科名の在り方については、数学に統一することの適否を検討
- **高等学校**について、現行の「**数学A」「数学B」「数学C**」を、生徒が**必要な学習内容を選択履修しやすく**、**各学校が柔軟にカリキュラムを編成・実施**できるよう、ABCの区分けをなくして内容を選択できる一つの**新科目として整理**
- **メディアリテラシー**の観点も意識し、**見方・考え方を「事象や言説を数理の視点から捉え、論理的、統合的・発展的、批判的に考察すること」と整理**
- **共通教科「理数科」**については、**探究の対象**とする事象等を科学的・数学的なものに偏重せず、**文理横断・文理融合（STEAM）的な課題も充実**【理科WGと合同で審議】

(算数・数学WG) 「高次の資質・能力」の設定の趣旨や授業改善に向けたねらい【並列】

① 小・中・高の学びの系統性・一貫性・連続性を確保するため、学習内容について、数・図形等の学習の対象・目的を基に共通の6分野で整理。

各分野については、その分野を構成する概念的要素を基に、更に1～2区分に分類して区分毎に高次の資質・能力を設定し、教師が実際の単元構想に活用しやすい抽象度となるように工夫。

小・中・高の一貫性重視により、小学校での示し方が過度に抽象的とならないよう、小学校の高次の資質・能力については可能な限り具体性を伴うよう示す。

② 「統合的な理解」は、学習を通じて「理解してほしい（数学の）概念的要素がどのようなもの」で、「概念的要素を用いることで何ができるのか」を具体的に示す。これにより各区分の概念的要素について教師が具体的なイメージを把握しやすいようにし、問題の解き方を教えるだけの授業ではなく、数学の諸概念を用いて何ができるかを子供に掴ませる授業への改善を促す。

③ 「総合的な発揮」は、学習の場面や日常生活、社会において、「概念的要素の何に注目して」「具体的にどのような数学的な問題解決ができるようになるのか」を記述。これにより、数学の概念的要素を意識した問題解決の過程を学習に組み込むことを促し、「統合的な理解」や「総合的な発揮」の効果的な育成をめざす。

		(分野) 変化と関係			
		(区分) 割合と比		(区分) 関数	
		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
小学校	統合的な理解	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	単位量あたりの大きさや割合、比は、…	事象における二つの数量の関係に着目し、…	伴って変わる二つの数量は、 <u>一方の数量ともう一方の数量の変化と対応の関係によって説明でき、それに基づいて、未知の数量を予測できる</u> ことを理解する。	事象における伴って <u>変わる二つの数量の関係に着目し</u> 、表、式、グラフを用いて表現・処理して得られた結果を、 <u>事象に照らして解釈する</u> 。	
	内容項目例		内容項目例		
	・ 割合 ・ ……	・ 事象における…	・ 伴って変わる二つの数量変化 ・ ……	・ 事象における伴って変わる二つの数量を見だし、……	
中学校	統合的な理解	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
			関数は、 <u>一方の値を決めると他方の値がただ一つに決まる対応として数量間の関係を扱い、事象の変化を把握したり予測したりできる</u> ことを理解する。	事象において、 <u>ある数量とそれに関係する別の数量との関係に着目し</u> 、関数として捉え、表、式、グラフを相互に関連付けて表現・処理し、得られた結果を <u>事象に即して解釈する</u> 。	
	内容項目例		内容項目例		
			・ 関数、座標の意味、表、式、グラフ ・ ……	・ 事象における伴って変わる二つの数量を見だし、……	
高等学校・数学I	統合的な理解	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
			関数は、 <u>一方の値を決めると他方の値がただ一つに決まる対応関係として数量間の関係を扱い、事象の変化を把握したり予測したりできる</u> ことを理解する。 関数のグラフは、 <u>方程式や不等式の解を、軸や他のグラフとの位置関係として表せる</u> ことを理解する。	事象において、 <u>ある数量とそれに関係する別の数量との関係に着目し</u> 、関数として捉え、表、式、グラフを相互に関連付けて表現・処理し、得られた結果を <u>事象に即して解釈する</u> 。	
	内容項目例		内容項目例		
			・ 二次関数の値の変化やグラフの特徴 ・ ……	・ 事象における伴って変わる二つの数量を見だし、……	



(理科WG) 資質・能力の構造化等に関連する検討のポイント

1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

- 理科の学習の本質を明確にしつつ、**小・中・高を通じて一貫性・系統性を確保**した指導を充実する観点から、小・中・高で**教科の目標を統一**しつつ、**学習内容を共通する4つの「分野」(物理・化学・生物・地学)で整理**
- **「科学的な探究」の過程を教育課程全体で位置づけ**、解説等も活用して具体的に示していくことで、理科の**学習全体を通じて科学的な思考・方法を身につける**という趣旨を明確化
- エネルギー問題や環境問題など、特定の分野・領域に限定できない科学的な社会課題が増加していることを踏まえ、**分野横断的な課題について学ぶ学習内容を、小学校にも新たに設定(理科と日常生活(仮称))**
※ 学習内容の実質的増加につながらないよう、**教科全体の学習内容について必要な精選**を図る
- **中学校及び高校で、科学(的)とは何か**や、学問分野にとらわれない**科学的思考・方法の基本**や**研究倫理**、理科の**学習と研究・社会とのつながり等**について学ぶ**「科学ガイダンス(仮称)」を新設**
- 理科については、知識及び技能の系統性が明確であり、個々の知識及び技能と一体的に育成する思考力・判断力・表現力等を示すことが授業改善に繋がることから、**「並列パターン」で構造化**

2. その他の重要論点について

- **高等学校「科学と人間生活(2単位)」**について、**生徒の多様なニーズ**を踏まえ、理科を学ぶ意義や面白さ、社会で最低限必要となる科学的な素養の修得という観点から**「科学と人間生活(2又は4単位)」に見直し、内容も改善**。**それに伴い、高等学校の必修科目の選択方法**について、従来の①「科学と人間生活(2単位)」&「○○基礎(2単位)」1科目又は②「○○基礎(2単位)」3科目に加え、③**「科学と人間生活(4単位)」を新設**
- **メディアリテラシーの観点も意識し、見方・考え方を「自然や社会の事象・言説を、自然科学的な視点から捉え、観察・実験の結果や科学的知見などに基づいて、客観的、論理的、批判的に考察すること」と整理**
- **理科への興味・関心を高める**ためにも、**観察・実験等や科学的な探究活動を一層充実**
- **共通教科「理数科」**については、**探究の対象**とする事象等を科学的・数学的なものに偏重せず、**文理横断・文理融合(STEAM)的な課題も充実**【算数・数学WGと合同で審議】

(理科WG) 「高次の資質・能力」の設定の趣旨や授業改善に向けたねらい【並列】

① 小・中・高の学びの系統性・一貫性・連続性を確保するため、学習内容を学校種共通で「物理」「化学」「生物」「地学」の4分野で整理。
各分野については、その分野を見通す共通的な着眼点を基に、更に3区分に分類して区分毎に高次の資質・能力を設定し、教師が実際の単元構想に活用しやすい抽象度となるように工夫。

② 「統合的な理解」は、個別の学習内容が分離した学びとならないよう、教師が単元・授業を構想する際、「最終的にどのような大きな理解を核に個別の知識・技能を結びつけていけばよいのか」をイメージできるように示す。自然科学のよさや魅力を感じられ、児童生徒が理科を好きになるような授業を促すため、高等学校を含め可能な限り平易かつシンプルな示し方となるよう工夫。
これにより、用語の理解や暗記・計算に偏るのではなく、科学的な探究により導かれる自然科学の一般原理・法則や、その魅力を理解できるような授業づくりを促す。

③ 「総合的な発揮」は、いずれの分野でも共通して、知識及び技能の統合的な理解を基に「科学的に探究する」ことができるようになることを示し、学校段階を超えて繰り返し育成することを促す。また、学習場面や日常生活・社会で見られる事象から、「特徴を見いだして表現する」ことをいずれの区分でも共通で示し、自然事象から再現可能な原理を見いだすという自然科学の本質的な思考方法を日々の授業の中で児童生徒が実践するような授業づくりを促す。

		(分野) 生物分野					
		生物の構造と機能		(区分) 生命の連続性		生物と環境の関わり	
		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
小学校	統合的な理解	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	生物には基本的な体のつくりと…	科学的に探究する学習活動を通して、…	植物と動物の成長の過程を通して、 生命の連続性があることを理解 する。	科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の 特徴を見いだして表現 することができる。	生物と環境の間には…	科学的に探究する学習活動を通して、…	
	内容項目例	内容項目例	内容項目例	内容項目例	内容項目例	内容項目例	内容項目例
中学校	統合的な理解	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	生物は多様であるが、…	科学的に探究する学習活動を通して、…	生物の殖え方、遺伝現象、生物の進化には 特徴や規則性、関係性があり、生命の連続性があることを理解 する。	科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の 特徴を見いだして表現 することができる。	自然界には、…	科学的に探究する学習活動を通して、…	
	内容項目例	内容項目例	内容項目例	内容項目例	内容項目例	内容項目例	内容項目例
高等学校・生物基礎	統合的な理解	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	生物は多様でありながら、…	科学的に探究する学習活動を通して、…	生物は多様でありながら、 「遺伝物質としてDNAがあり自己複製する」という共通性をもっていることを理解 する。	科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の 特徴を見いだして表現 することができる。	生態系における、生物の多様性及び…	科学的に探究する学習活動を通して、…	
	内容項目例	内容項目例	内容項目例	内容項目例	内容項目例	内容項目例	内容項目例



1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

- スポーツ基本法改正の趣旨や複雑化・多様化する健康課題といった点も踏まえ、**運動・スポーツの多様な楽しみ方や心身の健康の保持増進を通じて自他の人生を豊かにしていくという方向性を重視して検討**
- 体育については、子供たちが内発的動機に基づいて運動に一層豊かに取り組むことができるようになることを目指し、**小学校4年までは運動遊び等を通じて「運動の基礎を培う時期」、中学校2年までは多様な運動の経験を通じて「多くの領域を経験し、スポーツの基礎に触れる時期」、中学校3年生以降は自分で選んだ運動の学習を通じて「卒業後も運動やスポーツに多様な楽しみ方で豊かに関わることができるようにする時期」と4年ごとに捉え、内容の系統性を再整理**
 - **特に小学校4年生までは、資質・能力を「どのような動きの習得を目指すのか」を軸として示すことを検討**
 - **特に中学校3年生以降の段階において、選択制の趣旨を踏まえた指導の改善・充実を図る観点から、求める運動技能の水準が過度に高度なものとなり過ぎない方向性で内容の示し方を検討**
- 特に、これまで「学びに向かう力、人間性等」に位置づけていた体育における**公正、協力、責任等の内容については、指導と評価の具体化を図るため「知識及び技能」に位置づけ直す等の整理**
- 保健については、**内容相互の関連性が明確となるよう系統性を再整理**
- 体育及び保健については、知識及び技能の系統性が明確であり、個々の知識及び技能と一体的に育成する思考力・判断力・表現力等を具体的に示すことが授業改善に繋がることから、**「並列パターン」での構造化を検討**

2. その他の検討のポイントについて

- 学習内容等の改善の検討を踏まえ、**中高の「体育理論」を「スポーツ理論」と改めるとともに、高等学校の専門学科「体育」を「スポーツ」に改める**方向で検討
- **学校プールの老朽化と維持管理コストの増加、気候変化に伴う計画的な授業実施・安全確保の困難化の状況等を踏まえた水泳授業の在り方等について検討**

(体育WG・体育分野)「高次の資質・能力」の設定の趣旨や授業改善に向けたねらい【並列】

① 体育の学習は、競技力等を育てることを目的としているのではなく、身体活動に取り組む中で、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフの実現につながる資質・能力を育むことを目指している。

そうした趣旨を明確にするため、統合的な理解では、運動領域の特性に応じた本質的な知識や技能等の捉え方を示しつつ、その熟達により、スポーツを通じて自他が楽しさや喜びを味わうことに繋がるという理解の姿を示している。

② 特に運動が苦手な児童生徒が楽しさや喜びを味わいにくい集団競技等については、「攻防を展開」する中で学びが深まっていく様相を示し、まずはやわらかいボールを用いて苦手な児童生徒でも安心して「攻防の展開」を楽しめるようにするなど、多様性を包摂した授業における環境づくりの工夫につなげる。

③ 運動領域ごとの特性を踏まえつつ、具体的にどのような取り組み方の工夫等によって学びの深まりが想定されるのかをシンプルに表現。単に特定の技能に長けていくような授業ではなく、各運動領域ならではの運動の取り組み方の工夫の中で、学びが深まっていくような授業デザインを促す。

	ボール運動系、球技	
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	統合的な理解	総合的な発揮
中学校	ゲームの特性等に応じて、ボール等に関する操作及び仲間と連携した動きで攻防を展開し、勝敗を競うことにより、仲間とともに一層楽しさや喜びを味わうことができることを理解する	ゲームの特性等に応じて、誰もが攻防の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら練習方法や作戦、攻防の展開を工夫する
	内容項目例	
	<ul style="list-style-type: none"> ゴール型 ネット型 ベースボール型 	<ul style="list-style-type: none"> ボール操作やボールを持たないときの動きなどの課題を発見し、合理的に解決できるよう工夫すること

(体育WG・保健分野)「高次の資質・能力」の設定の趣旨や授業改善に向けたねらい【並列】

①保健の学習の系統性として、小学校では「身近な生活」、中学校では「個人生活」、高等学校では「個人及び社会生活」を中心としてスパイラルに学びが深まっていく様相を高次の資質・能力においても表現。

①統合的な理解では、保健の学習の中核をなす保健に関する「概念」や「それに関わる原則」を児童生徒が理解できた姿を教師が的確にイメージできるよう分かりやすく示す。単に知識等を教え込むような授業ではなく、「概念」や「それに関わる原則」を児童生徒が掴みやすい授業をデザインすることで、保健が特に重視している、日常生活に生きる学びを実現する授業を促す。

②総合的な発揮では、生活へ適用する資質・能力を端的に表現。これにより、保健に関する「概念」や「それに関わる原則」を、学校内の学びにとどめるのではなく、保健が特に重視している、実生活における課題等への対処につなげていくための学習活動を教師が設計していくことに繋げる。

		心の健康、心の健康と対策		
小学校	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等		
	統合的な理解	総合的な発揮		
	心の発達、心と体との密接な関係、不安や悩みへの対処は心の健康に関連 があり、身近な健康を保つことに関わることを理解する		心をよりよく発達させたり、不安や悩みに対処する方法を考え、身近な生活に適用 する	
内容項目例				
<ul style="list-style-type: none"> 心の発達 心と体との密接な関係 不安や悩みへの対処 		<ul style="list-style-type: none"> 心の健康に関わる課題の発見 よりよい心の発達や心と体の関わりについて考えること 不安や悩みへの対処方法を考えること 		
中学校	統合的な理解	総合的な発揮		
	精神機能の発達やストレス等への対処は、心の健康と関連 があり、個人の健康を保つことに関わることを理解する		精神機能を発達させたり、欲求やストレスへの適切な対処法を考え、自他の生活に適用 する	
	内容項目例			
<ul style="list-style-type: none"> 精神機能の発達と自己形成 欲求やストレスへの心身への影響 ストレスへの対処 		<ul style="list-style-type: none"> 自他の心の健康に関わる課題の発見 心の健康を保持増進する方法を見いだすこと ストレスへの適切な対処の方法を考えること 		
高等学校	統合的な理解	総合的な発揮		
	精神疾患を含む心の不調やそれを取り巻く社会環境は心の健康に関連 しており、個人及び社会における健康の保持増進や回復に関わることを理解する		心の健康を維持・回復するために必要な個人の取組や社会的な対策について考え、社会生活に適用 する	
	内容項目例			
<ul style="list-style-type: none"> 精神疾患の特徴 精神疾患への対処 心の健康を維持・回復するための方法や対策 		<ul style="list-style-type: none"> 自他や社会の心の健康に関わる課題の発見 心の健康に関する課題を解決する方法を考えること 		



(芸術WG) 資質・能力の構造化等に関する検討のポイント

1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

- **全ての教科等に通底する「創造」の土壌**となる資質・能力を育むという芸術の特性を重視。児童生徒一人一人のありようを尊重することを前提に、**表現したいことについて自分の思いや考えをもち、それをどのように形にできるか、伝えることができるか、芸術での学習を豊かな社会の創造や幸福な人生に活かしていけるか等**の視点から改善を検討
- そうした視点から、引き続き芸術活動の根幹となる**「表現」及び「鑑賞」を各教科・科目共通の領域**とした上で、**芸術系各教科・科目の特性や専門性・系統性を踏まえて学習の区分を設定し、それをもとに高次の資質・能力を検討**

(例) 中学校音楽：「歌唱」、「器楽」、「創作」 中学校美術：「自分と美術」、「生活や社会と美術」など

- **これまで、表現について自分の思いや考えをもち、思いや考えを基に身体を用いて表現することとが一連の流れとして捉えにくかったところ、これらのプロセス全体に働く資質・能力を思・判・表として整理するとともに、その際に活用する技能について資質・能力を構造化することにより、創造的な表現に繋がる学習を一体的に充実することを検討**

(例) 中学校美術：教科目標（思考力、判断力、表現力等）「**造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり、美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする**」

- 鑑賞に関する教育の充実を図るため、図画工作、美術、工芸、書道において、**鑑賞の技能に関わる内容を新たに位置付け**ていく方向で検討
- 芸術系各教科では個々の知識及び技能に対応して育成する思考力、判断力、表現力等を示すことは困難であり、また**知識を基に思いや意図などをもち、身体を用いながら技能を働かせて表現や鑑賞を行うという往還を重視**する芸術の学習過程の特質を踏まえ、知識及び技能が全体として思考力、判断力、表現力等の深まりを助ける構造を表現しやすい**「並行」パターンでの構造化**を検討

2. その他の重要論点について

- **高等学校芸術科**においては、**各科目の学びのみではなく、Iを付した各科目の導入及びまとめの段階に、芸術を学ぶことの意味や価値など「芸術」そのものを学ぶ機会を共通して設定**するなど改善を検討

(芸術WG) 「高次の資質・能力」の設定の趣旨や授業改善に向けたねらい【並行】 (小学校・図画工作科)

①表現と鑑賞という従来の領域設定に加え、教師の具体的な題材の設定に資するよう、学びの方向性を基に区分を設定し、それぞれに高次の資質・能力を設定。

②総合的な発揮では、表現や鑑賞のよりどころとして、形や色など関わらせて自分のイメージをもつことを深い学びのポイントとして示した。また、豊かな発想や構想と、表す過程での気づきを生かして表現することを示し、思考、判断、表現が一体的に行われるという今回の再整理の趣旨を明確にした。

これにより、自分の表したいことを工夫して表現するという一連の過程として捉えられるようにし、児童が問いを自分で作りだして、それを創造的に表現していくという授業づくりに繋げる。

③統合的な理解では、「自分の感覚や行為を通して造形的な特徴を捉え」とし、単に頭で理解しているだけでなく、児童が手や体全体の感覚を働かせて、知識及び技能を自分のものとしていくことを示した。また、「場面に応じて活用できる技能を身に付け」とし、場面が変わっても働かせることができる技能を身に付けることを示した。これらを結びつけることにより、知識及び技能を身に付け、それらを用いて生活や社会の中でも創造的に表現したり鑑賞したりできるようにする授業づくりを促す。

小学校	A 表現	自分と表したいこと(仮)	総合的な発揮	内容項目例
			表現力等 思考力、判断力等	表そうとすることから対象や事象を捉え、 形や色などを基に自分のイメージをもちながら、豊かに発想や構想をし、表す過程での気づきを生かして表現することができる
	B 鑑賞	自分と表したいこと(仮)	統合的な理解	内容項目例
			知識及び技能	表そうとすることから、 自分の感覚や行為を通して造形的な特徴を捉えながら、場面に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している
A 表現	自分と表したいこと(仮)	総合的な発揮	内容項目例	
		表現力等 思考力、判断力等	作品などとの関わりから、 形や色などを基に自分のイメージをもちながら、自分や他者、生活における造形の意味や価値について考え、自分の見方や感じ方を広げ深めることができる	<ul style="list-style-type: none"> 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと〔共通事項〕 鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や親しみのある美術作品などのよさや美しさ、表現の意図などについて感じ取ったり、考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること
B 鑑賞	自分と表したいこと(仮)	統合的な理解	内容項目例	
		知識及び技能	作品などとの関わりから、 自分の感覚や行為を通して造形的な特徴を捉えながら、作品などに応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	<ul style="list-style-type: none"> 自分の感覚や行為を通して、形や色などや、造形の働きについて理解すること〔共通事項〕 鑑賞する活動を通して、鑑賞の方法を知り、自分たちの作品や、親しみのある美術作品などから表現の特徴などを見付けだすこと

(芸術WG) 「高次の資質・能力」の設定の趣旨や授業改善に向けたねらい【並行】 (中学校・音楽科)

①表現と鑑賞という従来の領域設定に加え、教師の具体的な題材の構想に資するよう、学習内容のまとまりを基に区分を設定し、それぞれに高次の資質・能力を設定。

②音楽科では、単に歌唱や演奏等が上手くなることを目指すのではなく、感性を働かせながら、音楽表現の自分や他者にとっての意味を創造していく学びを重視。そのため総合的な発揮では「知覚・感受したことをよりどころに」思考を巡らせ、「表現に対する自分の思いや意図をもつ」ことを示しつつ、音楽表現・鑑賞のもつ「意味や価値」を実感しながら「歌唱表現を深めること」などを示した。
また、思いや意図をもつことと、音楽表現を深めることを一連の流れとして示し、これらのプロセス全体を一体化する今回の再整理の趣旨を明確に示した。これにより、表現の工夫について考えることと身体を用いて音楽表現することを別々に位置付けるのではなく、生徒自身が表現したい思いや意図をもち、それを創造的に表現していくという授業づくりに繋げる。

③統合的な理解では、「個々の感じ方等に基づき」、生徒が個々に感性や諸感覚を働かせることや、自分の身体を用いて実際に声に出したり楽器を演奏したりすることを大切にしながら、知識や技能を身に付けていくことを重視して示した。これにより、生徒個々の感性や感覚に基づき学びが実現できるようにした。

		総合的な発揮		内容項目例	
中学校	A 表現	楽器	表現力等 思考力、 判断力	音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、曲にふさわしい表現に対する思いや意図をもち、 <u>自分や他者にとって器楽による表現がもつ意味や価値を実感しながら、器楽表現を深めることができる</u>	音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること〔共通事項〕 曲想と音楽の構造、曲の表す内容や曲の背景などとの関わりを考え、曲の特徴を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること
			知識及び技能	統合的な理解	曲にふさわしい楽器の音色や響きの特徴を <u>個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら</u> 、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図を器楽で表現できることを理解している
	B 鑑賞		表現力等 思考力、 判断力	音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、曲や演奏を自分と関わらせながら聴き、 <u>自分や他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を実感しながら</u> 、音楽を聴き深めることができる	音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること〔共通事項〕 生活や社会における音楽の意味や役割、音楽表現の共通性と固有性について考え、曲や演奏を根拠をもって評価しながらよさや美しさなどを味わって聴くこと
			知識及び技能	統合的な理解	音楽の特徴や多様性などを <u>個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えることにより</u> 、音楽のよさや美しさ、意味や役割などを見いだすことができることを理解している

(芸術WG) 「高次の資質・能力」の設定の趣旨や授業改善に向けたねらい【並行】

(高等学校芸術科・書道)

①書道の学びは、文字を美しく書くことのみが目的ではなく、表現された作品や書、その美に対して自分なりの意味や価値を見いだしていく力を育むことが重要。そのため総合的な発揮においては、「書の伝統と文化、作品や書の美、その意味や価値について考え、自分にとっての価値意識を形成」と示した。**書の伝統と文化などについて、社会や自分にとっての意味や価値を自ら見だし、形成していくことを重視した授業改善を促す。**

②統合的な理解（表現）においては、「身体の機能や感覚を駆使」することと「目的や状況に応じて自在に活用できる」ことを示した。これにより、単に字形を整えて書くことにとどまるのではなく、**線質を追求したり、空間を捉えたり、呼吸を感じ取ったりするなど、身体機能や感覚を駆使し、目的や状況に応じて自在に活用できるようにするための授業づくりを促す。**

③統合的な理解（鑑賞）においては、「書的美を捉える視点」をもつことと、「作品や書から情報を読み取る」ことを示した。これにより、**書的美に対する理解を基盤にしながら、作品や書のよさや美しさを見いだしていくような鑑賞の授業づくりを促す。**

高等学校	A 表現	断力、表現 思考力、判断力	総合的な発揮 自分と社会、文字や書の歴史や文化等との関わりから、 書の伝統と文化、作品や書の美、その意味や価値について深く考え、自らの価値意識を形成しながら、創造的、個性的に美を表現したり自己表現したりすることができる	内容項目例 ・ 名筆を生かした表現や現代に生きる表現、漢字の書及び仮名の書の伝統と文化に基づく表現について考えること ・ 自らの感興や表現の意図に基づいて、構想し表現を工夫して効果的、創造的に表現すること
		知識及び技能	統合的な理解 作品や書における美の構造やその働き、書の伝統と文化について実感を伴って捉えながら、 身体の機能や感覚を駆使して目的や状況に応じて自在に活用できる技能を身に付ける ことにより、創造的、個性的に表現できることを理解している	内容項目例 〔共通事項〕 ・ 書を構成する要素の働きと、書の表現性、表現効果、風趣との関わりについて理解すること ・ 書的美の構造、書的美を捉える視点について理解すること ・ 各分野の書を構成する様々な要素の働きや、多様な書風を形作る背景について理解すること ・ 用具・用材の特徴、古典や名筆等の基本的な用筆・運筆等の効果を生かして、効果的、創造的に表現するために必要な技能を身に付けること
	B 鑑賞	断力、表現 思考力、判断力	総合的な発揮 書かれた言葉、歴史的背景、生活や社会、諸文化等との関わりから、 書の伝統と文化、作品や書の美、その意味や価値について深く考え、自らの価値意識を形成しながら、作品や書のよさや美しさを豊かに味わうことができる	内容項目例 ・ 生活や社会における作品や書の働きや効用、自分や他者にとっての作品や書の意味や価値について考えること ・ 作品や書の美の構造、多様な背景との関わり、書の伝統と文化について考えることを通して、書のよさや美しさを味わうこと
		知識及び技能	統合的な理解 書の伝統と文化、書的美の多様性と関わらせて、 書的美を捉える視点等について実感を伴って捉えながら、作品や書から情報を読み取る技能を身に付ける ことにより、作品や書のよさや美しさを豊かに味わうことができることを理解している	内容項目例 〔共通事項〕 ・ 書を構成する要素の働きと、書の表現性、表現効果、風趣との関わりについて理解すること ・ 書的美の構造、書的美を捉える視点について理解すること ・ 書の伝統と文化、漢字の書体の変遷、仮名の成立、漢字仮名交じりの書の成立について理解すること ・ 書的美を捉える視点を通して、読み取った情報や感じ取ったことを精査する技能を身に付けること



(家庭WG) 資質・能力の構造化等に関する検討のポイント

1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

- **社会のDX化や生活環境の変化への対応と生活文化の継承等の必要性を両立しつつ、複雑化・多様化する社会や生活を多角的に捉え、主体的によりよい生活を創り出すために適切な判断をする力の育成を重視した教育課程の改善を検討**
- こうした視点を踏まえ、「高次の資質・能力」については、**知識及び技能を生活の中で生かす具体の姿や、思考力、判断力、表現力等が育成された児童生徒が実生活において、課題解決を通して自分の生活を実践する具体の姿を明記する方向で検討**
- 家庭科全体の系統性を一層分かりやすく示す観点から、領域構成の見直しを検討

(現行)	A 家族・家庭生活	B 衣食住の生活	C 消費生活・環境	D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 ※高のみ		
(改善案)	A 家族・家庭と生涯 発達	B 生活の経営と消費 生活	C 食生活	D 衣生活	E 住生活	F 総合生活実践 ※高・家庭総合のみ

※「家庭総合」においては、A領域からE領域を貫く現代的な諸課題に関する問題解決的な学習を行う領域として、新F領域（「総合生活実践（仮称）」）を構成することとして検討

- 高等学校については、**以下のように、科目の役割を明確化。**

(新・家庭基礎)

- **自らの生活を営み、家庭や地域の生活を支える力を育成する科目**
- **科学的根拠に基づく知識を基礎的に理解し、実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活に向けて、生活上の課題を適切に捉え、改善のために判断し、実践する力を育成する**

(新・家庭総合)

- **家庭基礎で培う力に加え、多面的に生活を捉え、家庭や地域の生活を向上させる力を育成する科目**
- **科学的根拠に基づく知識を総合的に理解し、領域を貫く現代的な諸課題について問題解決的な学習を通して、よりよい生活に向けて、生活上の複合的な課題を適切に捉え、改善のために判断し、実践する力を育成する**

- 家庭については、知識及び技能の系統性が明確であり、個々の知識及び技能と一体的に育成する思考力・判断力・表現力等を示すことが授業改善に繋がることから、**「並列パターン」での構造化を検討**

(家庭WG)「高次の資質・能力」の設定の趣旨や授業改善に向けたねらい【並列】

① 衣生活・食生活・住生活など、学習の対象となる生活事象ごと（＝改善後の領域ごと）に高次の資質・能力を設定し、教師が題材を構想しやすい抽象度となるよう工夫した。

② 統合的な理解では、領域における学習内容の本質を端的に示しつつ、それらを自分や家族、地域の人々のよりよい生活の実現と結びつけて理解する姿を示す。これにより、衣食住や家族・家庭、生活のマネジメントといった生活を取り巻く諸要素に係る知識を散発的に身に付けるのではなく、それら諸要素を学ぶことの本質的な意義を捉えつつ、自らの生活に対する価値基準を見直したり、学習したことをもとに自己や他者の生活をどのようによりよくできるのかに気づくことができるような授業デザインを促す。

中学校	C 食生活（仮称）	
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	統合的な理解	総合的な発揮
	<u>地域の食文化に親しみ、健康で安全な食事を継続していくことが、自分の生活をよりよくすることにつながることを理解する。</u>	<u>自分の食生活上の課題を見だし、自立に向けて健康・安全で食文化を大切にしたいよりよい生活を工夫し、創造することができる。</u>
	内容項目例	
<ul style="list-style-type: none"> 中学生の栄養の特徴と健康によい食習慣 栄養素の種類と働き、食品の栄養的特質 中学生の1日分の献立作成の方法 食品の選択や保存、調理（焼く、煮る、蒸す、生肉・生魚の扱い）の仕方と調理計画、地域の食文化と和食の調理 	<ul style="list-style-type: none"> 健康によい食習慣について考え、工夫すること 中学生の1日分の献立について考え、工夫すること 日常の1食分の調理について、食品の選択や調理の仕方、調理計画を考え、工夫すること 	

※家庭科における「よりよい」とは

家庭科の学習では、経済性・利便性・客観性といった外在的基準ではなく、児童生徒一人一人の価値基準に基づいて生活を見つめ直すことが重要である。その際、「以前よりよくなった」という一時的な改善にとどまらず、「さらによりよくなりたい」という意欲をもち、実生活において主体的に生活の質の向上を目指す姿勢を育てる必要がある。そのためにも、学習した知識及び技能が生活の向上につながるという期待感をもたせるとともに、実践を通して改善の効果を実感することを積み重ねることが求められる。さらに、実践と振り返りを通じて新たな視点や価値に気づき、「何をよりよいとするか」という自らの価値基準そのものを見直し、広げていくことも重要である。

こうした経験の積み重ねにより、児童生徒が自ら生活の改善を重ねながら、自身の考えや価値を問い直し、より豊かな生活を求め続ける姿の育成を目指す。

③ 総合的な発揮では、実生活において、自分や家族、地域の人々の生活上の課題に気づき、よりよい生活の実現のための課題解決に向けて、工夫したり、創造したりする姿を示す。これにより、製作や実習をただこなすのではなく、その中で生活上の課題発見・問題解決を促す授業づくりを促進。

💡 (生活科) 資質・能力の構造化等に関連する検討のポイント

1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

- AI技術の進展により、情報の獲得や処理は容易かつ効率的になり、知識の量や正確さのみを求める学びの在り方は、その意義を相対的に低下させつつある中、身体を通して対象と直接関わる体験を通じて得た情報を自らの経験と結び付けて理解し意味付けていくことは、これまで以上に重要となっている
- こうしたAIによって代替することができない「実感を伴う知」を育み、「深い学び」を実装する人間的な学び方を体得する教科として、生活科の本質的意義を以下の4つで整理し、それらを踏まえて教育課程を改善する方向で検討

① 身体性 — 身体で世界を捉える（実感）

② 対象と自分との関わり — 身近な世界に働きかけ、気付く（好奇心・探究心）

③ 他者と自分との関わり — 他者の思いや願いを尊重し、共に生活する（協働性・共感）

④ 自己認識 — 自分という存在に気付く（主体性・自立性）

- 以上の意義を踏まえると、生活科の「内容」については、知識及び技能と思考力・判断力・表現力等を分節的に規定することで学習活動が個々の身体を通じた具体的な活動から離れて設定されてしまうことを避ける必要があることから、生活科の構造化については、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を一体として記載する方向で検討（資質・能力の3つの柱に分けて内容を示さない現行の方針を継続）

2. その他の検討のポイントについて

- 幼小接続に関し、過度な負担を抑えつつ「スタートカリキュラム」の質の向上と実質化を図る方策について議論。スタートカリキュラムの多様なモデルを国として示すことや、「スタートカリキュラム」と「架け橋期のカリキュラム」の関係性をわかりやすく整理（架け橋期のカリキュラムを5歳児のカリキュラムと1年生のカリキュラムの総称と整理し、スタートカリキュラムと別々に作成するものではないことを明確化）しつつ、幼児教育施設が作成した「対話のための資料」等を基に、幼児教育施設と学校が地域の実態に応じて対話を通じた共通理解と取組の改善を図ることを促す方向で議論。

(生活WG) 「高次の資質・能力」の設定の趣旨や授業改善に向けたねらい【独自】

① 生活科は、具体的な活動や体験を通して資質・能力の3つの柱を一体的に育成するため、資質・能力を分けて記載しないこととしており、高次の資質・能力についても、統合的な理解と総合的な発揮に分けず、一体的に記載。

現在でも、9項目の内容を共通性のある大きなまとまりとして、3つの階層で分類しており、階層毎に高次の資質・能力を設定。

② 学習を通じて「気づきを深める」ことを共通で示している。生活科の学びでは、単に具体的な活動や体験の楽しさで終わってしまうのではなく、その中で生まれる気づきを基に考えたり、表現したりすることで、新たな活動に結びつけていくことが重要であり、そうした授業改善に繋げていく。

このような体験と表現の往還の詰み重ねが、学習活動の質を高め、その後の学習や生活への意欲と工夫を生み出すと考えられる。

	学校、家庭及び地域の生活に関する内容	身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容	自分自身の生活や成長に関する内容
	高次の資質・能力	高次の資質・能力	高次の資質・能力
	学校、家庭及び地域との関わりの中で、自分の生活が支えられていることへの 気づきを深め 、それらに 親しみや愛着をもって行動 できる。	身近な人々、社会及び自然との触れ合いの中で、自分のよりよい生活につながる ことへの気づきを深め、生活を楽しむ ようすることができる。	これまでの生活や学びを通じた自分の成長の振り返りの中で、他者への感謝や自分のよさ、可能性への 気づきを深め 、 意欲的に生活 できる。
小学校	内容項目例	内容項目例	内容項目例
	(1) 学校と生活	(4) 公共物や公共施設の利用	(9) 自分の成長
	(2) 家庭と生活	(5) 季節の変化と生活	
	(3) 地域と生活	(6) 自然や物を使った遊び	
		(7) 動植物の飼育・栽培	
		(8) 生活や出来事の伝え合い	

③ 生活科では、自発的・能動的に対象に関わるとともに、学習過程において対象に対して**楽しさ・親しみ**といった肯定的な心情を育み、**自分自身の生活や学習に意欲的に取り組む**ことも重要。高次の資質・能力においてそれらを明確に位置づけ、**教師が児童の肯定的な心情を育む授業を構想**することを促す。

① (総合WG) 資質・能力の構造化等に関連する検討のポイント

1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

- 各学校において目標や内容を定めるといふ総合の特質を維持することとした上で、探究の幅の広がりや質の向上の方策を多角的に検討。
- 探究の「質」を課題の質、プロセスの質、成果の質の3つの視点で具体的に整理しつつ、それらを踏まえて探究の質を各学校段階で徐々に高めていくことができるよう目標を見直し
- 小学校総合については、企画特別部会の論点整理を踏まえ、「探究の領域」と「情報の領域」の2領域を設定。小学校総合の情報の領域についてのみ内容を具体的に定めることとし、企画特別部会の論点整理も踏まえ「①情報技術の活用」「②適切な取扱い」「③特性の理解」の3つの視点で内容及び高次の資質・能力を検討

2. その他の重要論点について

- 「情報の領域」については情報技術に関する基礎的な内容を学ぶ小さなまとまりである「情報ブロック」と、情報活用能力の諸要素を学びながら、探究のプロセスで活用する小単元である「ミニ探究ユニット」で構成し、これらが探究の領域を基盤として支えるとの考え方を整理
- 探究の「質」のうち、特に企画特別部会でも論点となった「課題設定の充実」については、体験や経験を通して生まれた興味・関心や問題意識を、探究の過程で課題として洗練していくこととしつつ、課題設定の質の向上に向けた具体的な方策を検討
- 評価について、細かな評価場面の設定や材料の収集を求めず、目標に照らした一貫した視点で、児童生徒それぞれの成長に着目して評価する考え方を検討
- 併せて、教育課程全体として余白を生み出す必要性も踏まえ、全体計画等に記載する事項の精選等について議論
- 探究テーマの偏りや、個人の興味・関心が十分に考慮されない例が見られること、探究の態様によって想定されるプロセスが異なるといった実態が見られる中、標準的な探究のプロセスだけでは様々な探究を捉えられないといった指摘等を踏まえ、多様な探究の在り方について、「研究系」「行動系」「創作系」の要素のグラデーションや、課題設定に関わる教師と学習者の裁量に着目した「テーマ探究」「マイ探究」のグラデーションから成る参考資料を示すことを検討

(総合WG) 「高次の資質・能力」の設定の趣旨や授業改善に向けたねらい【並列】 (小学校・情報の領域)

- ① 内容を具体的に定める小学校の「情報の領域」についてのみ「高次の資質・能力」を設定。
- ② 新たな情報活用能力の枠組みである「(1)情報技術の活用」「(2)適切な理解」「(3)特性の理解」の構成を踏まえ、**「(3)特性の理解」をもとに、「(2)適切な取り扱い」や「(1)効果的に活用」につなげていくことを表現。**

- ② 「情報の収集、整理・分析、まとめ・表現などに」とすることで、情報活用能力そのものが有する**「探究」の基盤としての特質を明確にし、課題を発見し、解決していくプロセスにおいて発揮される力**であることを表現。これにより、情報機器の使い方を単に学ぶような授業ではなく、それらを**探究的な学習に実際に効果的に活用していくような授業づくりに繋げる。**

- ③ 「デジタル社会における様々な課題を解決できる」とすることで、**「情報の領域」が「探究の領域」を支えることはもちろん、これに留まらず、各教科等の学びや、学校を越えて「デジタル社会」そのものを子供たちが生き抜いていく上で必要な力を身につけていくことを明示。**これにより、**情報技術を活用して身近な課題を発見・解決するような授業づくりに繋げる。**

	情報の領域（仮称）	
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	統合的な理解	総合的な発揮
小学校	情報技術の 正負の側面を含む特性の理解 をもとに、 情報技術を適切かつ効果的に活用 することで、 デジタル社会における様々な課題を解決 できることを理解する。	情報技術の 正負の側面を踏まえ 、情報技術を 情報の収集、整理・分析、まとめ・表現などに適切かつ効果的に活用 して、 デジタル社会における身近な課題を解決 できる。
	内容項目例	内容項目例
	①情報技術の活用 ②情報技術の適切な取扱い ③情報技術の特性の理解	①情報技術の活用 ②情報技術の適切な取扱い ③情報技術の特性の理解

（特活WG）資質・能力の構造化等に関連する検討のポイント

1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

- 特別活動の意義・役割として「**確かな民主主義の担い手の育成や共生社会の実現にむけた基盤**」を提供する領域として、**よりよい社会を主体的に形成しようとする力を育む**ことを明確にした上で、「**学びに向かう力・人間性等**」を**実践的に育むことがとりわけ重視される特質**を有すると整理
- 特別活動は「**なすことによって学ぶ**」ことを方法原理とし、**資質・能力の3つの柱について「思考力・判断力・表現力等」を育む主体的・実践的な活動を通じて一体的に育てるという性質**があることを踏まえ、**内容は資質・能力を3つの柱に分けて記載するのではなく、思考・判断・表現の学習過程を中心に記載する形式として整理**（資質・能力の3つの柱に分けて内容を示さない現行の方針を継続）

2. その他の重要論点について

- 「**学びに向かう力・人間性等**」がとりわけ重視される特質や、国が示す評価の在り方と現場の実態との間の乖離への指摘等を踏まえ、特別活動については**資質・能力の三つの柱に分節した目標準拠評価は行わず、「思考・判断・表現」の過程で一体的に表出する「学びに向かう力・人間性等」について個人内評価を行うこと**とし、教師による評価としては、適時の声掛け・指導・支援等の形成的評価や、振り返りを通じての自己評価や相互評価を重視するなど、特別活動の特質を踏まえ、**資質・能力の育成に一層繋がる評価の在り方**についても検討
- 特別活動の思考・判断・表現の過程としての「**合意形成**」、「**意思決定**」の概念について、それぞれ「**納得解の創造**」「**責任をもった行動の選択**」として整理した上で、**プロセス**（大きくは①課題の設定、②発散、③収束、④実践・振り返り）**や相互の関係性**について検討
- **学級活動(1)～(3)**について、違いや考え方を明確化し、**シンプルで分かり易い記載に見直し**を行うとともに、項目数について、例えば**高校では12項目から9項目に見直す**など、**小中高の内容の系統性を一層高める等の観点から見直し**を検討

(特活WG) 「高次の資質・能力」の設定の趣旨や授業改善に向けたねらい【独自】

① 資質・能力の3つの柱で内容を記載しないことから、「高次の資質・能力」も一体で記載。
とりわけ「学びに向かう力・人間性等」が重視される特別活動の特質等を踏まえ、各活動における思考・判断・表現の過程と、その過程で表出が期待される「学びに向かう力・人間性等」を一体的に表現。

② 学級活動のなかでもとりわけ(2)(3)が個人の「意思決定」を対象としていることを分かり易く示す観点から、学習過程としての意思決定や、「初発の思考」として「自己の生活上の課題や興味・関心」に目を向けることを明示。

③ 「子供のより主体的な社会参画」の実装の観点から、生徒会活動において「協力して学校運営に関わる」こと、学校行事において（学校行事を）「主体的に創造する」ことを明示。

	学級活動（2）日常生活における自己の成長と健康安全、（3）将来に向けた自己の成長とキャリア形成
中学校	高次の資質・能力
	学級での話し合いを生かして自己の課題を解決したり将来の生き方を描いたりするために 意思決定して実践 することを通して、以下の資質・能力を育む。 ○ 社会との関わりでの 自己の生活上の課題や興味・関心 に目を向け、主体的に行動し現在及び将来の自己の生き方につなげようとする ○ 他者の視点を通じて、自己の価値観や思考を広げようとする ○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する
	内容項目例
	(2) ア 相互理解と尊重、よりよい人間関係 イ 生命尊重と思春期の悩み ウ 心身の健康と安全 エ 学校給食と食育 (3) ア 社会的・職業的自立と主体的な学習の調整 イ 勤労観・職業観と社会参画意識 ウ 進路の選択と将来設計
	生徒会活動
中学校	高次の資質・能力
	異年齢の生徒で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、 協力して学校運営に関わる ことを通して、以下の資質・能力を育む。 ○ 自他のよりよい生活づくりに向け、主体的に役割を見だし担おうとする ○ 身近な生活上の課題を解決しようとする中で、対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解を形成し、それらを不断に見直そうとするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる ○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する
	内容項目例
	(1) 生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営 (2) 学校行事への協力 (3) ボランティア活動などの社会参画
	学校行事
中学校	高次の資質・能力
	全校又は学年の生徒で協力し、学校生活に変化と活力を生み出し、よりよい学校生活に資する体験的な活動を 主体的に創造する ことを通して、以下の資質・能力を育む。 ○ 自他の学校生活の充実と発展に向け、学校行事の意義を踏まえて主体的に役割を見だし担おうとする ○ 計画・準備・実践・振り返りの過程における対立や葛藤を乗り越え、多様な個性や価値観を生かしながら、協働して活動を創造しようとする ○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する
	内容項目例
	(1) 儀式的行事 (2) 文化的行事 (3) 健康安全・体育的行事 (4) 旅行・集団宿泊の行事 (5) 勤労生産・奉仕的行事

（道徳WG）資質・能力の構造化等に関連する検討のポイント

1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

- 道徳科の目標について、人格そのものに働き掛け、道徳性を養うことを目的とする道徳教育の特質を踏まえ、引き続き、道徳科で育む資質・能力について、観点別の目標は定めないことと整理
- 道徳科の見方・考え方については、示すべき要素（教科等を学ぶ本質的な意義の中核）が目標に含まれていることから、引き続き、目標とは別に見方・考え方を示すことはしない方向で検討
- 高次の資質・能力については、道徳科の特質から「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」の深まりを観点別に可視化することに馴染まないことや、道徳科の内容項目は、児童生徒自らが道徳性を養うための手掛かりとなるものであり、育成すべき資質・能力を直接的に記載したものではないことを踏まえ、道徳科において高次の資質・能力は定めない方向で整理
- 内容の表形式化については、内容の全体構成を構造的に把握し易くする観点からの表形式化について検討

2. その他の重要論点について

- 今次改訂では、「『考え、議論する道徳』への転換」のフェーズから、「『考え、議論する道徳』の実装」のフェーズに移行することを検討の方向性とし、「読み物教材の登場人物の心情理解に偏った授業になりがち」「教科書の発問例に頼った授業など、型にはまった予定調和的な授業になりがち」といった課題を踏まえ、以下について検討
 - 道徳科における「深い学び」のイメージとして、①多面的・多角的な見方へと発展すること（多面化・多角化）、②自身との関わりで道徳的価値の理解が深まること（自我関与）を提示
 - 発達の段階を踏まえつつ、1つの教材を複数コマで取り扱うことで、「じっくりと深く学ぶ」道徳科の学びを一層推進（この中で、価値の対立を含む「問題解決的な学習」や「体験的な学習」等も推進）
 - 教師の指導力の向上等の観点から、留意点を示した上で、学校の実態に応じ、教師が交代で学年を回って授業を行う方策（「チームで行う道徳授業」）の導入が可能であることを明示



(情報・技術WG) 資質・能力の構造化等に関連する検討のポイント

1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

(共通的なポイント)

- AI・ロボット等の活用を担う専門的・技術的人材の将来的な不足への対応や、地方経済の維持・担い手不足の解消に向けたアドバンス・エッセンシャルワーカーの育成等の必要性から、すべての子供たちの情報活用能力の抜本的向上を図ることが、我が国の持続的成長を支えるために極めて重要という認識を確認
- 一方、生成AI等による偽・誤情報の拡散やフィルターバブル等のデジタルの特性が社会の分断を誘引・拡大し、民主主義を危険にさらすおそれもある現状を踏まえたデジタル時代の民主主義を担う力も必要
- これらの視点から、情報技術や生産技術の正負の側面に配慮しつつ、技術を使いこなして生活や社会をよりよくすることを重視した教育課程の実現に向けて検討（生活・総合WGと連携し、小学校総合の「情報の領域」との連続性も確保）
- 情報・技術科、情報科については知識及び技能の系統性が明確であり、個々の知識及び技能と一体的に育成する思考力・判断力・表現力等を示すことが授業改善に繋がることから、「並列パターン」での構造化を検討

(中学校 情報・技術科（仮称）)

- 小学校「情報の領域」を基礎とし、新教科「情報・技術科」には①情報技術に関連する内容を充実し情報活用能力の抜本的向上を図る、②情報技術も活用しつつ技術でものを生み出し生活や社会の問題を発見・解決する素養を身に付けるという二つの役割が求められることを踏まえ、「情報技術（仮称）」と「情報を基盤とした生産技術（仮称）」の2領域で内容を構造的に整理
- 各領域技術の知識や技能を相互に関連付けて活用するとともに、思考力・判断力・表現力等を総合的に発揮し、未知の状況でも課題解決できるようになる学習を抜本的に強化するため、内容項目「技術の統合（仮称）」の新設を検討

(高等学校 情報科)

- 小学校・中学校における教育の充実を踏まえ、AIやデータの扱い等をはじめとした学習内容の充実を図るなど、高等教育の数理・データサイエンス・AI教育等との円滑な接続などを踏まえた内容項目の再整理を検討
- 情報Ⅱについては、各学校のニーズに応じてAI・データ等の内容の一層の充実や、実社会の課題を探究的に解決する内容を充実させられるよう、一定の幅の範囲内で単位数を配当できるよう検討

2. その他の重要論点について

- 学習の基盤となる資質・能力である情報活用能力の体系性については、企画特別部会の論点整理を踏まえて「①活用」「②適切な取り扱い」「③特性の理解」の3つを基に資質・能力の全体像を整理
- 「メディアリテラシー」を情報活用能力の構成要素と捉え、情報モラルとともに「②適切な取り扱い」の一環として扱うよう検討。AIに関する内容は「AI自体を学ぶこと」、「AIを使って学ぶこと」に分け、学校段階ごとに体系的に整理するよう検討

(情報・技術WG)「高次の資質・能力」の設定の趣旨や授業改善に向けたねらい【並列】 (中学校情報・技術科)

①これまでの技術分野の学習は、木材加工や栽培、電子工作といった体験的な学習にとどまり、生活における活用や課題解決に結び付けて考える学習が十分でないという課題が指摘。

そこで、技術の仕組みを知る、技術を俯瞰して活用の在り方を考える、課題解決を実践するという学習過程を通して、生活の中で技術を活用し未知の状況での課題解決に生かす力の育成を図るような授業改善を促すよう高次の資質・能力を設定。

②統合的な理解では、当該技術によりできることやその技術が有している本質的な価値を端的に示しつつ、その趣旨に沿った技術活用が生活や社会における価値創造にどのようにつながるかを明示。

これにより、単に技術に関わる知識を覚えたり実習を通じて技能を磨くということにとどまらず、当該技術活用の有する価値や可能性を理解できるような授業づくりを促す。

③総合的な発揮では、技術に関しての統合的な理解を実際の生活や社会に適用して、できるようになってほしい技術を通じた課題解決の姿を端的に示す。これにより、現実社会における課題解決に近い題材を設定しつつ、将来の職業生活での実践的な力を育むような授業づくりに繋げていく。

なお、技術の正負の両面に目を向けることの重要性を踏まえ、当該技術が持ちうる負の側面への配慮等について冒頭に記載。

		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
		統合的な理解	総合的な発揮
中学校 情報技術(仮称) (2) 情報の表現とデジタル化(仮称)		情報技術により情報やデータから新たな関係や意味を見いだしたり、利用者の立場で情報を批判的に吟味・設計したりすることが、<u>分析結果や考えの分かりやすい表現につながる</u>ことを理解する。	情報技術の<u>正負の側面に配慮</u>しつつ、<u>情報やデータの分析結果を判断し表現</u>したり、利用者にとって分かりやすい<u>情報を批判的に吟味・設計・表現し、評価・改善</u>したりできる。
		内容項目例	内容項目例
		<ul style="list-style-type: none"> ユーザ視点の情報デザイン データの管理と活用、統計的な分析の方法 情報のデジタル化とAIの基本的な仕組み エコーチェンバー・フィルターバブルといったメディア特性が受信・発信に与える影響 偽情報・誤情報の判別や必要な情報の精査、著作権、肖像権などの権利 情報を加工する際の倫理的配慮、情報セキュリティ コンテンツによる問題解決の方法と技能 データやメディアを扱う技術と生活や社会、環境との関係の理解 	<ul style="list-style-type: none"> 情報を表現・生成する技術の仕組みや特性を踏まえた適切な取扱いを批判的に考え表現する 情報を表現・生成する技術の仕組みや特性を踏まえ、問題を見い出して課題を設定し、情報を加工することで解決する表現の手段を設計して表す 情報技術の正負の側面に配慮しつつ吟味し、その活用や創造を考える

(情報・技術WG) 「高次の資質・能力」の設定の趣旨や授業改善に向けたねらい【並列】

(高等学校情報科)

①情報科ではこれまで、教師による説明を中心とした座学的な授業が多く見られ、探究的・実践的な学びが十分に行われず、知識は習得しているものの、実際の課題解決の場面で十分に活用できないという課題が指摘されてきた。

知識や技能を実際の課題解決に活用できる力の育成を図るような授業改善を促す高次の資質・能力を設定し、深い学びの実現に期待。

②情報科の内容項目(※)は、情報技術の活用場面に即した手段(デザイン、データ活用、プログラミング…)で内容を構成。「高次の資質・能力」は、その内容項目ごとに設定しており、「統合的な理解」では、当該情報技術の活用手段や情報そのものがもつ本質的な意義を端的に示している。

これにより、単に用語や情報技術の内容を伝える授業ではなく、その意義や実生活・社会における活用場面を掴む授業づくりへの改善を促す。

③総合的な発揮では、情報技術や情報に関する統合的な理解を実際の生活や社会に適用して、できるようになってほしい課題解決の姿を端的に示す。これにより、現実社会における課題解決に近い題材を設定しつつ、将来の社会生活での実践的な力を育むような授業づくりに繋げていく。

なお、情報技術の正負の両面に目を向けることの重要性を踏まえ、情報技術が持ちうる負の側面への配慮等について冒頭に記載。

(※)内容項目		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
		統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	情報Ⅰ	<p>情報の受け手の視点に立ち、情報を吟味し、分かりやすく表現することが、受け手の円滑な理解や行動を促すことを理解する。</p>	
		内容項目例	内容項目例
		<ul style="list-style-type: none"> 目的・対象・文脈に応じた構造化された情報表現 人間中心設計の考え方 ユーザビリティ、アクセシビリティ 情報デザインに関するツールや技法 AIを用いた画像・音声生成の基本的な仕組みや特性、留意点 デザイン思考の考え方 プロトタイピングやフィードバックを通して、表現を改善していく方法 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の受け手や利用場面を踏まえて、適切な構造や表現方法を判断すること AIを活用し自らが意図した多様な形式の制作をすること デザイン思考の考え方を基に、試作やフィードバックを通して表現を見直し、改善の方向性を判断すること



(特別支援教育WG) 資質・能力の構造化等に関連する検討のポイント

1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

- 特別支援学校においては、知的障害の教科と高等部の専門教科について独自の内容を定めており、また各教科等のうち知的障害の小学部「生活」及び中学・高等部「職業」以外は、障害の特性等を踏まえつつ小学校学習指導要領や高等学校の産業教育の方向性を踏まえて検討することとしていることから、**現時点では、特別支援教育WGでは「生活」及び「職業」についてのみ構造化の方向性を検討**
- **小学部「生活」**については、具体的な活動や体験を通して、自ら考え判断し表現等をしていく中で、知識や技能を身に付けていくことを重視していることを踏まえ、**「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」をまとめて示すオリジナルの形式で示す**方向で検討
- **中学部「職業」と高等部「職業」**については、内容の系統性や情報活用能力育成の抜本的向上も踏まえ、**「A 職業生活」「B 情報機器・情報技術の活用（仮称）」「C 産業現場等における実習」の3つの領域で示す方向で検討**。その上で、個々の知識及び技能と一体的に育成する思考力・判断力・表現力等を示すことが授業改善に繋がることから、**「並列パターン」での6年間を通した構造化を検討**
※ 中学部の「職業・家庭」については、中学校での対応を踏まえ「職業」と「家庭」に分離する方向で検討
- **自立活動**については、各教科の資質・能力の育成を支えるという特質を踏まえ、教科等のように目標・内容を資質・能力の柱で示しておらず、選択可能な項目で内容を示しており、**高次の資質・能力をもとに構造化して示すことは馴染みにくい**が、**教師にとって分かりやすくなるよう内容を表形式で示す**ことを検討

2. その他の重要論点について

- **小・中・高等学校における障害のある子供たちに対する「重層的な指導・支援」の考え方に基づく支援の実施や、各学校段階の総則において過重な負担のない範囲内で合理的配慮の提供を促す関係規定を設けることなどを検討**
- 通級による指導において、**自立活動を取り入れること、困難さの状態に応じて特に必要な場合は、各教科の指導を行うことを可能**とすることや、**各教科の目標・内容の一部を障害の状態等を考慮したものに替えることを可能**とすることを検討
- **高等学校**において、将来的な制度的対応も見据えた研究開発的な視点から、**障害の状態等に応じた教育課程の編成・実施を必要に応じて可能とする新たな特例校制度**を検討

(特別支援教育WG) 高次の資質・能力の設定の趣旨や授業改善に向けたねらい【独自】

(知的障害 小学部 生活科)

領域	学校・家庭での基本的な生活習慣 (仮)	社会での人とのかかわり (仮)	社会や地域での暮らし (仮)	身近な自然やものはたらき (仮)
高次の資質・能力	<p>よりよい毎日の生活を送る上で必要となることを①考えて行動する中で、 ②衛生的で安全な規則正しい生活習慣を確立する力を身に付けることにより、 ③健康で自立した生活を送ることができる。</p>	<p>身近な人や社会と関わる上で必要となることを①考えて行動する中で、 ②社会で他者と円滑に関わる力を身に付けることにより、 ③人や社会とのつながりをもった生活を送ることができる。</p>	<p>社会や地域で暮らす上で必要となることを①考えて行動したり表現したりする中で、 ②きまりを守って社会資源を適切に利用する力を身に付けることにより、 ③秩序を保った共同的な生活を送ることができる。</p>	<p>物事を論理的に①考えたり、分かったことを表現したりする中で、 ②関心をもった事象に自ら働きかける力を身に付けることにより、 ③探究的な学びにつながる生活を送ることができる。</p>

① 生活科の学習では、具体的な活動や体験を通して、自ら考え、判断し、表現をしていく中で、知識や技能を身に付けられるようにすることが重要である。

そのため、児童が、**実際的な行動を伴って学べる場を適切に設定しながら、継続的・長期的かつ、らせん状に学びが深まっていく展望を描いた単元づくりや授業改善**を促す。

② 各領域の内容には様々な事項が示されているが、ここでは、**それらの事項の学習を通して実生活上での発揮が期待される、領域固有の力**を示している。

「清潔」「身なり」「身の回りの整理」など、それぞれの事項そのものの習得を一義的な目的とするのではなく、**各事項を関連付けながら衛生的な生活習慣を確立し、生活に生きる力を身に付けることができる単元づくりや授業改善**を促す。

③ 生活科の目標は、「自立した豊かな生活を送ること」である。

ここでは、「健康で自立した生活」のように、それぞれの**領域固有の「豊かな生活」の在り方**を示しており、各領域の資質・能力を身に付けることで、**もって「自立した豊かな生活」につながる単元づくりや授業改善**を促す。

※生活科の各内容は、それぞれの関連性を踏まえ、基本的な生活習慣や安全などの基本的な生活習慣に関する内容、遊びや人との関わりなどの生活や家庭に関する内容、中学部の社会科につながる社会のきまりや仕組みに関する内容、中学部の理科につながる自然事象に関する内容の大きく4つで整理し、単元づくりをしやすくしている。高次の資質・能力はこの整理に基づいた4つの領域ごとに設定している。

(特別支援教育WG) 高次の資質・能力の設定の趣旨や授業改善に向けたねらい【並列】 (知的障害 中学部・高等部 職業科)

一般的な職業に関する知識・技能の習得や特定の職業について考えることにとどまらず、それらを自分自身と職業及び社会との関係から捉えた上で働くこと（勤労）について考えることで、**生徒が自らの卒業後の生活を見据えることのできる単元づくりや授業改善を促す。**

情報機器・情報技術に関する指導を、職業に関する作業や実習において実際に指導し、卒業後の充実した社会生活や職業生活に結び付け、活用する力を育む単元づくりや授業改善を促す。

「A 職業生活」「B 情報機器・情報技術の活用（仮）」での知識や技能と、実習を通じて学習したことを関連させ、自己の社会生活・職業生活との関係から捉え直すことで、課題の解決や生活を工夫しようとする力を育む単元づくりや授業改善を促す。

A 職業生活		B 情報機器・情報技術の活用（仮）		C 産業現場等における実習		
知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮	
高次の資質・能力	働くことの意義や働くために必要な知識・技能についての理解を深め、 自己実現を図ったり社会の一員としての役割を果たしたりするために必要な力 を身に付けることにより、将来のよりよい職業生活につなげていけることを理解する。	よりよい職業生活を送るために、実際の場面において必要となる事柄を考えるとともに、 自分の長所や課題との関係から、工夫したり改善したり することができる。	情報機器・技術の効果的な活用の仕方や、適切な取扱い、特性の理解について、 将来の自立と社会参加につながる力として、理解する 。	情報機器・技術の活用を通して情報を集めたり整理したりして、自分の思いや考えを表すことにより、 将来の生活と結び付けた情報機器・技術の活用についての自分の課題を解決 することができる。	実践的な知識や技能に触れることを通して学習したことを、 自分の希望する職業や進路と関係付ける力 を身に付けることにより、自分の将来の職業や進路につなげていけることを理解する。	働く人と直接関わった経験を通して、 自分の成長や自己の進路について考えたり、考えを表したりする力 を身に付けることにより、自分の進路についての課題を解決することができる。

※職業科の内容は、「A 職業生活」「B 情報機器・情報技術の活用（仮）」「C 産業現場等における実習」の3つの領域で整理しており、高次の資質・能力はこの3つの領域ごとに設定している。



(産業教育WG) 資質・能力の構造化等に関連する検討のポイント

1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

- 市場環境が絶えず急激に変化する時代にあって、職業人として多様な課題に対応できる探究的・実践的な力を育成するための学びの積み重ねをできるようにしていくため、「指導項目」ベースで示されている現行学習指導要領を抜本的に見直し、「何ができるようになるか」の視点から資質・能力ベースに改める方向で検討
- 工業、農業といった各専門教科について、学びの深まりを意識した教育課程の編成が可能となるよう、各科目の整理（学ぶ内容の統合や精選、移管）を行いつつ、教科の各領域・分野における学びの体系を整理する方向で検討
- 全ての教科において、AIやデータサイエンスに関する内容、経営管理やビジネスに関する内容を充実しつつ、探究的・実践的な学びの深まりを充実させる観点から、従来「課題研究」に設けていた履修学年の規定を削除。その際、探究的な学びは自己の在り方生き方に関わる課題を自ら発見し、解決していくことが重要であることに鑑み、課題研究の導入段階で実社会・実生活に関わる課題を探究する活動を取り入れる方向で検討
- 産業界等との連携・協働が深まっていくことで、専門教科・科目における理論と実践を往還させた学びが一層可能となり、このことが専門教科の深い学びにつながることを整理。また、産業教育に共通する資質・能力を、各教科における原則履修科目に共通的に位置づけることを検討。

2. その他の重要論点について

- 総合的な探究の時間を「課題研究」で代替する場合、「課題研究」を専門高校におけるカリキュラム・マネジメントの中核の科目とすることを明示し、その際、共通教科も含めた各教科等で身に付けた資質・能力を活かしながら活動に取り組むこととして整理
- 総則に示す「専門教科・科目による必履修科目の代替」について、安易な代替を防ぐ観点から、同解説において配慮事項をさらに具体的に示すとともに、現在、解説に示している「情報Ⅰ」の代替に関する例示の記述を見直す方向で検討。

(産業教育WG) 「高次の資質・能力」の設定の趣旨やねらい

① 統合的な理解では、職業に関する教科であるからこそ、その学びが実社会・実生活にどのようにつながり、どのように活かすことができるのかという視点を特に重視。

② 総合的な発揮では、科学的根拠をもって考察する視点を重視。これにより、情報技術を活用し、データサイエンスやAI等を用いて科学的根拠を見だし、それをもとに課題の発見・解決に当たっていく授業づくりを促す。

③ 変化の激しい社会の中で、職業人として自ら主体的に判断し、新たな世界や社会を切り拓いていくことができるよう、合理的かつ創造的な課題解決の視点を重視。これにより、単に既存の技術の適用にとどまらず、課題解決に当たって創造的に新しいアイデアを生み出していくような学習活動の充実を目指す。

	知識及び技能 (技術)	思考力、判断力、表現力等
	統合的な理解	総合的な発揮
原則履修科目 (基礎的な科目) (1) 各産業の社会的な意義や役割	産業を継承・発展・創造していくことが、 私たちの暮らしをよりよくすることにつながる ことを理解する。	これからの我が国の各産業の在り方に関する課題を発見し、それらを取り巻く諸問題や今後の可能性について、 科学的な根拠に基づき、合理的かつ創造的に構想 することができる。
(2) 各教科で学習する内容の概括	各産業分野に関する知識や技能を高めていくことが、 よりよい産業の継承・発展・創造につながる ことを理解する。	各産業の各分野に関する課題や成果を発見し、それらを 科学的な根拠に基づき、合理的かつ創造的に解決、検証 することができる。
(3) 教科全体を通じた実践的・探究的な学習	既習事項を活用したり、多様な他者と連携・協働したりすることで、 未知の課題に直面しても創造的な解決につながる ことができることを理解する。	既習事項を比較したり、結び付けたりすることや、課題の解決に向けて計画したり、発信したりすることで、 合理的かつ創造的に解決に向けた選択 を行うことができる。



各教科等以外のWGにおける 検討のポイント



(幼児教育WG) これまでの検討のポイント

1. 内容の改善、指導と評価の充実

- 施設類型を問わず、いずれの幼児教育施設（幼稚園、保育所、認定こども園）においても、質の高い幼児教育により資質・能力が育まれるよう、直接的・具体的な体験を一層充実する方向で検討。
- 内容の改善については、小・中・高等学校における教育課程の変革を支える基盤的役割を果たすため、言葉を用いて考える力や他者と関わり協同する力の一層の育成、遊びの中で様々な動きを行う体験の充実と身体感覚を養う指導の充実に向けて、議論されている。
- いずれの施設類型の幼児教育施設においても、指導の改善が図られるよう、乳幼児理解に基づいた評価を行う方向で検討。その際、乳幼児の姿から、遊びの中の「学び」を見取る視点をもつことを重視することが議論されている。

2. 幼児教育と小学校教育との円滑な接続

- 幼児教育施設と小学校において、対話を通じて互いの教育への共通理解を図り、幼児教育と小学校教育の学びのつながりを意識した実践の改善を図ることにより、それぞれの専門性を発揮した教育の互恵的な充実を図る方向で検討。
- 「架け橋期のカリキュラム」の作成に当たっては、幼児の姿から遊びの中の「学び」を見取り、幼児教育で育まれた資質・能力を小学校の各教科等の学習にどう生かすことができるかという視点から、「対話のための資料」作成・共有するなどし、これを活用して、幼児教育施設と小学校の両者が、実践の改善に向けて学びのつながりを考えることを重視することが議論されている。

※このほか、資質・能力の在り方、特別な配慮を必要とする乳幼児への指導や支援の改善充実の在り方、家庭や地域との連携・支援の在り方などについても、検討。



内容の改善・充実の方向性（案） 3～5歳児

- ◆ 幼児教育は、幼児期の特性を踏まえ、**環境を通して行うもの**であることを基本としており、**幼児の自発的な活動としての遊び**を通して資質・能力が育成されるよう、全ての幼児教育施設において、**遊びの中で様々な人やものと直接的・具体的に関わる体験が一層充実されることを改善・充実の根幹とすべきではないか。**
- ◆ その上で、小・中・高で育成を目指す資質・能力の基礎を培う観点から、「**学びに向かう力、人間性等**」のみならず、「**知識及び技能の基礎**」、「**思考力、判断力、表現力等の基礎**」を一体的に育む改善・充実をどのように図っていくか、別途、具体的に検討すべきではないか。
- ◆ 特に、論点整理等で指摘されたことを踏まえ、**以下の④～⑥について、下記に示すとおり改善・充実を図ってはどうか。**

④ 言葉を用いて思考を深めていく指導の充実

補足イメージ①

- **遊びの中での直接的・具体的な体験を通して、実感を伴って言葉を身に付けていくことが、言葉を通じた概念の習得や深い意味理解につながることから、個別の単語の習得に終始するのではなく、幼児が言葉を手掛かりに自分を取り巻く世界（モノ・ヒト・コト）を理解しようとすることの重要性を再確認すべきではないか。**
- **思考力の芽生えが培われるよう、自分の表したい・伝えたい考えを言葉で表現する中で、先生の援助（言葉を添える、代弁する、視覚的資料等を合わせる等）を受けながら、更に考えようとして言葉を用いる指導の充実を図ってはどうか。**
- **その際、技能的な伸長ではなく、遊びや生活をより楽しく面白くするために、言葉を用いて自分の考えがまとまったり深まったりすることへの喜びや満足感等を十分味わうことに重点を置くべきではないか。**

⑤ 他者と関わり協同する力の育成に向けた指導の充実

補足イメージ②

- **多くの他の幼児や先生とともに過ごす、園という身近な社会において、自分とは異なる他者と関わり、他者とともに目標を形成し、その目標に向かって協同していく力の育成を目指し、指導の充実を図ってはどうか。**
- **その際、自分とは異なる他者への寛容を基に、思いや考えを伝え合い、葛藤やつまづきをも体験しながら、自他を尊重し、幼児なりのルールや納得解を形成するなどして、園内の身近な社会の一員として遊びや生活を作っていくことを通じて、当事者意識と社会参画意識の芽生えが育まれることが重要ではないか。**

⑥ “様々な遊びの中で”多様な動きを行う指導の充実

補足イメージ③

- **“幼児の自発的な活動としての遊びの中で”多様な動きを体験することの重要性と、そうした体験を通して身体感覚を養うことを踏まえた指導の充実を図ってはどうか。**
- **幼児期からの運動習慣の形成を図るため、領域「健康」等における指導に加え、文部科学省・スポーツ庁、自治体等が行う幼児の運動促進のための取組を活用するなどして、1日の生活全体の中で、幼児が自発的に体を動かして遊ぶ機会を充実することが重要ではないか。**

幼児教育と小学校教育との接続の改善に向けた論点(案)

◆ 全ての幼児教育施設において、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく幼児教育の質の向上を図るために、どのような方策が考えられるか。特に、「学びに向かう力・人間性等」のみならず、「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」を一体的に育む指導の改善・充実や、個別の知識や技能の習得のみを目的とした指導、特定の知育プログラム等に従った指導ではなく、自発的な活動としての遊びを通しての総合的な指導による資質・能力の育成に向けて、どのような方策が考えられるか。

(例)

- ・幼児教育センター等を活用した幼児教育アドバイザーの派遣や研修の充実による、環境を構成・再構成する具体的手立てについての理解促進
- ・各地域における、次期要領・指針の趣旨を踏まえた、幼※・小・中・高の一貫性のある教育方針の作成と、地域一体となって幼児教育と小学校教育との接続に取り組む体制の構築 → 小学校との縦の繋がりを軸として、幼児教育施設同士の横の繋がりを構築し、教育の質の向上を図る。

※幼：幼稚園、保育所、認定こども園

◆ 各地域において、幼児教育と小学校教育との接続の重要性・必要性の理解が促進され、幼児教育施設と小学校とが連携し、幼児教育の学びと小学校教育の学びとが円滑に接続するために、どのような方策が考えられるか。

(例)

○幼児教育の学びと小学校教育の学びの接続のための取組

- ・合同会議や合同研修、保育・授業の相互参観等を通じた互いの教育への共通理解（「環境を通して行う教育」と授業改善の方向性の趣旨の一貫性の理解を含む）の促進とそれに伴う専門性を発揮した教育の互恵的な充実
- ・園・校が、育みたい資質・能力（期待する子供像）等を共有（「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとした話し合い含む）し、架け橋期（5歳児から小学校1年生までに2年間）のカリキュラムを協働して作成
- ・幼児教育の学びと小学校教育の学びとの繋がりを踏まえた指導の工夫についての資料等の作成・周知

○持続可能な連携体制づくりのための取組

- ・自治体による行政的支援（方針の策定、連携のための会議の設置、園・校間の調整や助言を行う架け橋期のコーディネーターの育成・配置、マニュアルや取組事例集等の作成など）
- ・園・校における組織的・計画的な体制づくり（接続担当に関する業務分掌の明確化、引継ぎ体制の確保、接続に関わる取組の年間計画への位置付け）

○その他の取組

- ・園・校における取組の発信による、保護者の小学校就学への不安解消や幼児期及び幼保小接続期の教育への理解・協力を促進

<幼児教育と小学校教育との接続の重要性・必要性>

- ・幼児教育施設と小学校とが、互いの教育の良さを理解し、自らの実践に取り入れたり、学びの連続性を意識した実践を行う等の改善が図られる。
- ・スタートカリキュラムの導入・改善も含め、幼児教育施設と小学校とが共に学びや生活の連続性を意識した取組を行うことで、幼児教育施設・小学校間の段差の解消が進み、小学校の学習や生活への円滑な移行が促される。

など

(参考：「幼保小の架け橋プログラム」の成果) **補足イメージ⑦**

- ・「幼保小の架け橋プログラム」事業の採択自治体においては、その他の自治体に比べて、接続に取り組んでいる中で改善された小学校の課題（主体性を発揮する児童の姿の増加、友達と協働的に関わる児童の姿の増加、登校渋りの児童の減少）を選択する割合が高かった。
- ・接続の取組を通して、自身の子供への関わりや指導方法に変化があったと回答した学級担任等の割合は、幼児教育施設で約70%、小学校で約76%であった。

幼児教育と小学校教育との接続の改善に向けた論点（案）

- ◆ 幼児教育と小学校教育との円滑な接続を図る具体的方策の一つとして、全ての幼児教育施設と小学校において、育みたい資質・能力（期待する子供像）等を共有し、「架け橋期のカリキュラム」が協働して作成されるようにするため、どのような方策が考えられるか。
- ◆ また、「架け橋期のカリキュラム」の作成に当たっては、幼児教育と小学校教育との学びの繋がりが子供達の資質・能力の一層の育成に資するよう、幼児教育と小学校教育のそれぞれの専門性を発揮した教育の互恵的な充実を図ることが重要ではないか。
- ◆ 幼児教育施設及び小学校に過度な負担を生じさせないよう留意する必要があるが、そうした観点を踏まえてどのような方策が考えられるか（小学校の調整授業時数制度における「裁量的な時間」の活用を含む）。また、複数の園と複数の小学校が関係する場合など、生じる課題への対応をどのように考えるか。

＜学びの繋がりを踏まえた、幼児教育と小学校教育の互恵的な充実を図る取組のイメージ＞

- ① 幼児教育施設において、幼児の自発的な遊びを通してどのような資質・能力が育まれているか、幼児の姿を通して見取る。
- ② ①で見取った資質・能力について、小学校の各教科等の学習にどのように生かすことができるかという視点から資料を作成・共有するなどし、対話を通じ共通理解を図る。

【対話する際の共通の教育的視点の例】

- ・ 幼児教育・小学校教育のそれぞれの考え方や指導方法等
- ・ 育みたい資質・能力（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」）
- ・ 教育の内容（5つの領域、各教科等）
- ・ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

- ③ 架け橋期のカリキュラムを幼児教育施設と小学校とで協働して作成。

【幼児教育施設】

- ・ 遊びを通して一体的に育まれた資質・能力が小学校の各教科等の学習にどのように繋がるかを捉え直し、5歳児のカリキュラムの充実や環境構成の工夫を考える。

【小学校】

- ・ 幼児教育施設において育まれた資質・能力をどのように各教科等の学習に生かせるかを捉え直し、スタートカリキュラムの工夫や各教科等の指導の充実を考える。

- ④ 架け橋期のカリキュラムを基に、各園・校において、具体的な指導計画（年、学期、月、週、日などの指導計画）を作成して実践を進める。

どのような資質・能力が育まれているかを記載

対話のイメージ



幼児教育施設と小学校の対話のための資料（イメージ例）③（その1）

代表エピソード（3歳児）：「電車の荷台に2個ずつ泥だんごを乗せたい」

〔背景や教師の願い〕

電車などの乗り物が好きな子供が多く、教師は好きなものに思いをもちながら遊ぶことを楽しんでほしいと願い共に遊ぶようにしていた。E児、K児は砂場にある木製の電車のおもちゃに興味を持ち、長くつなげることや友達とつなげた長さを比べることや「連結した！」と言って1本の長い電車を作ることなどを楽しみ、いろいろなことを試しながら遊ぶ姿があった。

一方、保育室の前で私（教師）と女児数名で、大きいものや子供の手のひらぐらいの泥だんごを作って遊んでいた。保育室の前で作って遊ぶことでいつでも他児が参加できたり、すぐに手が洗えたりするので、安心して遊べていた。すると、E児とK児が「ガタンゴトーン」と木製の電車を走らせ、こちらに来て、私から作った泥だんごをもらい、荷物台のところに乗せ走らせることを楽しみ始めた。その日の、片付け時にはもらった泥だんごを大事に置いておき、次の日もその泥だんごを木製の電車に乗せて遊ぶ姿があった。

〔数的な学びの芽生えの姿を取り出したエピソード〕

先日楽しかった遊びを思い出し、私（教師）に「先生、今日もおだんご電車したいし、作って！」と言ってきた。その気持ちを受け止め、「分かった！また、はな組の部屋の前でおだんご駅して待ってるわ！」と答えた。私は女児たちと一緒に泥だんごづくりを楽しみ、先日の木製の電車の遊びの姿から子供が持ちやすい大きさが荷物台に乗せやすいのではないかと思い、全部同じぐらいの大きさを泥だんごを作っていた。すると、連結が外れないように見ながら、ゆっくりと木製の電車を走らせたE児とK児がやってきた。

K児が「おだんごださーい！」と私に言ってきた。「はい。できましたよー！ここはおだんご駅です！」と言うと停車した。E児は荷物台のところにできた泥だんごを入れ「ここほら、2つずつ入る」と言い、2つずつ積み始めた。「ほんまやなー！」と私が共感すると、K児も「Kちゃんも2つずつ入れるー」と言って積み始めた。2人とも長い電車であったため、つきた泥だんごはすぐになくなった。E児とK児が「もっと作って」と言ったので、また作り始めた。できた泥だんごをすぐに積み2人で分け合っていた。E児が「あ。あと1つ。ここほら！」と荷物台の空いているところを指さして私に言ったので、1つ作って渡すと、E児は最後の1つを乗せた。すると、指さして「1、2、3、…15！」と泥だんごの数を数えた。本当の数とは一致していなかったが、たくさんあると感じたのか嬉しそうに電車を出発させた。K児の後ろを追いかけながらE児も電車を走らせ後ろにつながったときには、「連結した！」と言ったり、横に並んだときには「どっちが長い？」と比べたり、おだんごに乗せていることが嬉しかったのか、「ふふふん。おだんごいっぱいやなー」と言い合ったりなどしながら走らせては、その後も繰り返しおだんご駅のところへ来て、停車したりすることを楽しんだ。

〔考察〕

・E児とK児は木の電車を長くつなげて遊ぶことを楽しんでいて、それだけでも十分楽しんでいて、他の遊びとつながることで、E児とK児はより遊びを面白くしようとした。
 ・また荷物台のところに泥だんごを乗せるときには、実際に様々な大きさの泥だんごを乗せてみたり、泥だんごの大きさと荷物台の空間を感じたりすることで、2個ずつ乗せられることに気が付いた。そして、同じ大きさの泥だんごを作ったことで2個ずつ入れることを規則にしていた。目で追ったり指さしをしたりして全荷物台に乗っていることを確認し、視覚的に1つ足りないと感じたE児は、あと1つ入れることで、全部の荷物台に泥だんごを入れたことを嬉しく感じていた。遊びの中での実現したい思いから、足りなかったら不足分を足すことを経験できた。またE児、K児は共に長い電車を作りたい思いをもって遊んでいたため、全荷物台に泥だんごを乗せたいと思い、より数に関心をもてたのではないかと推察される。（数への興味・関心）（気付く）（比べる）

・3歳児の発達段階では、数が多いとものと数を完全に一致させて数えることはできていなくても、数えることで、たくさん泥だんごがあることを感じていた。自分の願いを実現させたい思いから、数に興味を感じ、気付き、操作する経験を幼稚園生活ではたくさんしている。このことによって、様々な感覚が豊かになっていくのであろうと思った。

〔環境構成のポイント〕

・自分たちの保育室からは少し離れたところに砂場があるので、保育室の前で泥だんごづくりの環境を作った。教師のところにも行きやすいことや「やってみよう！」と思ったときにいつでもすることができ、子供たちにとっても安心感があった場所であったと思う。（安心安定の環境）

〔教師の援助のポイント〕

・遊びが繋がってきて繰り返し遊ぶことでより楽しむようになってきた。少しずつ、場所を変化させたり、面白く思っていること（おだんごの大きさ）を継続させたりできるように援助をしていく。

〔エピソードから見られた数的な学びの芽生えキーワード〕

荷台に2個ずつ入れる（規則性）泥だんごの個数を数える。

幼児教育施設と小学校の対話のための資料（イメージ例）③（その2）

幼児教育施設において、幼児の遊びの中で見られた数学的学びの姿に関するエピソードを小学校の視点で表にまとめたもの。

学びの姿と数領域から見た数的事例一覧表

	3歳			4歳			5歳			
	感じる 気づく	試す 比べる 分類する	実現への必要感から遊びや生活に取り入れる	感じる 気づく	試す 比べる 分類する	実現への必要感から遊びや生活に取り入れる	感じる 気づく	試す 比べる 分類する	実現への必要感から遊びや生活に取り入れる	
A 数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ・飾り物の片付けから数字に興味をもつ(10)5月 ・数字を数えて待つ(15)5月 ・友達にカードの数字を教える(20)2月 ・リズム遊びで数を体験的に感じる(17)4月 	<ul style="list-style-type: none"> ・「かたれんぼをする中で、友達の数に気づく(14)9月 ・ピニールシールが1つ足りないことに気づく(18)7月 ・かいたりつづけている中で大きさを覚える(16)11月 ・遊びを通して親を感じ(29)9月 	<ul style="list-style-type: none"> ・靴の数を自分で数え(16)10月 ・靴の数を自分で数え(16)10月 	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い場の手洗いの手順の数字をみながら、うがいをする(2)9月 ・水筒の中の水量の数を数える(6)5月 ・土づくりをする友達の数を変える(5)5月 ・かたべの競技をして人数の多少で勝敗が決まることに気付く(10)10月 ・数を通して数を感じる(11) ・絵本を通して数に親しむ(12)10月 	<ul style="list-style-type: none"> ・積み木の穴の数を数え(20)11月 ・手組の数字と数字の数を対応させる(24) 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ形の積み木を集めて遊ぶ(19)11月 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ステーション」の整理から数字や量を感じ、分類を楽しむ(5)4月 ・「かえり箱」から距離や高さへの関心をもつ、試行錯誤をする(6) ・お土産の数字と書きの人数の対応(16)11月 ・ポイントカード作りを通して数に親しむ(18)12月 ・ひな人形作りを通して、数に興味関心をもつ(23)2月 	<ul style="list-style-type: none"> ・「すごろく」遊びを通してサイコロの目を覚ましていく(20)1月 ・数字の形の特徴に気づく。数字の大きさがはつきりかわかる(22)1月 ・当番の人数と違う数字の対応を、引き算の算体験をする(25) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「しほり」の数の指示や数字を教える。数に親しむ(13)10月 ・「すごろく」遊びを通してサイコロの目を覚ましていく(20)1月 ・数字の形の特徴に気づく。数字の大きさがはつきりかわかる(22)1月 ・当番の人数と違う数字の対応を、引き算の算体験をする(25) 	
B 量と測定	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ種類のおもちゃから大きさを覚える(10)5月 ・「ブル」の中で思い切り遊ぶことで水量を感じる(11)7月 	<ul style="list-style-type: none"> ・色水遊びでペットボトルの水面の高さを覚える(9)6月 ・「たかきん」を高くする(12)2月 	<ul style="list-style-type: none"> ・砂場での水遊びを通して水の量を覚える(7)7月 ・量によって高さがある(実習ばかり)(15)11月 ・遊んでいると、うんていの上下の橋の幅に気づく(17)11月 	<ul style="list-style-type: none"> ・「おはな」の穴に水を入れて、水の量を覚える(7)7月 ・量によって高さがある(実習ばかり)(15)11月 ・遊んでいると、うんていの上下の橋の幅に気づく(17)11月 	<ul style="list-style-type: none"> ・「おはな」の穴に水を入れて、水の量を覚える(7)7月 ・量によって高さがある(実習ばかり)(15)11月 ・遊んでいると、うんていの上下の橋の幅に気づく(17)11月 	<ul style="list-style-type: none"> ・「おはな」の穴に水を入れて、水の量を覚える(7)7月 ・量によって高さがある(実習ばかり)(15)11月 ・遊んでいると、うんていの上下の橋の幅に気づく(17)11月 	<ul style="list-style-type: none"> ・「おはな」の穴に水を入れて、水の量を覚える(7)7月 ・量によって高さがある(実習ばかり)(15)11月 ・遊んでいると、うんていの上下の橋の幅に気づく(17)11月 	<ul style="list-style-type: none"> ・「おはな」の穴に水を入れて、水の量を覚える(7)7月 ・量によって高さがある(実習ばかり)(15)11月 ・遊んでいると、うんていの上下の橋の幅に気づく(17)11月 	<ul style="list-style-type: none"> ・「おはな」の穴に水を入れて、水の量を覚える(7)7月 ・量によって高さがある(実習ばかり)(15)11月 ・遊んでいると、うんていの上下の橋の幅に気づく(17)11月 	<ul style="list-style-type: none"> ・「おはな」の穴に水を入れて、水の量を覚える(7)7月 ・量によって高さがある(実習ばかり)(15)11月 ・遊んでいると、うんていの上下の橋の幅に気づく(17)11月
C 図形	<ul style="list-style-type: none"> ・水たまりが乾くもの形に変わることを楽しむ(1)4月 ・積み木で遊ぶ中で図形に興味をもつ(4)5月 ・積み木で遊ぶ中で図形に興味をもつ(4)5月 	<ul style="list-style-type: none"> ・積み木の片付けから図形を感じる(5)5月 ・積み木で遊ぶ中で図形に興味をもつ(4)5月 ・積み木で遊ぶ中で図形に興味をもつ(4)5月 	<ul style="list-style-type: none"> ・積み木で遊ぶ中で図形に興味をもつ(4)5月 ・積み木で遊ぶ中で図形に興味をもつ(4)5月 	<ul style="list-style-type: none"> ・積み木の形が三角形や四角形と気づく(10)10月 ・積み木の形が三角形や四角形と気づく(10)10月 ・積み木の形が三角形や四角形と気づく(10)10月 	<ul style="list-style-type: none"> ・積み木の形が三角形や四角形と気づく(10)10月 ・積み木の形が三角形や四角形と気づく(10)10月 ・積み木の形が三角形や四角形と気づく(10)10月 	<ul style="list-style-type: none"> ・積み木の形が三角形や四角形と気づく(10)10月 ・積み木の形が三角形や四角形と気づく(10)10月 ・積み木の形が三角形や四角形と気づく(10)10月 	<ul style="list-style-type: none"> ・積み木の形が三角形や四角形と気づく(10)10月 ・積み木の形が三角形や四角形と気づく(10)10月 ・積み木の形が三角形や四角形と気づく(10)10月 	<ul style="list-style-type: none"> ・積み木の形が三角形や四角形と気づく(10)10月 ・積み木の形が三角形や四角形と気づく(10)10月 ・積み木の形が三角形や四角形と気づく(10)10月 	<ul style="list-style-type: none"> ・積み木の形が三角形や四角形と気づく(10)10月 ・積み木の形が三角形や四角形と気づく(10)10月 ・積み木の形が三角形や四角形と気づく(10)10月 	<ul style="list-style-type: none"> ・積み木の形が三角形や四角形と気づく(10)10月 ・積み木の形が三角形や四角形と気づく(10)10月 ・積み木の形が三角形や四角形と気づく(10)10月
D その他	<ul style="list-style-type: none"> ・水たまりの水の跡をぬりから砂を落とす高さを感じる(2)4月 	<ul style="list-style-type: none"> ・人と物の数から相関関係を感じる(20)1月 	<ul style="list-style-type: none"> ・人と物の数から相関関係を感じる(20)1月 	<ul style="list-style-type: none"> ・人と物の数から相関関係を感じる(20)1月 	<ul style="list-style-type: none"> ・人と物の数から相関関係を感じる(20)1月 	<ul style="list-style-type: none"> ・人と物の数から相関関係を感じる(20)1月 	<ul style="list-style-type: none"> ・人と物の数から相関関係を感じる(20)1月 	<ul style="list-style-type: none"> ・人と物の数から相関関係を感じる(20)1月 	<ul style="list-style-type: none"> ・人と物の数から相関関係を感じる(20)1月 	<ul style="list-style-type: none"> ・人と物の数から相関関係を感じる(20)1月

【典拠】平成28年度国立教育政策研究所研究指定校校種間連携京都市立伏見住吉幼稚園・京都市立伏見住吉小学校研究発表会資料より抜粋

(不登校WG) これまでの検討のポイント

1. 基本的な考え方

- 現在、校内外教育支援センター等で不登校児童生徒に対して行われている様々な学習活動の実態を十分に踏まえつつ、居場所機能のみならず、資質・能力の向上に繋がる柔軟で効果的な指導の実現を図るとともに、下学年の学習などを含め、不登校児童生徒の努力をできる限り価値づけ、社会的自立を後押しする視点から制度設計。以下の方向性を基にしつつ、具体的な運用の在り方については「手引き」を作成し、整理することとしている。

2. 具体的な論点についての方向性

【対象の児童生徒、教育活動、授業時数】

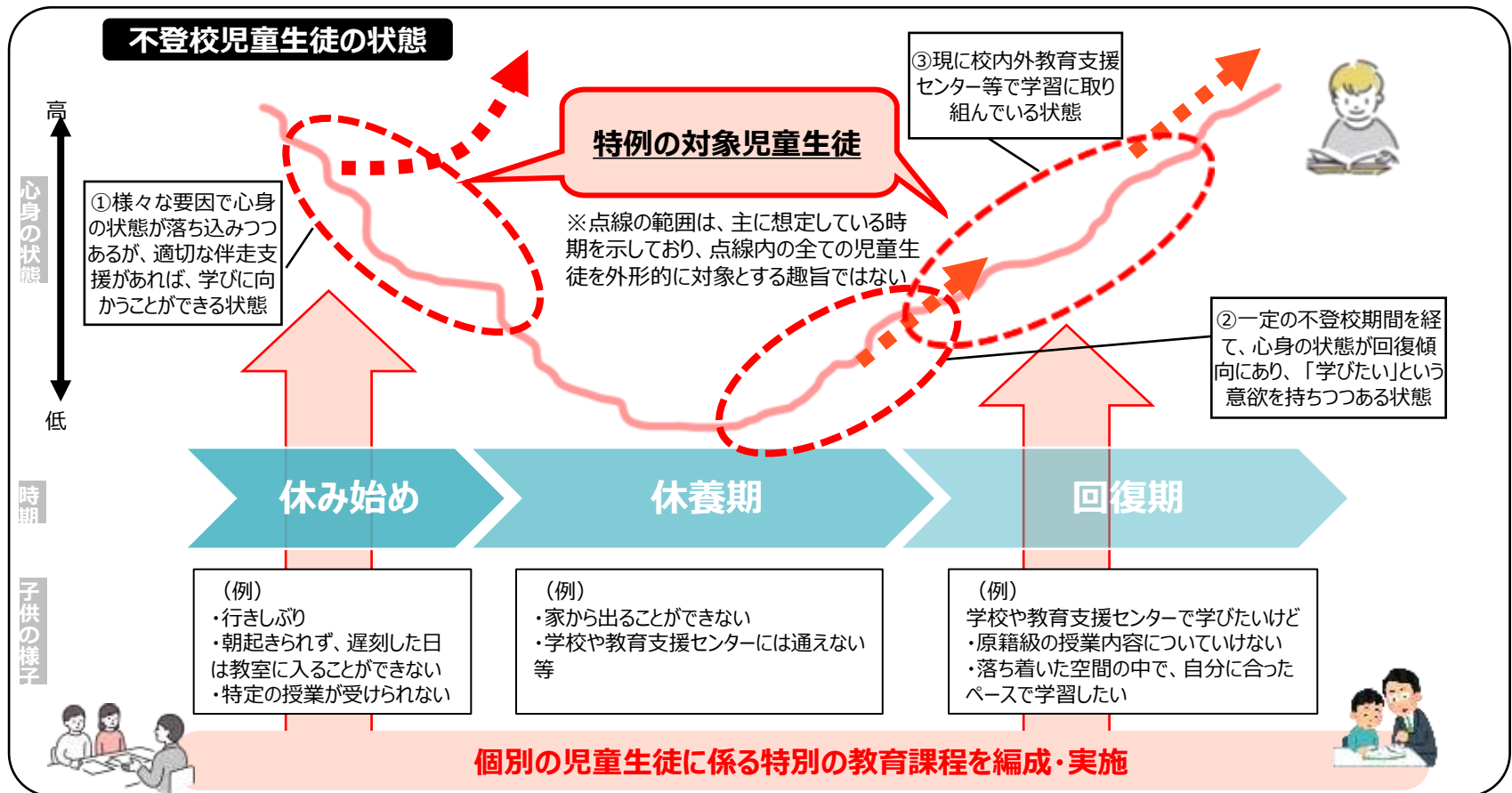
- 本特例の対象となる児童生徒は、義務教育段階での不登校児童生徒を主な対象としつつ、学びよりも休養を優先すべき時期を除き、休み始めだが適切な伴走支援があれば学びに向かうことができる児童生徒や、心身の状態が回復してきた時期に学びに向かいつつある児童生徒を想定した上で、継続的な学びに繋げることができるようにする視点から総合的に判断することとした。
- 対象となる教育活動は、現在、校内外教育支援センターで主として行われている教育活動等を踏まえ、以下のとおり分類。
 - (A) 各教科等の目標・内容に基づきつつ、柔軟に実施する教育活動
 - (B) (各教科等には該当しない) 不登校児童生徒の実態に応じた、特に効果的な教育活動 (体験活動・SST等)
- 授業時数は、「不登校の期間や現在の出欠状況といった児童生徒の状態」と、「学びへの意欲や求める支援といったアセスメントに基づく児童生徒の在り方」を総合的に勘案し、適切な範囲で柔軟に設定。対象児童生徒の状態は変化しやすいことから、実施に当たっては、児童生徒の学習状況等を踏まえ、授業時数や実施内容を適宜調整することとする。

【個別の指導計画・学習評価】

- 学習指導要領に示す教育課程の基本的な考え方や不登校児童生徒の特性を踏まえ、個別の指導計画に盛り込むべき要素や、教師と指導員等が連携して作成するプロセスについて整理。
- その際、心身の状態が変化しやすく、学習に向かうこと自体が困難なケースが多いという不登校児童生徒の実態も踏まえ、子供自身が学習目標の設定に関わり、工夫して学習を進め、振り返る中で、「学びのサイクル」を実感し、学習意欲や自己肯定感を取り戻していくという視点を重視することとした。
- 学習評価については、形成的評価の一層の充実を図るとともに、対象児童生徒と設定した目標や、取り組んだ学習の状況に応じ、在籍学年に抛らない形での観点別評価・評定や個人内評価なども含めた複数の評価方法から柔軟に評価を行うことを可能とすることとした。

特例の対象となる児童生徒のイメージ

- 具体には総合的な判断であることを前提としつつ、以下のような児童生徒が主たる対象として想定されるのではないかと
- ① 友人関係のトラブルや学業の不振など、様々な要因により、心身の状態が落ち込みつつあるが、教育支援センター等による早期の伴走支援があれば、学びに向かうことができる状態にある児童生徒
- ② 一定の不登校期間を経て、心身の状態が回復傾向にあり、「学びたい」という意欲を持ちつつある児童生徒
- ③ 現に、校内外教育支援センター等で前向きに学習に取り組んでいる児童生徒 など
- 以上のように整理した場合、外形的な状況のみならず、児童生徒の状態把握の視点や方法が重要



特別な教育課程で想定される教育活動（イメージ）

校内外教育支援センターでの主な学びのイメージ

実施場所

- ①校内教育支援センター
- ②校外教育支援センター

教育活動

- (A)校内外教育支援センターでの学び直しを含めた各教科等に係る教育活動
- (B)(各教科等には該当しない)不登校児童生徒の実態に応じた教育活動
- (C)オンラインによる配信をはじめ原籍級の授業への参加

実施方法

- ①課題プリントの活用など、個に応じた個別学習
- ②グループ活動・集団活動
- ③原籍級からの授業配信
- ④NHK for School等の質の担保された動画教材の活用等



校内外教育支援センターにおける特別の教育課程イメージ

特別の教育課程

教育課程外で実施する取組

各教科等の目標・内容に基づきつつ、柔軟に実施する教育活動

(各教科等には該当しない)不登校児童生徒の実態に応じた、特に効果的な教育活動

居場所としての活用

※カウンセリングや進路相談等の教育相談を含む

※主に裁量的な時間の活用を想定

【想定される教育活動（例）】

- ・学習状況を踏まえた下学年・下学校種の学び直し
 - ・オンライン配信の活用をはじめ原籍級等への授業の参加
 - ・興味・関心等を踏まえた学習活動 等
- ※一部教科のみであっても特別の教育課程として実施可能

【想定される教育活動（例）】

- ・個々の興味・関心に応じた探究的・体験的な活動
- ・他者とのふれあいを図る体験的な活動
- ・（コミュニケーション能力や対人関係構築スキル等の習得のための）ソーシャルスキルトレーニング 等

※実施方法については、個に応じて柔軟に実施。

⇒ 対象児童生徒の状態や学習意欲を踏まえた個別の教育活動を実施することで、学びに向かう力を底上げすることが必要

授業時数の考え方のイメージ

- 対象児童生徒については、不登校に至った背景や理由、必要な支援も様々であることから、制度として一律に授業時数を定めるべきではなく、対象児童生徒の実態を踏まえて、**各学校長が適切な範囲で柔軟に授業時数を設定できるような仕組みとするべきではないか**
- 具体的には、**①不登校の期間や現在の出欠状況といった児童生徒の状態**、**②学びへの意欲や求める支援といったアセスメントに基づく児童生徒の在り方を総合的に勘案し**、個別の指導計画を作成する**計画段階において、本人や保護者の意向等も踏まえながら授業時数を設定することとしてはどうか**
- ただし、その実施に当たっては、**対象児童生徒の状態は変化しやすいことを踏まえ、授業時数や実施内容を状況に応じて適宜調整できることを前提とした、柔軟な運用とすべきではないか**

①不登校の期間や現在の出欠状況といった児童生徒の状態

- (例)
- 不登校の期間はどの程度か
 - 現在、例えば週あたりどのくらいの時間を学習に向かえているか
 - 学習の習熟度はどの程度か
 - SSR等でどのような学習等に取り組んでいるか

(具体的なイメージ)

	Aさん	Bさん	...
不登校の期間	3ヶ月	1年	...
出欠状況	週3日(約15コマ)	週2日(約10コマ)	...
実際の学習時間	週で10コマ程度	週で6コマ程度	...
具体的な状況	一部教科の学習 ・創作活動	学習には向かえないこと も多い	...

等



②学びへの意欲や求める支援といったアセスメントに基づく児童生徒の在り方

- (例)
- 不登校の期間や時期(休み始め・回復期等)を踏まえ、学びに向かいたい気持ちをどの程度持っているか
 - どういった学習や取組を行いたいと考えているか
 例：自らの興味・関心や、習熟度に合わせた学習がしたい
 集団活動に混ざりたい、そのためのスキルを身につけたい
 - 本人や保護者の目標として、どういったペースでの学習を望むか 等

**実施内容等を含め、総合的に勘案し、
 授業時数を設定**

【基本的な授業時数の考え方】

- 現在学習に向かえている時間や本人の意向等を踏まえて、年間の授業時数を設定。
- 本人の状態を踏まえ、柔軟に週単位や日単位の授業時数や内容の見直し。

(例)

現在、週2日程度出席することができる児童生徒に対し、本人等の意向を踏まえて、年間約600コマの授業時数(裁量的な時間を含む。)を設定。週3日程度の出席が基本だが、本人の状態等を踏まえて、例えば、ある週は2日程度としたり、一日1コマ程度としたり、柔軟に実施内容を決定・見直しを図る

⇒ 対象児童生徒の実態や状態の変化等に応じ、柔軟に授業時数を設定・運用

指導計画に盛り込むべき要素とプロセス（イメージ）

【指導計画に盛り込むべき要素】

- 学習指導要領に示す教育課程の基本的な考え方や不登校児童生徒の特性を踏まえて、指導計画には、以下の要素が考えられるのではないか。

- ① 学びにおいて意識したい視点、② 教育内容（順序を含む）
- ③ 目標やねらい、④ 指導方法（指導期間・教材を含む）、
- ⑤ 授業時数、⑥ 振り返り、⑦ フィードバック

【指導計画作成プロセスの前提となる基本的な考え方】

- 指導計画は、**学校の体制や実態に応じて適切な者が作成を主導し、最終的には、担任教師が確認の上で、学校として計画を作成**することも可能とすべきではないか。
- 指導計画作成のプロセスでは、**児童生徒がどのように関与すべきかといった視点を十分考慮すべき**ではないか。
- 児童生徒の実態に応じ柔軟な特例実施が可能となるよう、**年度途中の特例開始や終了も視野に検討を進めるべき**ではないか。

I. 指導計画作成までの流れ

(0) 計画作成にあたって必要な実態把握

- ・学級担任をはじめとする関係者が児童生徒の実態を丁寧に把握。

(1) 「学びにおいて意識したい視点」の設定

- ・「学びのサイクル」の考え方を踏まえて児童生徒が自ら設定（困難な場合は児童生徒が納得感のあるものを選択）できるよう、支援することが重要。
- ・学級担任や指導員等が連携の上、児童生徒と丁寧な対話の上で決定されることが望ましい。

(2) 授業時数・指導内容・指導方法等の設定

- ・学級担任に加え、教科担当や指導員等も関与の上、これらの項目を設定していくことが必要。
- ・児童生徒の自己選択・自己決定の機会の創出を意識しながら児童生徒との対話を通じて設定されることが望ましい。

(3) 学校長の承認、教育委員会への届出

- ・指導計画は、学校長の承認を得た上で、教育委員会等に対して届出。
- ※指導計画を見直した際の届出の要否は、学校現場の負担も十分に勘案した上で、その範囲や程度に応じ、各教育委員会等において判断。

II. 指導計画の実施、振り返り・フィードバック、見直し

指導計画に盛り込むべき要素

(1) 指導の実施

- ・指導計画に基づき指導を実施。
- ・学級担任を含めた関係者間で随時共有。

(2) 本人の振り返り・フィードバック

- ・児童生徒の状態に応じて適切な頻度で振り返りの実施。
- ・振り返り際には、児童生徒の頑張りを受け止め、励まし、自己肯定感を向上させるといった観点を第一にフィードバックが行われることが望ましい。

(3) 指導計画の見直し

- ・児童生徒の状態や学習状況等を踏まえ、指導計画を柔軟に見直していくことが重要。

必要に応じて、Iの
 (1) 又は (2) へ戻り、
 指導計画を見直し

学習評価の全体像と方向性

各教育活動の目標設定のケース

(A) 各教科等の目標・内容に基づきつつ、柔軟に実施する教育活動 (※1)

(B) 不登校児童生徒の実態に応じた特に効果的な教育活動 (SSTなど)

① 在籍学年と同一の目標に基づき評価を実施するケース

② 在籍学年の一部の目標に基づき評価を実施するケース

③ 下学年の目標に基づき評価を実施するケース

④ 学習指導要領の目標も踏まえつつ、独自に設定した目標に基づき評価を実施するケース

⑤ 児童生徒の実態を踏まえて指導のねらいを設定し、それに基づき個人内評価を実施するケース

例：中学2年生の数学のうち、「式」「計算」「方程式・不等式」の内容に係る目標を年間目標とし、それに基づき評価

例：中学2年生が中学1年生の数学の目標を年間目標とし、それに基づき評価

例：計算が好き・得意な生徒に、計算に継続的に取り組むことや、そこから規則性を見出すことを目標に設定、評価。

多様な評価方法

評価方法A 通常の教育課程と同様の評価

知識・技能	A
思考・判断・表現	B
学びに向かう力	○
評定	4
(記述による評価を組み合わせることも可)	

総括

or

評価方法C 観点別や評定ではなく、記述による評価

・個人内評価※

→学習状況を、個人のよい点や可能性、進歩の状況等に着目して評価

※設定した目標との関連を重視
 ※その達成状況に関する記載も記述で行うことが可能

評価方法B 評価の観点は残しつつ、評価規準は柔軟に

知識・技能	A
思考・判断・表現	B
学びに向かう力	○
評定	4※
(記述による評価を組み合わせることも可)	

総括

or

評価方法C 観点別や評定ではなく、記述による評価

・個人内評価※

→学習状況を、個人のよい点や可能性、進歩の状況等に着目して評価

※設定した目標との関連を重視
 ※その達成状況に関する記載も記述で行うことが可能

評価方法C 観点別や評定ではなく、記述による評価

・個人内評価

→学習状況を、個人のよい点や可能性、進歩の状況等に着目して評価

(※1) 目標を設定し、学習に取り組むこと自体が困難な教科等については、他の教科等の学習など、取り組むことができた教育活動全体の中から、個人内評価で柔軟に見取り、総合見聞に記載することが可能。

(特異WG) これまでの検討のポイント

1. 基本的な考え方

- 特異な才能のある児童生徒（以下「特才児童生徒」という。）の支援の必要性に関する考え方を、
 - ① 才能や特性ゆえに抱える学習上・生活上の困難の軽減や克服を図る
 - ② 「好き」を育み「得意」を伸ばし（才能を伸長）、我が国の学校現場が「正解主義」や「同調圧力」への偏りから脱却する契機とする
 - ③ 本人の困難の軽減や自己実現を支えつつ、社会全体の活力や創造性の向上を通じた経済社会の発展にも繋げるという3つの観点から整理。
- また、特異な才能のある児童生徒に係る特別の教育課程の編成を可能とする制度の創設に向け、以下のような制度構築に当たっての基本的な考え方を整理。
 - ① まずは、通常の教育課程における支援の可能性を検討し、その上で、通常の教育課程のみでは支援が十分できない児童生徒を特別の教育課程の対象とする
 - ② 児童生徒の有する特異な才能の伸長と、学習上・生活上の困難の解消の双方をバランス良く目指していく
 - ③ 「実現可能かつ持続可能な仕組みを創設する」という、制度構築の基本的な考え方を踏まえ、まずは一定数の事例を創出し、その上で運用上の成果・課題を踏まえて随時仕組みを改善し、徐々に事例を増やしていく
 - ④ 対象の児童生徒であっても、特別の教育課程で実施する特性等に応じた高度な内容に係る部分（以下「対象活動」という。）以外は、他の児童生徒とともに、基本的に通常の教育課程に基づく教育活動の中で学ぶことが前提

2. これまでの検討

- その上で、以下を中心に議論を行ってきた。
 - ① 特別の教育課程による実施する活動（対象活動）とそれに伴って実施しないこととする教科等の学習（相当教科等）の考え方
 - ② 対象活動を実施する機関（実施機関）や活動の場所に関する考え方（デジタル学習基盤やweb会議システム等も効果的に活用）（※）
 - ③ 個別の指導計画の必要性とその備えるべき特質
 - ④ 特別の教育課程の対象児童生徒の判断や、指導計画の作成・改善等を専門的見地から支える相談支援体制の充実の在り方

※性暴力防止対応を含む子供の安心・安全のために必要な留意事項についても別途整理

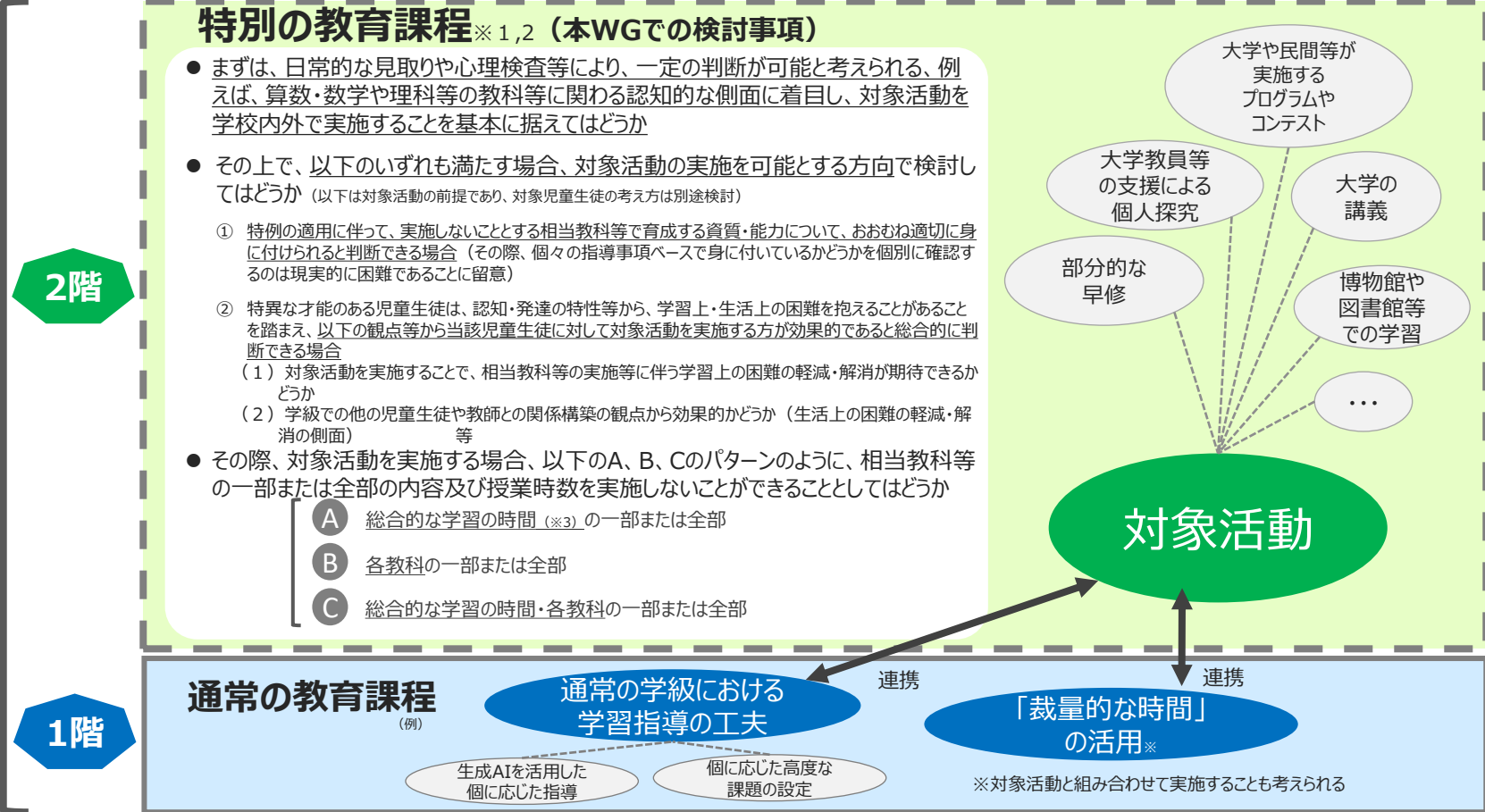
3. 「運用の手引き」の作成

- WGにおいて検討した本制度に係る基本的な考え方、制度設計に係る一定の方向性を踏まえ、教師、学校、教育委員会、大学等の実施機関、相談支援機関等の関係者が過度な負担なく、必要な場合に制度を活用して指導・支援に繋がられるよう、制度の詳細や、具体的な手続きのイメージ、実務に係る事項について「運用の手引き」を作成し、整理する
- 「運用の手引き」は、実際の運用を通じて得られる成果・課題を踏まえて随時改善を図る

特別の教育課程における「対象活動」のイメージ

特異な才能が発揮される分野や程度は様々なものがあるため、通常の教育課程での指導の工夫や柔軟化等を含め、多様かつ多層的な教育活動により支援が可能な場合も多いものと想定される

- ➡まずは、通常の教育課程における支援の可能性を検討し、その上で、通常の教育課程のみでは支援が十分できない児童生徒を特別の教育課程の対象とすることを基本的な考え方とすべきではないか
 - ※ 対象とすかどうかの判断に当たっては相談支援体制の活用も考えられる
 - ※ 通常の教育課程での支援に加えて、休日や長期休業中などに学校外でこうした児童生徒の活動の場が提供されている場合、相談支援体制を活用し、そうした活動の紹介を行うことなども考えられる



教育課程

教育課程外

大学等による相談支援体制

※1 「特別の教育課程」は、個々の児童生徒に着目した教育課程全体を指すものであり、特例により行う教育活動だけでなく通常の児童生徒と同様に学ぶ活動も含めたものであるが、本資料では対象活動を指すものとする
 ※2 特別の教育課程の前提として、まずは通常の教育課程において特異な才能のある児童生徒の支援に取り組み、その上で通常の教育課程において支援が困難な児童生徒を特別の教育課程の対象とする
 ※3 特別の教育課程において総合的な学習の時間を相当教科等とすることは、今次改訂の『好き』を育み、『得意』を伸ばすという方向性にも合致し、総合の役割を積極的に果たそうとするもの

対象児童生徒の判断のプロセス（事例イメージ）

対象児童生徒については、教育委員会や学校が、相談支援体制を活用しながら、以下のようなプロセスで判断することとして
 かどうか例

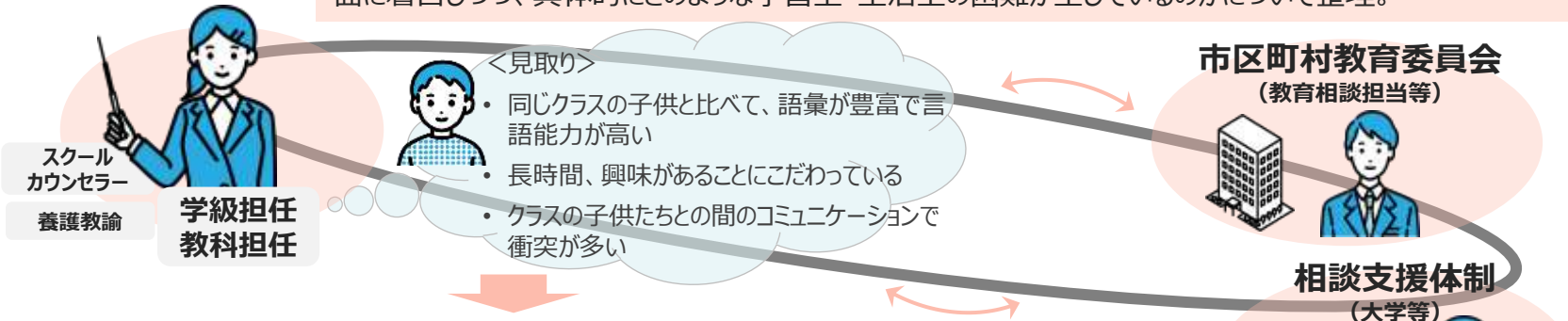


- 学年：小学校4年生
- 強い関心がある分野：算数、理科（特に生物分野）
 - ・ 言語理解も突出
 - ・ 大学が実施する小中学生向け理科プログラムに参加しながら、大学教員の指導を受けつつ独学で探究的な学習を進めている
- 学習上の困難：全体的に理解力が高く、授業の内容はほぼ全て理解できるため、授業中は退屈で苦痛
- 生活上の困難：厳密な論理性にこだわりが強く、同級生との間での摩擦がある。不登校期間あり。現在は保健室登校

1 アセスメント

学校

教育委員会・学校は、学校生活全般における日常的な見取りを踏まえ、当該児童生徒に対して必要に応じて面談やWISC等の心理検査等を行うなどにより、例えば、算数・数学や理科等の教科等に係る認知的な側面に着目しつつ、具体的にどのような学習上・生活上の困難が生じているのかについて整理。



面談 ※1 (必要に応じてWISC等の心理検査※2のもとに実施)

- ※1 教育委員会や相談支援体制の専門家と同席することも考えられる
- ※2 心理検査は、当該教育委員会の関係機関で実施することもあれば、保健センターや児童発達支援センターなどの首長部局が所管する機関、民間の機関、検査体制のある大学で実施されることもある

(例)

- ・ 算数や理科のどの分野についての強い関心があるのか
- ・ 認知的にどのような特性があるのか
- ・ 学習上・生活上、具体的にどのような場面で、どのような困難が発生しているのか
- ・ 児童生徒は、学習上・生活上生じている困難に対して、どのような方向性で困難の解消を望んでいるのか 等

→算数全般、理科の生物分野に強い関心があり、特に算数の授業では、難しい課題でも理解できるため、退屈で苦痛。授業中も、自分が知っている知識をクラスメートに話すも理解されず、また、論理的なコミュニケーションにこだわりが強く、クラスメートや教師との会話でも衝突が多い。



2 対象児童生徒の判断

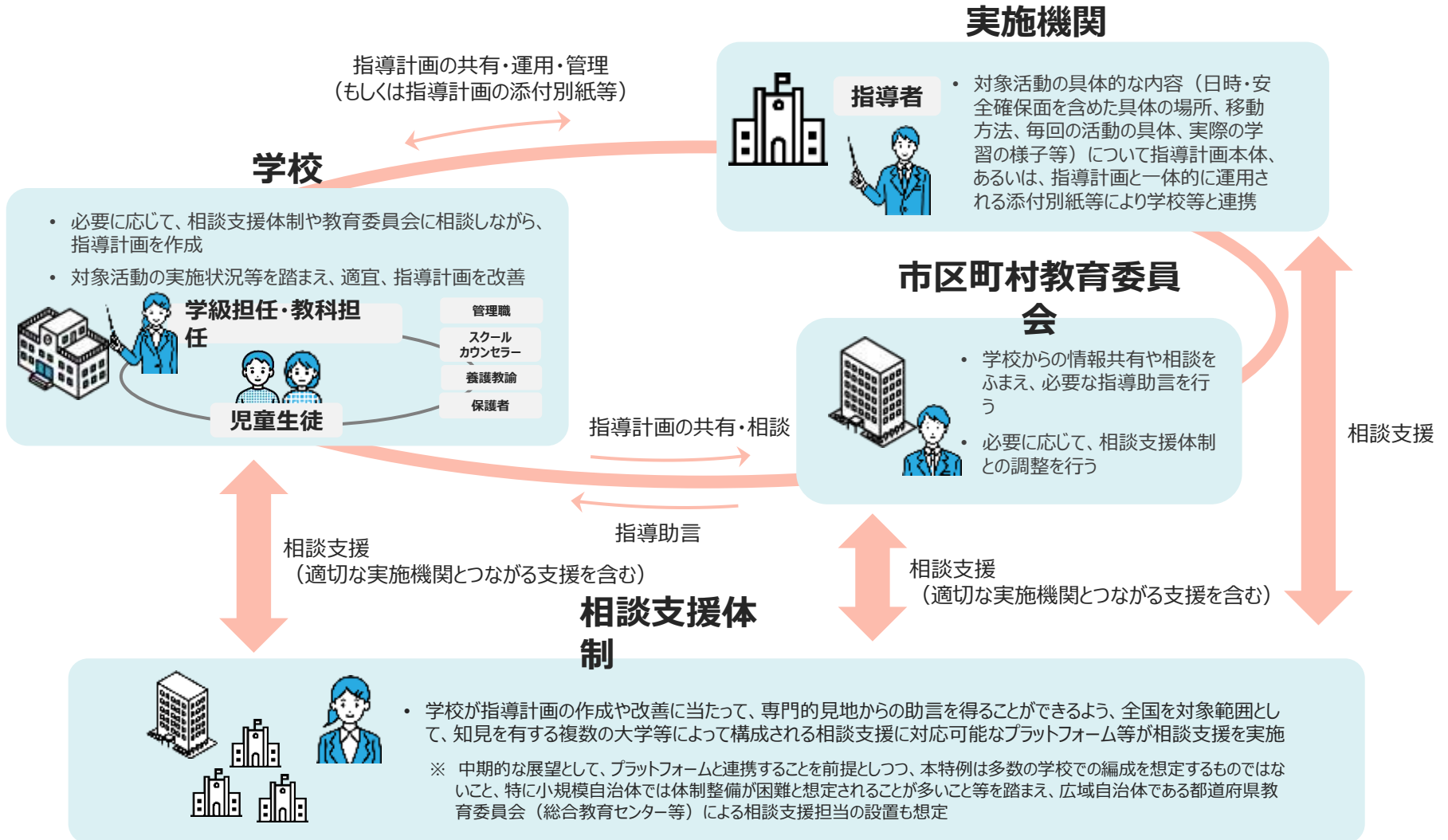
アセスメントの結果を踏まえ、学習上・生活上の困難に対して

- ① 通常の教育課程での指導の工夫や柔軟化等を含め、多様かつ多層的な教育活動による支援の可能性を検討
- ② 通常の教育課程では支援が十分でないと考えられる場合に、対象活動を実施する方が効果的であるか、総合的に検討



1. 教育委員会・学校が、通常の教育課程において、どのような指導の工夫や柔軟化が可能であるか検討
 ➡主に算数、理科の授業の中で、当該児童生徒に対して、発展的な課題や、GIGA端末を活用した探究課題を設定
2. ①の通り通常の教育課程における指導の工夫を行ったところ、理科については学習上の困難が軽減されたが、算数については担任が設定できる課題の範囲・難易度では満足感・充実感を得ることができず、学校で授業を受けることに対して意欲がわかない状況が続いたため、通常の教育課程における支援だけでは十分に支援が困難であると判断
 ➡面談の状況や普段の学習・生活状況の見取りを踏まえて、独学で取り組んでいる探究的な学習で発揮される算数の知識・技能、思考力、判断力、表現力等を見取り、小学校段階の算数で育成する資質・能力についてはおおむね適切に身に付けられると判断し、小学校4年生段階の算数の全部を「相当教科等」とする方向で対象活動の内容について検討
 ➡学校のみでは算数を相当教科等とする対象活動に係る適切な実施機関の判断がつかないため、大学等による相談支援体制に相談し、大学が実施する算数・数学に関するプログラムへの参加を念頭に検討をすることに
 ➡児童生徒・保護者にも確認したところ、大学が実施する算数・数学に関するプログラムや講義を受講したいとの意向を確認
 ➡相談支援体制と児童生徒・保護者を交えて面談の場を持ち、児童生徒の特性や興味関心、自宅からの距離などを踏まえ、近隣の
 ▲▲大学の算数・数学も対象とする小中学生向けプログラムへの参加と、プログラムで課された課題探究に取り組む活動を対象活動とすることを決定
 ➡当該プログラムでは、大学が設定する領域の中から、自身で探究テーマを設定し、探究的な学習を進めるものであり、通常学級の算数の授業の代わりに対象活動として探究学習を進めることができれば、授業内容が簡単すぎるあまりの苦痛など学習上の困難の軽減・解消が期待でき、また、算数の授業における他の児童生徒のコミュニケーションの関係でも効果的であると判断。

指導計画の作成・運用等に係る連携の参考イメージ (素案)



「高次の資質・能力」等を活かした 単元計画づくりの参考イメージ

※高次の資質・能力等を活かして単元構想を行う際の思考プロセスを明確にするために作成しているイメージであり、各教師に常に参考イメージに示した資料を作成することを求める趣旨ではないことに留意。教科書会社が編集に当たってこうした整理を行いながら教科書を編集し、指導書等でその構造を示していくことで、経験の浅い教師でも資質・能力を関連付けて深めていく授業づくりが徐々にできるようになっていく環境を整えていくことが重要。

※特定の実践への収束を促す趣旨ではなく、育成すべき資質・能力の構造が明確になるからこそ、芯を外さずに豊かな創意工夫が可能となるという視点が重要。

「高次の資質・能力」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ（中学校・外国語）



次の単元では、教科書で「紹介する」活動が扱われている。新出文法は「接続詞」か。教科書をなぞって活動するだけでは、子供たちは「英語で伝えたい」という気持ちにはならないだろう。それに、学習内容を深く理解したり技能を身に付けたりできないだろうし、資質・能力も身に付きにくいだろう。そもそもこの単元では本質的にどういった資質・能力を育てたいんだっけ？



まず、学習指導要領の記述を確認してみよう。

デジタル学習指導要領（イメージ）

目標 外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す

見方・考え方

他教科や小学校を含めた前後の学習内容も確認できる。デジタル学習指導要領では解説の記述や評価規準例も見られる。

高次の資質・能力

（総合的な発揮）

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、
 ・ 情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などと関連付けたりして、考えを形成することができる。【理解する】
 ・ 情報や自分の考えなどを整理し、表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】
 ・ 相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを整理し、表現等を工夫して伝え合うことができ、相互理解を図ることができる。【伝え合う】

（統合的な理解）

音声、語彙、表現、文構造及び文法並びに[P]言語の働きなどの知識を、場面や状況に応じて組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。

思・判・表

知・技

学習を終えた後に目指したい学習の深まりの姿を確認できる。



生徒が最終的に「高次の資質・能力」を身に付けられるように学習内容と活動を考えればいいのか。「コミュニケーションを行う目的や場面、状況など」の設定が鍵になるね。「コミュニケーション活動」と「コミュニケーション活動を支える活動」とを往還する学習過程の中で、子供たちが、学んだ表現や文法事項等を使い、本単元におけるコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて表現できるようにしよう。デジタル学習指導要領では、学習指導要領解説の記述や、小学校を含む前後の学習内容なども確認できるから個に応じた指導・支援を考えられる。



生徒が「英語で伝えたい」という気持ちを持ち、既習事項と本単元で学んだ内容などを活用しながら「分かった！できた！」と思える単元を構想したい。生徒の実態や、育成したい資質・能力、小学校を含む前後の学習内容や教科書の該当ページなどを踏まえ、「コミュニケーション活動」と「コミュニケーション活動を支える活動」の往還を位置付けると、この単元に充てられる授業時数は何時間になるかな。



本単元では、生徒に「相手に応じて紹介できる」力を身に付けさせたい。本単元では「接続詞」を新たに学ぶから、紹介したいものを詳しく説明したり、おすすめしたい理由なども伝えたりできる。昨年度、総合的な学習の時間で地域のことを探究したり、小学校で食べ物のごとに触れながらおすすめの場所紹介をしているから、それらとつなげて「住んでいる町の食べ物を紹介する」単元にしよう。そして、オンラインで海外の生徒に実際に紹介してみよう。きっと生徒はワクワクするだろうな。

次は、学習の流れを考えよう。生徒が、本単元における「コミュニケーションを行う目的や場面、状況など」を理解し、活動の見通しを立てられるよう、単元の最初の時間の導入を工夫しよう。第2時以降は、教科書の内容理解と関連させた「コミュニケーションを支える活動」を行い、徐々に生徒が思考、判断、表現できるような「コミュニケーション活動」を行っていかう。単元の後半では、教科書で学んだことや既習事項を生かして「コミュニケーションを行う目的や場面、状況など」に応じて生徒が思考、判断、表現できる「コミュニケーション活動」を多く行おう。最終的には、海外の生徒に紹介をするので、学級の仲間、ALTなど紹介する人を変えることで、「相手に応じて紹介ができる」ような構成にしよう。その中で、知識・技能が身に付いていないと感じたら、「コミュニケーション活動を支える活動」を行いながら2つの活動を往還させていこう。

これで、本単元の学習内容や流れが決まった。パフォーマンステストも含めると、本単元に充てる授業時数は合計で9時間になるな。



本単元における「コミュニケーションを行う目的や場面、状況など」や、学習内容、学習の流れが決まったので、評価計画を立てるか。育成したい資質・能力をきちんと見取れる評価にしたいな。



本単元では、「話すこと [発表]」に焦点を当てて指導してきたから、パフォーマンス課題を設定して、「知識・技能」、「思考・判断・表現」を見取ることしよう。

デジタル学習指導要領を使えば、評価規準例も一括で見られるから便利だな！

「高次の資質・能力」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ（中学校・外国語）

単元構想のイメージ

1. 単元名：My Favorite Food in ○○

2. 教科の見方・考え方

学習指導要領の記述

外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自分の考え等を発信し、多様な他者との相互理解を図ること

3. 高次の資質・能力

学習指導要領の記述

総合的な発揮	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、 ・ 情報や考えなどを捉え、…【理解する】 ・ 情報や自分の考えなどを整理し、表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】 ・ 相手の考えなどを受け止めながら、…【伝え合う】
統合的な理解	【P】言語の働きなどの知識を、場面や状況に応じて組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。

指導要録通知の「学びに向かう力」の「見取る姿」

4. 学びに向かう力・人間性等の「見取る姿（仮称）」

※今後検討

5. 単元の目標・評価規準

何を身につけさせたいかを明確にする【目標（評価規準）の設定】

目標（評価基準）	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	[知識] ・ 接続詞などの特徴やきまりを理解することができる。 [技能] ・ おすすめしたい住んでいる町の食べ物とその理由などを、接続詞などを用いて伝え合う技能を身に付けることができる。	日本に来たことがない海外の生徒に「食べてみたい！」と思ってもらえるように、おすすめしたい住んでいる町の食べ物とその理由などを整理して紹介することができる。

生徒と共有する「本単元の学習課題（コミュニケーションにおける目的や場面、状況など）」として活用

6. 評価課題

日本に来たことがないALTの家族に「食べてみたい！」と思ってもらえるように、おすすめしたい住んでいる町の食べ物とその理由などを整理して紹介しよう

身につけさせたい資質・能力の発揮を見取り、その水準を判断できる課題を考える【評価課題のデザイン】

7. 指導と評価の計画

評価課題に向けて資質・能力を身につけ、発揮しやすい学習活動を組み立てる【学習過程のデザイン】

身につけさせたい姿と現状の差分を学習途中で見取り、適切なフィードバックの方法を考える【形成的評価の計画的な実施】

○：記録に残す評価

時間	学習活動	知	思	態	留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> 単元の目標を理解するとともに、住んでいる町の好きな食べ物についてやり取りする <ul style="list-style-type: none"> 教師が紹介するのを聞く 生徒同士でやり取りする 自己目標を立てる 				<ul style="list-style-type: none"> 「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを生徒と共有できるよう、導入を工夫する 生徒が本単元で目指す姿をイメージできるよう、教師が紹介をする 生徒同士でやり取りする機会を設けることで見通しを持ちやすくする
2 3 4 5 6	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の対話文や本文を読み、引用するなどしながら、紹介したいこととその理由などを伝え合う <ul style="list-style-type: none"> 教科書本文の概要を捉える 教科書本文から、接続詞が使われている表現に着目し、使い方を理解する 接続詞を使いながら、おすすめしたい住んでいる町の食べ物とその理由を伝え合う 教科書の内容と表現を参考にしながら伝える内容を考え、まとまりのある英文で紹介する 				<ul style="list-style-type: none"> 複数の接続詞が出てくるため、例文を示しながら接続詞の使い方（文と文をつなぐ）や、文構造等に気付けさせ、整理する 学んだことを使いながら、段階的に生徒が思考、判断、表現できるよう「コミュニケーション活動」と「コミュニケーション活動を支える活動」とを往還させる AIを含むデジタル学習基盤を活用しながら、伝える内容や表現を再構築する 授業と家庭学習とを連携させる
7	<ul style="list-style-type: none"> クラスメイトやALTと、相手の好みに合わせておすすめしたい住んでいる町の食べ物を紹介し合う 				<ul style="list-style-type: none"> 相手の好みに合わせて伝える内容や表現を考えることよき気付けさせる
8	<ul style="list-style-type: none"> 海外の生徒とオンラインで、相手の食文化や好みに合わせておすすめしたい住んでいる町の食べ物を紹介し合う 	○	○		<ul style="list-style-type: none"> 文化的な違いなども考えながら、相手に合わせて伝える内容や表現を考えることよき気付けさせる
9	<ul style="list-style-type: none"> パフォーマンステスト 単元の振り返り 	○	○		<ul style="list-style-type: none"> 1人1台端末で記録を残すことで、自身の学びを振り返ることにつながる



このように、学習指導要領を基にして作成することができるんだね。

「高次の資質・能力」等を生かした単元計画づくりの参考イメージ (小学校・算数)

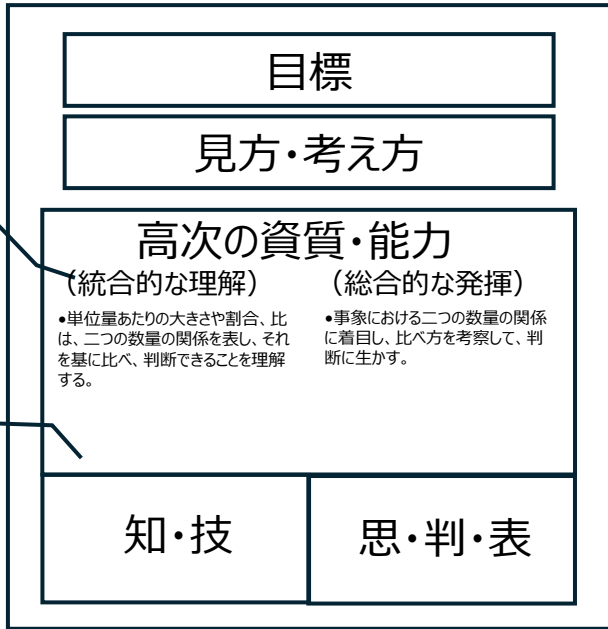


次は5年生の「割合」か。子供たちにも学習内容を深く理解させて、資質・能力を身に付けさせたいな。そもそも、この学習内容はどういう資質・能力を育てたいんだっけ？



まず、学習指導要領の記述を確認してみよう。

デジタル学習指導要領 (イメージ)



学習を終えた後に目指したい学習の深まりの姿を確認できる。

他教科や前後の学習内容も確認できる。デジタル学習指導要領では解説の記述や評価規準例も見られる。



児童が最終的に「高次の資質・能力」を身に付けられるように、学習内容を組み立てるのか。数学的活動を通して、割合について理解し、事象における二つの数量の関係に着目して、比べ方を考察して、判断に生かせるようにしたい。デジタル学習指導要領では、学習指導要領解説の記述も確認できるからヒントになるし、前後の学習内容なども確認しておけば取り残される児童も減りそうだ。



教科書の見開き2ページを、そのまま毎コマ積み重ねるだけでは数学的活動を通して、探究的な学びにならないし、深い理解にも繋がらないから、うまくポイントを重点化して単元を組まないといけないな。育成したい「高次の資質・能力」や前後の学習内容や教科書の該当ページなどを踏まえて、この単元に充てられる授業時数は何時間になるだろうか、...



二つの数量の関係に着目して、二つの数量の関係どうしを比べる数学的活動の中で、二つの数量の関係どうしの比べ方の理解を深めるような学習の流れを設定しよう。

事象における二つの数量に着目して、二つの数量の関係どうしの比べ方を考察する際は、意見交換をする時間を確保しよう。特に、図や式を用いて二つの数量の関係を捉えられるように、第1時に、「二つの数量の関係を比べ方を図や式を用いて考える活動」を設定し、具体的な事象に沿って、二つの数量の関係どうしの比べ方を理解できるようにしよう。百分率の問題は、基準量を求める場合と比較量を求める場合を同時に学習した方が理解が深まるから、合わせて扱おう。

ここまでで、二つの数量の関係どうしの比べ方を理解できるようになっているので、最後に、日常場面における割合を用いた問題を扱う時間を2時間設定しよう。

これで、本単元での学習内容の順番が決まった。これらから、本単元に充てる授業時数は合計で9時間になるな。



学習内容や学習の順番が決まったので、評価計画を立てるか。育成したい資質・能力をきちんと見とれる評価にしたいな。



知・技は、他の学習や日常場面でも活用できる程度に身に付いているか見取りたいな。

特に思・判・表は、数学的な探究の過程で身につけた資質・能力を総合的に発揮して表現するようなパフォーマンス課題を設けたらよさそう。デジタル学習指導要領を使えば、評価規準例も一括で見られるのが便利だな！

単元構想のイメージ

1. 単元名：割合

2. 教科の見方・考え方

事象や言説を数理の視点から捉え、論理的、統合的・発展的、批判的に考察すること。

学習指導要領の記述を転記する。

3. 分野・区分の高次の資質・能力

統合的な理解	総合的な発揮
<ul style="list-style-type: none"> 単位量あたりの大きさや割合、比は、二つの数量の関係を表し、それを基に比べられることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事象における二つの数量の關係に着目し、比べ方を考察して、判断に生かす。

学習指導要領の記述を転記する。

学習指導要領の記述や児童の実態を踏まえて設定する。【検討①】

4. 学びに向かう力・人間性等の「見取る姿（仮称）」

- 事象に知的好奇心や目的意識をもって問題を見だし、数学を活用しようとしている
- 他者と数学的論拠に基づいて協働し、問題解決を進めようとしている
- 問題発見・解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている

5. 単元の目標と評価規準

単元の目標を基に、評価の観点の趣旨を踏まえて設定する。【検討②】

目標 (評価規準)	知識・技能	思考・判断・表現
	①ある二つの数量の關係と別の二つの数量の關係とを比べる場合に割合を用いる場合があることを理解している。 ②百分率を用いた表し方を理解し、割合などを求めることができる。	①事象における二つの数量の關係に着目し、ある二つの数量の關係と別の二つの数量の關係を比べる問題として設定している。 ②事象における二つの数量の關係に着目し、割合を用いた二つの数量の關係どうしの比べ方を考察している。

6. 評価課題

「読書が好きな人を調べたところ、5年生は60人中36人、3年生は40人中28人でした。この結果から、3年生の方が読書好きが多いと考える場合、その理由を、『割合』という言葉を使って説明しましょう。」

高次の資質・能力を踏まえて作成する。【検討④】

授業内容、評価場面と評価方法を計画する。【検討③】

7. 指導と評価の計画

時間	学習活動	重点	記録	備考
1 ~ 2	●二つの数量の關係どうしの比べ方	知思		※図や式を用いて、比較量÷基準量で求めた数値を、事象に沿って解釈し、理解できるようにする。 ※答えを出すだけでなく、二つの数量の關係に着目し、二つの数量の關係どうしの比べ方を考察していること意識させる。
3	●他の事象における割合を用いて比べる問題	知思		※1~2時で扱ったとは異なる事象においても、二つの数量の關係に着目し、二つの数量の關係どうしの比べ方を考察していることが共通していることを理解できるようにする。
4	●百分率や歩合の意味と表し方	知		
5	●百分率の問題・比較量や基準量を求める問題	知		※基準量×割合=比較量（基準量と割合の順序は問わない）という式に表し、數量の關係を把握できるようにする。
6 ~ 7	●日常生活における割合を用いた問題	思学	○	※値引きや値上げなどを含んだ割合の問題や、1~3時で扱った事象以外で二つの數量の關係どうしの比べ方を考える問題を扱う。 ※観点別学習評価は、 ・単元内の学習を基に、他の事象における割合を用いた問題に生かそうとしている。（学） を記述内容や発言で評価する。
8 ~ 9	●学習の振り返り ●評価課題	知思	○	※高次の資質・能力を踏まえた評価課題を用いた観点別学習評価は、 ・二つの數量の關係について、割合を求めることができる。（知） ・二つの數量の關係に着目し、割合を用いた二つの數量の關係どうしの比べ方を説明できる。（思） を記述内容で評価する。



このように、学習指導要領を基にして作成することができるんだね。

8. 第1～2時の実践の計画



「バスケットボールのシュートのうまさを比べる」という問題を用いて、第1時を行いたいんだけど、比較量÷基準量＝割合ということを理解するだけでなく、「単位量あたりの大きさや割合、比は、二つの数量の関係を表し、それを基に比べられることを理解する。」という統合的な理解や、「事象における二つの数量の関係に着目し、比べ方を考察して、判断に生かす。」という、総合的な発揮を、子供が意識できるように単元の導入を行いたいな。



統合的な理解や総合的な発揮の内容を踏まえると、以下の問題を扱う際に、「どちらがうまいといえるか」だけを考えて終わりにするのではなく、「二つの数量の関係に着目して、二つの数量の関係どうしを比べる」ということが割合の単元で新しく学習することであり、それをいつも意識しながら単元の学習をさせるとよさそうだな。



では、実際に第1～2時の本時案を考えてみよう。ただ解いて終わってしまうのではなく、統合的な理解や総合的な発揮の姿を想定して考えないといけないな。



学習の振り返りをする時に、「二つの数量の関係に着目して、二つの数量の関係どうしを比べる」ということが割合の単元でいつも意識すべきことだと伝えるとともに、「二つの数量の関係に着目して、二つの数量の関係どうしを比べる」ことを用いることができる他の事象に目を向けさせて、学習を次に関連付けていくことを意識させよう。

9. 本時案

- (1) 本時のねらい
割合を用いた二つの数量の関係どうしの比べ方を、図や式を用いて考える。
- (2) 本時案

主な活動と予想される児童の反応	備考									
<ul style="list-style-type: none"> ● 問題提示 【問題】 AさんとBさんはバスケットボールのシュートの練習をしました。下の表はその記録です。この記録から、どちらがバスケットボールのシュートがうまいといえますか。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>入った回数(回)</th> <th>シュートした回数(回)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Aさん</td> <td>14</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>Bさん</td> <td>12</td> <td>15</td> </tr> </tbody> </table>		入った回数(回)	シュートした回数(回)	Aさん	14	20	Bさん	12	15	<p>※最初は入った回数だけを出し、その後、シュートした回数を出して、事象における二つの数量の関係に着目させ、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べる問題として設定する。</p>
	入った回数(回)	シュートした回数(回)								
Aさん	14	20								
Bさん	12	15								
<ul style="list-style-type: none"> ● 児童自身で考える 										
<ul style="list-style-type: none"> ● 全員で解き方を共有する <ul style="list-style-type: none"> ・シュートした回数を揃える解法 ・入った回数を揃える解法 ・入った回数÷シュートした回数(もしくは、シュートした回数÷入った回数)をして、二つの数量の関係どうしを比べる解法 	<p>※各解法は、基準量と比較量の間に比例関係を認めると考えることができることを理解できるようにする。 ※特に、入った回数÷シュートした回数をして、二つの数量の関係どうしを比べる解法については、比較量÷基準量でもとめた商が何を表しているのかを、図や式を用いて事象に沿って解釈し、理解できるようにする。</p>									
<ul style="list-style-type: none"> ● 学習の振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・基準量と比較量の関係を割合で表して、比べていることがわかった。 ・他にも、割合を用いて比べられるものを考えたい 	<p>※入った回数とシュートした回数という二つの数量の関係に着目して、入った回数÷シュートした回数の商を用いて、二つの数量の関係どうしを比べているということが、新しく学習したことであり、今後の単元の学習でも意識するように伝える。 ※二つの数量の関係どうしを比べる方法を使って、他にも比べられる事象があるかを考えさせる。</p>									

※高次の資質・能力等を活かして単元構想を行う際の思考プロセスを明確にするために作成しているイメージであり、各教師に常に参考イメージに示した資料を作成することを求める趣旨ではないことに留意。教科書会社が編集に当たってこうした整理を行いながら教科書を編集し、指導書等でその構造を示していくことで、経験の浅い教師でも資質・能力を関連付けて深めていく授業づくりが徐々にできるようになっていく環境を整えていくことが重要。

「高次の資質・能力」等を生かした単元計画づくりの参考イメージ (中学校・数学)

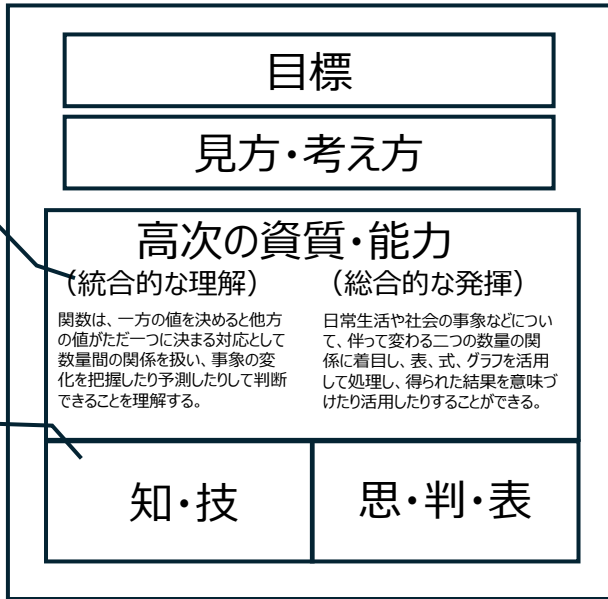


次は2年生の「一次関数」か。
問題を解いていっただけでは、子供達も学習内容の意義を理解できないだろうし、単に内容を覚えて、問題を解くことができるようになることが身に付けさせたい力ではないはず。そもそも「一次関数」の学習では、本質的にどういう資質・能力を育てたいんだっけ？



まず、学習指導要領の記述を確認してみよう。

デジタル学習指導要領 (イメージ)



学習を終えた後に目指したい学習の深まりの姿を確認できる。

他教科や前後の学習内容も確認できる。デジタル学習指導要領では解説の記述や評価規準例も見られる。



生徒が最終的に「高次の資質・能力」を身に付けられるように、学習内容を組み立てるのか。ここでは、関数を使えば**事象の変化を把握したり予測したりして判断できることに気づかせたい**な。そのためには、**数学的活動を通して、一次関数について理解し、表、式、グラフなどを用いて数量の変化や対応の様子などを捉え、事象の考察に生かせるようにすることが大切だ**。
デジタル学習指導要領では、学習指導要領解説の記述も確認できるから学習活動を組み立てる際のヒントになるし、適切な見取りとフィードバックの方法も考えておけば取り残される生徒も減りそうだ。



複雑な課題の解決に向けた思考力、判断力、表現力等が発揮できる活動を取り入れる必要があるけれど、時間も限られているから、うまくポイントを重点化して単元を組まないといけないな。育成したい「高次の資質・能力」や前後の学習内容や教科書の該当ページなどを踏まえて、この単元に充てられる授業時数は何時間になるだろうか。...



日常生活や社会における問題を一次関数を使って解決する数学的活動の中で、関数の必要性や意味の理解を深めるような学習の流れを設定しよう。また、事象と一次関数のつながりを捉えやすいように、単元の最初と最後に、ガイダンスと振り返り時間を設定しよう。

予測したことを検討する際には、根拠をもとに意見交換をする時間を確保したいから、表からグラフに表すことや、式をつくることは、簡単な事象を考察するときに合わせて扱ってしまおう。

特に、表、式、グラフを用いて数量の変化や対応の様子などを捉えられるように、単元の中盤に、「水を熱したときの水温の変化を調べ、水温が80℃になるまでの時間を予測する実験」を設定し、体験的に理解できるようにしよう。

ここまでで、一次関数の特徴を、表、式、グラフで捉えるとともに、それらを相互に関連付けて理解できるようになっているので、最後に、数量の関係を一次関数と仮定して解決する事例を1時間指導しよう。

これで、本単元での学習内容の順番が決まった。
これから、本単元に充てる授業時数は合計で17時間になるな。



学習内容や学習の順番が決まったので、評価計画を立てるか。育成したい資質・能力をきちんと見とれる評価にしたいな。



知・技は、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に身に付いているか見取りたいな。今回は、実験、観察における表、式、グラフなどの記述分析で見取ってみようか。

特に思・判・表は、数学的な探究の過程で身につけた資質・能力を総合的に発揮して表現するようなパフォーマンス課題を設けたらよさそう。

デジタル学習指導要領を使えば、評価規準例も一括で見られるのが便利だな！

単元構想のイメージ

1. 単元名：一次関数

学習指導要領の記述

2. 教科の見方・考え方

事象や言説を数理の視点から捉え、論理的、統合的・発展的、批判的に考察すること。

学習指導要領の記述

3. 分野・区分の高次の資質・能力

統合的な理解	総合的な発揮
関数は、一方の値を決めると他方の値がただ一つに決まる対応として数量間の関係を扱い、事象の変化を把握したり予測したりできることを理解する。	事象において、ある数量とそれに関係する別の数量との関係に着目し、関数として捉え、表、式、グラフを相互に関連付けて表現・処理し、得られた結果を事象に即して解釈する。

指導要録通知の「学びに向かう力」の「見取る姿」

4. 学びに向かう力・人間性等の「見取る姿（仮称）」

- 事象に知的好奇心や目的意識をもって問題を見だし、数学を活用しようとしている
- 他者と数学的論拠に基づいて協働し、問題解決を進めようとしている
- 問題発見・解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている

何ができるようになるかを明確にする
【目標（評価規準）の設定】
※学習指導要領の内容の文末を変更

5. 単元の目標・評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現
目標（評価規準）	①一次関数について理解している。	①事象において、一次関数として捉え、問題の状況を表、式、グラフなどを用いて表現することができる。
	②事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを知っている。	②数量の変化や対応の様子について、表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができる。
	③二元一次方程式を関数を表す式ととみることができる。	③表、式、グラフを用いて処理した結果を事象に即して解釈し、吟味することができる。

6. 評価課題

「データから富士山の6合目付近の高さの気温を予測し、予測した方法と理由を説明しよう！」

身につけさせたい資質・能力の発揮を見取り、その水準を判断できる課題を考える
【評価課題のデザイン】

7. 指導と評価の計画

評価課題に向けて資質・能力を身につけ、発揮しやすい学習活動を組み立てる
【学習過程のデザイン】

身につけさせたい姿と現状の差分を学習途中で見取り、適切なフィードバックの方法を考える
【形成的評価の計画的な実施】

時間	学習活動	重点	記録	備考
1 2	●単元のガイダンス ●事象と一次関数		知	※ガイダンスでは、 ・学習の流れと学習方法 ・前後の学習内容とのつながりを指導する。 知①：小テスト（結果を3時間目以降の指導に生かす）
3-9 10	●一次関数の特徴 ・一次関数の値の変化 ・一次関数のグラフ ・一次関数を求める方法 ●振り返りと評価問題	知	知 ○	知②：行動観察 ※一次関数の二つの数量の関係について、表の値からグラフで表すことができるようにする。 知①②：小テスト ※前時までに知識及び技能が深まった状況を評価する。
11-13	●二元一次方程式と一次関数 ・二元一次方程式のグラフ ・連立方程式とグラフ	知	知	知③：行動観察 ※座標平面上の2直線の交点の座標は、連立方程式の解として求められることを理解できるようにする。
14-16	●一次関数の利用 ・一次関数と仮定すること ・一次関数のグラフの利用	知 思	知 ○	知① 思①：ワークシート
17	●評価課題 ●学習の振り返り	思 学	思 ○	思①②③ ※評価課題で、資質・能力の発揮の水準を確認する。 ※学びに向かう力・人間性等の「見取る姿（仮称）」に関わり、 ・学習前後の自己の変容を基に、次単元での学習にどのように生かそうとしているかなど生徒が記述する時間を設定する。



このように、学習指導要領を基にして構想することができるんだね。

※高次の資質・能力等を活かして単元構想を行う際の思考プロセスを明確にするために作成しているイメージであり、各教師に常に参考イメージに示した資料を作成することを求める趣旨ではないことに留意。教科書会社が編集に当たってこうした整理を行いながら教科書を編集し、指導書等でその構造を示していくことで、経験の浅い教師でも資質・能力を関連付けて深めていく授業づくりが徐々にできるようになっていく環境を整えていくことが重要。

構造化・表形式化した学習指導要領を活かした授業づくりの参考イメージ (中学校・数学)



「高次の資質・能力」に照らすと、この単元の学習を通して、
 「統合的な理解」：関数は、事象の変化を把握したり予測したりできることを理解
 「総合的な発揮」：事象において、ある数量とそれに関係する別の数量との関係に
 着目し、関数として捉え、表、式、グラフを相互に関連付けて表
 現・処理し、得られた結果を事象に即して解釈
 することに到達できるようにする必要があるから、6時間目の学習活動は…

○これまでの学習を振り返って次の学習に生かす場面

初めに、小学校6年で、紙パックの枚数と重さの関係などを利用して比例について体験的に学習しているので、比例を利用して問題解決する過程を再度確認できるようにしよう。
 その上で、2分をはかる砂時計を作るために、砂時計に入れる砂の重さと砂が落ちきるまでにかかる時間の関係を調べる場面で、比例についての課題を設定することができるようにすればよいね。

○関係する2つの数量を見いだす場面

算数で学んだ比例の内容と関係付けて考えられるようにするとともに、砂が落ちきるまでの時間を予測するために何を調べればよいか気付いたことを話し合ってみよう。

○2つの数量の関係を理想化・単純化して考察する場面

砂の重さを x g、砂が落ちきるまでの時間を y 秒として調べ、表やグラフにまとめ、事象の変化を把握できるようにしよう。
 また、表や数値を用いて求めた割合が一定であると考えたり、座標平面上に表された点が原点を通る一直線上にあると考えたりするなどして、二つの数量の関係を比例と仮定して砂が落ちきるまでの時間について考察できるよ。

○解決した結果を振り返り、解決の方法をまとめる場面

新たに直面する問題について、数学を活用して解決できるようにするためには、問題解決の方法に焦点を当てて話し合い、その際に用いた数学的な考えについて共有する場面を設定するとよさそうだ。

○次の時間に向けて

18時間目には、評価課題を実施するので、事象から生徒が解決過程を見通すことができるようにしたいな。





このように、構造化・表形式化した学習指導要領を授業づくりに活かすことができるのだな。

本時【17時間目】の展開例

本時の目標

2分をはかる砂時計を作る場面で、関わりのある2つの数量を見だし、その関係を比例と仮定して数学的に考察することができるようにする。

時間	学習活動	備考
17	<p>【算数での比例の学習を振り返る場面】 ○集まった紙パックの枚数を直接数えずに求める場面を取り上げ、どのように解決をしたか話し合う</p>  <p>課題 2分間スピーチのために砂時計を作ろうと思う。砂が落ちきるまでの時間を2分にするためには、どうしたらよいのだろうか</p>  <p>【関係する2つの数量を見いだす場面】 ○目的に応じて関係する2量を見だし、表現する ・砂の量を変えればいいのか。 ・砂を通す厚紙の穴の大きさを変えてもいいね。 ・実際に作るとしたら、厚紙の穴の大きさをより砂の量を変えた方が作りやすそうだ。</p> <p>【2つの数量の関係を捉え、比例と仮定する場面】 ○2量を決めて実験し、その結果を数学的に表現する ・xの値が25ずつ増えるごとに、yの値は、およそ12ずつ増えているね。 ・表を基にグラフの点をとると、とった点は一直線上に並んではないみたい。 ・とった点が一直線上にあるとみてもいいのではないかな。 ・砂が落ちきるまでの時間は砂の重さに比例すると仮定して予測しよう。</p> <p>【比例と仮定して解決する場面】 ○実験結果を基に、表、式、グラフを用いて解決する ・直線のグラフをかいて、y座標が120のときのx座標を読めばいいかな。 ・$y=0.48x$の式に、$y=120$を代入してxの値を求めればいいかな。</p> <p>【本時を振り返る場面】 ○2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法について話し合いながら振り返って、まとめる。</p>	<p>小学校算数で、変化の様子を表や式、折れ線グラフを用いて表したり、変化の特徴を読み取ったりして問題を解決したことについても想起できるようにする</p> <p>問題を解決するために必要なデータについて、実験のしやすさも見通して考慮できるようにする。</p> <p>本単元5～8時間目の比例の性質と調べ方の学習も想起し、日常事象における伴って変わる二つの数量について、観察や操作、実験などの活動から得られたデータを、表やグラフに表現することを通して、その二つの数量の関係を捉えることができるようにする。</p> <p>日常的な事象に含まれる数量を比例と仮定して問題解決することのよさや、表やグラフを相互に関連させて考察することのよさなどについて確認し、次時の課題解決に生かす。</p>



「高次の資質・能力」等を生かした単元構想の参考イメージ（高等学校・数学）

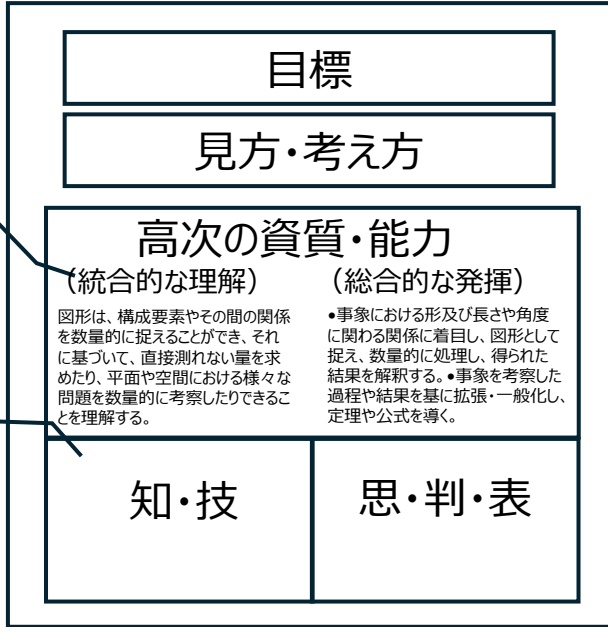


次は「図形と計量」か。教科書に沿って説明してだけでは、三角比の必要性や意味を理解しにくいだろうな。定理が複数出てくるけど、それを覚えさせて使わせるのがこの目標ではないはず。そもそも「図形と計量」ではどういう資質・能力を育てたいんだっけ？



まず、学習指導要領の記述を確認してみよう。

デジタル学習指導要領（イメージ）



学習を終えた後に目指したい学習の深まりの姿を確認できる。

他教科や前後の学習内容も確認できる。デジタル学習指導要領では解説の記述や評価規準例も見られる。



なるほど、最終的にこのような「統合的な理解」や「総合的な発揮」へと深めていきたいのか。そのためには、数学的活動を通して角度と辺の比の関係を捉えたり、それに基づいて計量した過程や結果を振り返って生徒が定理や公式を導いたりすることが大切になりそうだ。デジタル学習指導要領では、学習指導要領解説の記述も確認できるから指導を組み立てる際のヒントになるし、関連する中学校の内容なども確認できるから既習事項との接続や学び直しを生かした組み立てに生かせるな。



「統合的な理解」や「総合的な発揮」に至るには、日々の普通の授業が大切になるけど、時間数は限られているからうまくポイントを重点化して単元を組まないといけないな。個に応じた学習過程の工夫も大切だ。教科書も踏まえると、内容の配列や授業時数はどうするのが適切だろう？



事象を測量し、その過程や結果を基に一般化して生徒が定理や公式を導く中で、個別の知識及び技能を学んでいく流れを基本に据えよう。そうすると「思考力、判断力、表現力等」と「知識及び技能」を一体的に育成していくことになるし、時間数も削減できる。

角度と辺の比の関係の実感を促すために、「鋭角の三角比」の最初に、中学校での相似の学習を振り返りながら、測量の問題を扱ってみよう。そこから相互関係まで扱うとして7時間程度必要だ。

次に、生徒が測量した過程や結果を基に拡張・一般化することを目指すなら、「三角形の拡張」より先に「三角形への応用」を先に扱うことも考えられるな。それが「鋭角の三角比」の学び直しや活用にもなる。測量を通して鋭角の場合で余弦定理や正弦定理を導出し、ある程度なじんだ上で、それらの定理が成り立つように鈍角の三角比を定義する流れにして、三角比を鈍角まで拡張することの意義の理解を促してはどうだろう。途中で個々の生徒が振り返ったり発展させたりする時間を確保すると、11時間程度は必要になるな。

最後に、空間図形の考察を扱いたいし、単元のまとめや振り返りの時間も確保したい。これで3時間程度は必要だ。本単元での配列や授業時数が見えてきた。



内容の配列や時数が決まってきたので、同時に評価計画も立てておこう。育成したい資質・能力をきちんと見とれる評価にしたいな。



知・技は、例えば三角比の値を求められるだけでなく、その意味を理解しているかどうかを評価したい。ペーパーテストを用いる際には評価問題の工夫が必要だ。

特に思・判・表は、数学的活動を通して身につけた思考力、判断力、表現力等の発揮を評価できる必要がある。定期テスト以外に、生徒がじっくり思考・判断・表現して取り組む機会を用意しよう。

デジタル学習指導要領を使えば、評価規準例も一括で見られるのが便利だな！

単元構想のイメージ

1. 単元名：図形と計量

学習指導要領の記述

2. 教科の見方・考え方

事象や言説を数理の視点から捉え、論理的、統合的・展展的、批判的に考察すること。

学習指導要領の記述

3. 分野・区分の高次の資質・能力

統合的な理解	総合的な発揮
図形は、構成要素やその間の関係を数量的に捉えることができ、それに基づいて、直接測れない量を求めたり、平面や空間における様々な問題を考察したりできることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 事象における形及び長さや角度の間の関係に着目し、図形として捉え、数量的に処理して、得られた結果を解釈する。 事象を考察した過程や結果を基に拡張したり一般化したりし、定理や公式を導く。

指導要録通知の「学びに向かう力」の「見取る姿」

4. 学びに向かう力・人間性等の「見取る姿（仮称）」

- 事象に知的好奇心や目的意識をもって問題を見だし、数学を活用しようとしている
- 他者と数学的論拠に基づいて協働し、問題解決を進めようとしている
- 問題発見・解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている

育成を目指す資質・能力を明確にする【目標（評価規準）の設定】

5. 単元の目標・評価規準

目標（評価規準）	知識・技能	思考・判断・表現
① 鋭角の三角比の必要性和意味、相互関係について理解している。	① 事象における形及び長さや角度の間の関係などに着目し、図形の計量に関する問題として表現することができる。	①
② 正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解している。	② 計量の過程や結果を基に拡張・一般化し、・・・	②
③ ・・・	③ ・・・	③

6. 評価課題

「身の回りにある直接測れない長さや角度を間接的に

育成を目指す資質・能力の発揮を見取り、その水準を判断できる課題を考える【評価課題のデザイン】

測ってみよう！」

評価課題に向けて資質・能力を身につけ、発揮しやすい学習活動を組み立てる【学習過程のデザイン】

目指す姿と現状の差分を学習途中で見取り、適切なフィードバックの方法を考える【形成的評価の計画的な実施】

7. 指導と評価の計画

時間	学習活動	重点	記録	備考
1-4	● 鋭角の三角比 日常生活の事象を考察することを通して、直角三角形における角度と辺の比の間の関係を捉え、三角比の必要性や意味を理解できるようにする。	知		※ 「直接測れない長さや角度はどのように測れるだろうか？」を問いとして進める。 ※ 相似の学習を振り返る。
5-7	● 三角比の相互関係	知	○	※ 知①：小テスト（結果を指導に生かす）
8-14	● 三角形への応用（1） 日常生活の事象を考察することを通して、計量の過程や結果を振り返って一般化し余弦定理や正弦定理を導けるようにする。	思学		※ 「直接測れない長さや角度は測るにあたって三角比はどのように利用できるだろうか？」を問いとして進める。 ※ 思②：ワークシート
15-18	● 鈍角の三角比への拡張 鋭角三角形において成り立っている余弦定理や正弦定理などが鈍角三角形でも成り立つように鈍角の三角比へと拡張する。	思知		※ 具体的な鈍角三角形の計量を通して行う。 ※ 個別に理解を深めたり発展させたりする時間を設ける。
19-20	● 三角形への応用（2） 空間の事象において形及び長さや角度の間の関係に着目し、図形として捉え、三角比や諸定理を用いて処理し、結果を解釈できるようにする。	思		※ 思①：ワークシート
21-22	● 評価課題 ● 学習の振り返り	思学	○	※ 「総合的な発揮」を踏まえた評価課題で、資質・能力の深まりを確認する。

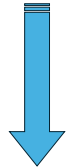


このように、学習指導要領を基にして構想することができるだね。

「高次の資質・能力」等を生かした授業づくりの参考イメージ (高等学校・数学)



第4時までを見据えて第1時の授業を構想しよう。「統合的な理解」と「総合的な発揮」を踏まえて、最初から測量の問題を扱ってみよう。そこで必要感を持って中学校での相似の学習を振り返りながら、角度と辺の比の関係の実感を促さないだろうか。学びに向かう力・人間性等も踏まえると、具体的にはどんな教材とその扱い方が考えられるだろうか。



最初に扱う図形は直角三角形で、「総合的な発揮」を踏まえると、形及び長さや角度に関わる関係に着目し、直角三角形として捉えられるような事象を扱いたい。その場面で、直角三角形において角度が決まれば辺の比が決まるという関係を生徒が実感することは、「統合的な理解」に向けて深めることになる。

そう考えてみると、「はしご車はどこまで届く？」を問題としてみてはどうだろう。はしご車を直角三角形と捉えることになるし、角度を変えたときの高さを自然に考察できる。はしご車の角度を60°のときから始めれば、中学校数学の内容を学び直しなが進むことができそうだ。何より、はしごが何mまで届くかは大事な問題だから、生徒が解決の必要性を感じてくれるんじゃないだろうか。そこで正弦が登場することにより、それを定義することのよさを感じてほしい。

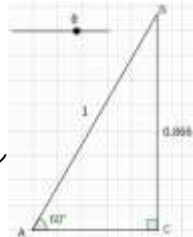
これは直接測れない量を求める数学的活動になりそうだし、数学的な見方・考え方に照らして妥当な活動と言える。



具体的に本時案に落とし込んでみよう。直角三角形において角度が決まれば辺の比が決まるという関係を生徒が実感する手立てとして何が考えられるかな。それと、生徒の姿を見取って指導に生かすために、生徒の反応をしっかり想定しておくことが大切だな。




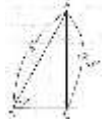

60°のときに、「∠Aの大きさが60°と分かれば、高さはいつでも斜辺の長さの $\sqrt{3}/2$ 倍になる」と見直しておきたいな。これはあまり自然には出てこない考えかもしれないから発問を用意しておこう。そこから、斜辺の長さを1とした直角三角形をデジタルツールを用いて操作することで、角度を変えたときに高さが決まることの実感を促してみよう。



本時【第1時】の展開例

本時の目標

事象を直角三角形として捉え、角度と辺の比の値の関係に着目して、三角比（正弦）の意味を理解できるようにする。（知識及び技能）

主な活動と予想される生徒の反応	備考
<ul style="list-style-type: none"> ● 事象を数理的に捉えて問題を見いだす T：火災時にビルの高層階に取り残された人を救出するために、はしご車を使用することがあります。はしご車はどのくらいの高さまで届くでしょうか。まずははしごの角度が60°のときを考えてみましょう。 	 <p>はしご車の動画を見せたり、その場面に 대해 話し合ったりするなどして現実感と問題意識を高めるようにする。 日本で多く使われているはしごの長さは30mである。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 主に個別に考える ▷ S1：直角三角形で捉えて縮図を用いる ▷ S2：直角三角形の辺の比を用いる ▷ S3：・・・ 	 <p>思考が進まない生徒には、問題の場面や条件をイメージできているか確認するとともに、30mと60°と高さが表れる図形として捉えるよう促す。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 主に協動的に考える ○ 考えの共有 ○ 縮図に表すことのよさについての議論 ○ 直角三角形の辺の比を用いることのよさについての議論 ※ 斜辺の長さを1とみて高さを求める考えを取り上げ価値付ける 	<p>「∠Aの大きさが60°と分かれば、高さはいつでも斜辺の長さの$\sqrt{3}/2$倍になる」という考えが出てこない場合は、「60°のとき、はしごの長さから高さを求めることができるか」と問う。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● さらに問題を見だし、協動的に考える T：多くのはしご車では、最大75°まで動くそうです。このとき高さ何mまで届きますか。 ▷ 反応例1：直角三角形の比がわからない ▷ 反応例2：縮図をかけたばわかる ▷ 反応例3：・・・ ○ 斜辺の長さが1の直角三角形の高さを表示するツールを提供する ○ はしごの高さを求めて解釈する ○ 生徒が∠Aの大きさを他の様々な値に変えてみたときのBCの長さを観察する活動に基づいて正弦を導入する 	 <p>今は60°のときの高さを求めたがはしご車で救助することを考えると気になるのは何かなどと問い、生徒が問題を見いだせるようにする。</p> <p>生徒一人一人が作図ツールを使って調べられるようにする。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 振り返る T：今日の授業で大それたと思ったことは何ですか。また、今日の授業を踏まえると、次にどんなことを考えてみたいですか。振り返り用紙に記しておきましょう。 	<p>指導に生かす評価としての知識・技能：角度と辺の比の値の関係に着目して、三角比（正弦）の意味を理解できたか【振り返りシート】</p>

「高次の資質・能力」等を活かした単元構想の参考イメージ（中学校・理科）

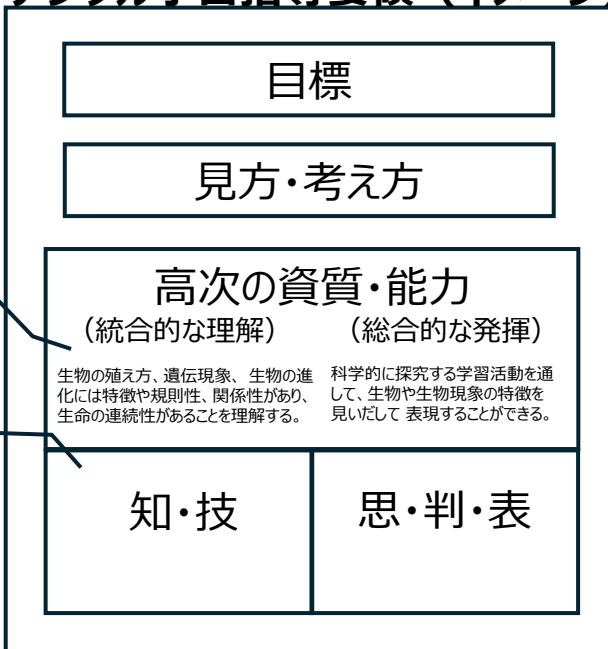


次は3年生の生物分野「遺伝の規則性と遺伝子」か。教科書をなぞるだけでは、子供達も学習内容を深く理解できないだろうし、資質・能力も身につけにくいだろうな。そもそもこの学習内容は本質的にどういった資質・能力を育てたいんだっけ？



まず、学習指導要領の記述を確認してみよう。

デジタル学習指導要領（イメージ）



学習を終えた後に目指したい学習の深まりの姿を確認できる。

他教科や前後の学習内容も確認できる。デジタル学習指導要領では解説の記述や評価規準例も見られる。



なるほど、生徒が最終的に「高次の資質・能力」を身に付けられるように、学習内容を組み立てるのか。科学的な探究の活動を通して、遺伝の規則性や生命の連続性を理解できるようにしたい。デジタル学習指導要領では、学習指導要領解説の記述も確認できるからヒントになるし、前後の学習内容なども確認しておけば取り残される生徒も減りそうだ。



教科書の見開き2ページを毎コマ積み重ねるだけでは「科学的な探究」の活動にならないし、深い理解にも繋がらないから、うまくポイントを重点化して単元を組まないといけないな。育成したい「高次の資質・能力」や前後の学習内容や教科書の該当ページなどを踏まえて、この単元に充てられる授業時数は何時間になるだろうか。...



「遺伝の仕組み」と「遺伝のモデル実験」の学習内容に重点を置き、それぞれ2時間を充てよう。規則性・生命の連続性に関する学びの本質がつかみやすいように、単元の最初と最後に、ガイダンスと振り返り時間を設定しよう。

科学的に探究する時間を確保したいし、「遺伝の仕組み」では、科学史としての「メンデルの交配実験」の扱いは軽くしよう。

特に、遺伝の仕組みの本質的な理解を促すために、4、5時に、「遺伝のモデル実験」を設定しよう。

第4時の実験では、「各自の実験結果の考察」を重点として、
第5時の実験では、「実験値と理論値を比較して考える新たな実験計画の立案」を重点として、実施しよう。

ここまでで「遺伝の仕組み」が理解できるので、最後に、遺伝を担うものを理解するために、「遺伝子の本体」について、1時間指導しよう。

これで、本単元での学習内容の順番が決まった。
これらから、本単元に充てる授業時数は合計で7時間になるな。



学習内容や学習の順番が決まったので、評価計画を立てるか。身につけさせたい資質・能力をきちんと見とれる評価にしたいな。



最初に、この単元で身につけさせたい資質・能力の発揮を見取り、その水準を判断できる評価課題を考えて、それぞれの授業では、...

知・技は、規則性・生命の連続性に関する本質的な理解をペーパーテストで見取るのは難しそうだな。今回は、実験記録の記述分析で見取ってみようか。

思・判・表は、科学的な探究の過程で身につけた資質・能力を見取って、評価しよう。

デジタル学習指導要領を使えば、評価規準例も一括で見られるのが便利だな！

「高次の資質・能力」等を活かした単元構想の参考イメージ(中学校・理科)

単元構想のイメージ

1. 単元名: 遺伝の規則性と遺伝子

2. 教科の見方・考え方

自然や社会の事象・言説を、自然科学的な視点から捉え、観察・実験の結果や科学的知見などに基づいて、客観的、論理的、批判的に考察すること

3. 分野・区分の高次の資質・能力

統合的な理解	総合的な発揮
生物の殖え方、遺伝現象、生物の進化には特徴や規則性、関係性があり、生命の連続性があることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。

4. 学びに向かう力・人間性等の「見取る姿(仮称)」

自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている

- 自然の事物・現象に興味・関心をもって、課題の解決に挑戦しようとしている
- 探究の過程を通して、多様な他者対話・協働しようとしている
- 主体的に粘り強く試行錯誤しながら探究の過程を進めようとしている

5. 単元の目標・評価規準

目標 (評価規準)	知識・技能	思考・判断・表現
	遺伝の規則性と遺伝子に関する事物・現象の特徴に着目しながら、遺伝の規則性と遺伝子についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、・・・	遺伝の規則性と遺伝子について、観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、遺伝現象についての特徴や規則性を見いだして表現しているとともに、・・・

6. 評価課題

「2色のトウモロコシの種子の色の遺伝」について、その仕組みを説明しなさい。

7. 指導と評価の計画

時間	学習活動	重点	記録	備考
1	●単元のガイダンス ●既習事項や既存の知識のイメージマップでの整理	知		※ガイダンスでは、 ・学習の流れと学習方法 ・前後の学習内容とのつながりを指導する。 ※イメージマップでの整理は、7時間目の学習の振り返りのために行う。
2 3	●遺伝の仕組み ・メンデルの交配実験 ・有性生殖と顕性の法則 ・減数分裂と分離の法則	知		※遺伝の法則については、生命現象と関連付けて理解させる。
4 5	●遺伝のモデル実験 ・実験操作の意味 ・実験結果の考察	知 思	○ ○	※観点別学習評価は、 ・操作の意味を理解しているか ・実験結果と理論値を比較して結果の妥当性や改善方法を考察しているかを記述分析で評価する。
6	●遺伝子の本体 ・染色体、DNA、遺伝子の関係	知		
7	●学習の振り返り ・学習内容のイメージマップでの再整理 ●評価課題	思 知 思	 ○ ○	※評価課題で、資質・能力の発揮の水準を確認する。



このように、学習指導要領を基にして構想することができるんだね。

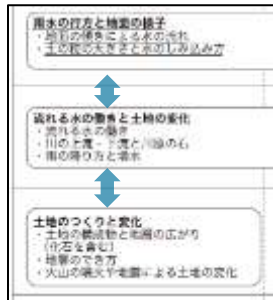
構造化・表形式化した学習指導要領を活かした授業づくりの参考イメージ（小学校・理科）



「高次の資質・能力」に照らすと、この単元の学習を通して、
「統合的な理解」：流水の働きによって、地表が変化することの理解
「総合的な発揮」：科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することに到達できるようにする必要があるから、6時間目の学習活動は・・・

○自然の事物・現象との関わりと課題を見いだす場面

初めに、4年「雨水の行方と地面の様子」で、雨水の流れ方や地面の様子を学習しているので、雨水で地面の様子がどのように変わったのかを再度確認できるようにしよう。その上で、学校の近くの川が増水したときの様子の写真から、水の量が増えたときの流れる水の働きについての課題を設定することができるようにすればよいね。



○仮説を設定する場面

「雨水の行方と地面の様子」を既習の内容として、関係付けて考えられるようにするとともに、生活経験として川の様子で気付いていることも意見として共有できるようにしよう。

○検証計画を立案する場面

2時間目の流れる水の働きについて調べたときの検証計画が活かせるな。また、水の量を増やすので、条件制御については、既習の内容の「植物の発芽、成長、結実」の実験を想起できるようにしよう。



○次の時間に向けて

7時間目には、実験を実施するので、仮説から児童が結果を見通すことができるようにしよう。



このように、構造化・表形式化した学習指導要領を授業づくりに活かすことができるのだな。

本時【6時間目】の展開例

本時の目標 流れる水の働きについて、仮説を基に、検証計画を立案し、表現することができる。

時間	学習活動	備考
6	<p>【自然の事物・現象との関わり場面】</p> <p>○「普段の様子」の川と「水の量が増えた川」の写真 を2つ並べて掲示し、気付いたことを話し合う</p> <p>【課題を見いだす場面】</p> <p>○気付いたことから課題を見だし、表現する</p> <p>課題 水の量が増えたときに、流れる水の働きはどのように変わるのだろうか</p> <p>【仮説を設定する場面】</p> <p>○課題に対する仮説を設定し、表現する</p> <p>【検証計画を立案する場面】</p> <p>○仮説を基に、検証計画を立案し、表現する</p> <p>【本時を振り返る場面】</p> <p>○検証計画を立案し、表現できたかどうかを振り返る</p>	<p>4年「雨水の行方と地面の様子」から、<u>雨の量が増えたときの運動場の様子</u>についても想起できるようにする</p> <p>雨の量が増えたときの運動場の様子</p> <p>本単元1時間目の課題「流れる水にはどのような働きがあるのだろうか」を想起できるようにする。</p> <p>本単元1時間目の仮説、3時間目の結論から、「浸食」「運搬」「堆積」といった流れる水の働きで仮説を設定できるようにする。 また、4年「雨水の行方と地面の様子」を既習の内容として確認する。</p> <p>本単元2時間目の検証計画を活かすことができることや、条件を制御して実験を行った「植物の発芽、成長、結実」の実験を想起できるようにして、条件制御について確認する。</p> <p>発芽に日光が必要かどうかを確かめた実験の様子</p>



「高次の資質・能力」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ (中学校体育分野)

中学校 体育分野 ボール運動 (仮称) ネット型：バレーボール

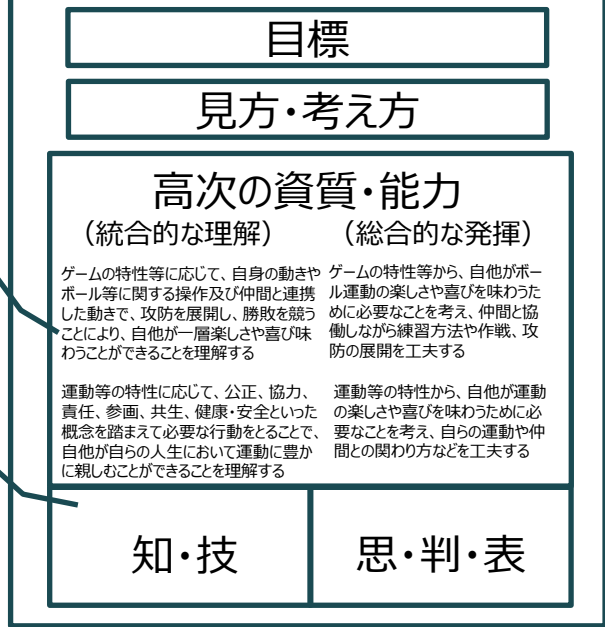


2学期に実施する第1学年のバレーボールの指導計画を考えよう。ボール操作の練習をたくさんすれば技能を身につけることはできるけど、それだけでは資質・能力をバランスよく育成することができないだろうな。そもそも、ボール運動の学習内容は本質的にどういった資質・能力を育てたいんだっけ？



まず、学習指導要領を確認してみよう。

デジタル学習指導要領 (イメージ)



学習を終えた後に目指したい学習の深まりの姿を確認できる。

他教科や前後の学習内容も確認できる。デジタル学習指導要領では解説の記述や評価規準例も見られる。



なるほど、生徒が最終的に「高次の資質・能力」を身に付けられるように、学習内容を組み立てるのか。攻防を展開して、バレーボールの楽しさや喜びを味わうことができるようにしたい。デジタル学習指導要領では、学習指導要領解説の記述も確認できるからヒントになるし、小学校や中3以降の学習内容なども確認しておけば系統的な指導につながりそうだ。



バレーボールは技術の差があり運動が苦手な生徒にとっては難しい種目という面があるから工夫が必要だな。「高次の資質・能力」を踏まえて、深い学びが実現できるようにイメージしながら単元計画を考えよう。



この単元では攻防を展開して、バレーボールの楽しさや喜びを味わうことができるようにすることが重要だから、柔らかいボールを使用したりネットの高さを工夫したりゲームを簡易化したりして、運動が苦手な生徒も楽しさや喜びを味わうことができるようにしよう。

それに、簡易化したゲームだと学習課題を追求しやすいので、課題の解決に向けた学習過程を充実することができるようになるな。

技能ばかりに偏るのではなく、「運動との関わり方」も含めて知識もバランスよく理解できるようにすることが重要だな。行動の仕方などの具体的な知識だけでなく、行う意義などの汎用的な知識も関連させて指導するようにしよう。それから、思・判・表の指導とも関連を図ることで、生徒の学びが深まることが期待できるな。

2時間目に簡易ゲームを通して課題を発見できる機会を確保しよう。そうすれば、その後の基本的なボール操作とラリー継続の練習の意味を理解することにもつながるな。6時間目の簡易ゲームでフェアなプレイを守ることに指導しよう。7時間目と8時間目では、簡易ゲームで確認した課題をグループで解決する活動を設定して、最後にリーグ戦を2時間確保すると授業時数は合計で10時間になるかな。



学習内容や学習の順番が決まったので、評価計画を立てるか。身につけさせたい資質・能力をきちんと見取れる評価になっているか確認しながら考えよう。



安全確保に関する知識はその後の学習活動にも関わる内容だから、単元の始めの2時間目で指導して学習カードの記述で見取ってみよう。

6時間目でフェアなプレイの知識を指導して、9時間目のリーグ戦で実現状況を観察で見取って評価しよう。

7時間目にフェアなプレイに関する思・判・表の指導と評価を行えば知・技の内容と関連を図ることができるな。

デジタル学習指導要領を使えば、評価規準例も一括で見られるのが便利だな！

「高次の資質・能力」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ(中学校体育分野)

中学校 体育分野 ボール運動(仮称) ネット型: バレーボール

単元計画書のイメージ

1. 単元名: ボール運動 ネット型(バレーボール)
中学校第1学年

学習指導要領の記述を転記する。

2. 教科の見方・考え方

運動やスポーツを、心身の充実に果たす役割や多様な楽しみ方の視点から捉え、自他の豊かな生活及び活力あふれる社会づくりにつなげること。

学習指導要領の記述を転記する。

3. 分野・区分の高次の資質・能力

統合的な理解	総合的な発揮
ゲームの特性等に応じて、自身の動きやボール等に関する操作及び仲間と連携した動きで、攻防を展開し、勝敗を競うことにより、自他が一層楽しさや喜び味わうことができることを理解する	ゲームの特性等から、自他がボール運動の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら練習方法や作戦、攻防の展開を工夫する
運動等の特性等に応じて、公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全といった概念を踏まえて必要な行動をとることで、自他が自らの人生において運動に豊かに親しむことができることを理解する	運動等の特性等から、自他が運動の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、自らの運動や仲間との関わり方などを工夫する

4. 学びに向かう力・人間性等の「見取る姿(仮称)」

※ 今後検討

5. 単元の目標・評価規準

何を身に付けさせたいのかを明確にする

知識・技能	思考・判断・表現
・ボール運動には・・・ことについて言ったり書きだしたりしている。 ・相手コートの・・・に、・・・することができる。	・動きのポイントやつづき・・・を伝えている。 ・仲間と協力する場面で、・・・を見付けている。
⋮	⋮

授業内容、評価場面と評価方法を計画する。

6. 指導と評価の計画

時間	学習活動	観点	備考
1	●オリエンテーション ●バレーボールの特性について ●試しのゲーム	知	・単元の目標や流れの確認
2 3	●ボール操作の練習① ●安全確保の方法について ●簡易ゲーム	知	・用具の扱い方やネットの設置状態確認などの知識を指導する。 ・簡易ゲームを通して、自他の課題を発見できるようにする。
4	●ボール操作の練習② ・動画撮影による自己や仲間の課題発見	知	・2時間目に知識として指導した「安全を確保すること」の実現状況を見取る。
5	●ラリーを継続する練習	知 思	・「空いた場所への攻撃を中心としたラリーの継続」という学習課題にせまるため、ネットの高さや用具を工夫したり、ゲームを簡易化したりして行う。
6	●簡易ゲーム ・フェアなプレイについて ・ゲームでの安全確保について	知 思	・フェアなプレイを守ることにについて、関わり方の例や意義を指導する。また、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の関連を図って指導する。
7 8	●課題別練習 ・グループの課題に応じた練習	知 思	
9	●リーグ戦①	知	・リーグ戦において、6時間目に知識として指導した「フェアなプレイを守ること」の実現状況を見取る。
10	●リーグ戦② ●単元のまとめ		



このように、学習指導要領を基にして作成することができるんだね。

※高次の資質・能力等を活かして単元構想を行う際の思考プロセスを明確にするために作成しているイメージであり、各教師に常に参考イメージに示した資料を作成することを求める趣旨ではないことに留意。教科書会社が編集に当たってこうした整理を行いながら教科書を編集し、指導書等でその構造を示していくことで、経験の浅い教師でも資質・能力を関連付けて深めていく授業づくりが徐々にできるようになっていく環境を整えていくことが重要。

「高次の資質・能力」等を活かした題材計画づくりの参考イメージ（小学校・音楽科）

補足イメージ



1年生から鍵盤ハーモニカを学習してきたけど、教科書では3年生でリコーダーをはじめ扱うことになっているな。そもそも、リコーダーを扱う学習で、どんな**資質・能力**を育てることを目指しているのだったかな？

まず、学習指導要領の記述を確認してみよう。

デジタル学習指導要領（イメージ）

目標		他教科等や前後の学習内容も確認できる。デジタル学習指導要領では解説の記述や評価規準例も見られる。
見方・考え方		
	高次の資質・能力	内容
総合的な発揮	音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、曲の特徴を生かした表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって歌唱や楽器による表現がもつ意味や価値を実感しながら、音楽表現を深めることができる	思・判・表
統合的な理解	音色や響きの特徴などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図をもって歌唱や楽器で表現できることを理解している	知・技

学習を終えた後に目指したい学習の深まりの姿を確認できる。

歌唱・器楽の高次の資質・能力を見ると、リコーダーを扱う授業で目指す学習の深まりがイメージしやすいし、**表形式**で学習の系統性もわかって、鍵盤ハーモニカとリコーダーの学習のつながりが見えてくるな。学年末に「統合的な理解」や「総合的な発揮」に至った子供の姿が見られるように、年間を見通して学習内容を組み立てよう。



この題材では、リコーダーの音色のよさを感じ取りながら、鍵盤ハーモニカの学習を生かして息や舌の使い方を意識して演奏できるようにしたいな。子供の実態を踏まえながら、**教科書に載っている教材や活動から、題材のねらいにつながりやすいものを選んで学習活動を構成しよう。**

「総合的な発揮」には「音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして」とあるな。これは「音楽を形づくっている要素」を根拠にして表現を工夫するということか。この題材では、**音楽を形づくっている要素の解説**を参考にすると、「音色」をよりどころにするのがよさそうだ。

「音色」に関わる学習内容として、まず**知・技**の事項の学習が大切になりそうだから、第1・2時では、私の範奏を聴いて模奏したり、タブレットを活用して自分の音を可視化したりながら、音色と息の使い方やタンギングとの関係について、より**実感を伴って理解**できるようにしよう。第3・4時では音色に関わる理解を生かして、教科書に載っている「シ」の音だけや「シ」と「ラ」を使った曲など、いくつかの曲で試しながら工夫して吹くことができるようにしよう。

あと、教科書にはリコーダーの参考曲の**鑑賞**も載っているけど、デジタル学習指導要領で歌唱・器楽と鑑賞の区分を併せて確認すると、**鑑賞の学習**として「味わって聴く」ところまで位置付けることは必要なさそうだ。



学習内容や学習の順番が決まったので、評価計画を立てよう。子供の学習状況をしっかり把握して、**着実に資質・能力を身に付けられるように働きかけ**ができるよう準備しておこう。



知・技の事項が一体的に示されているから、自分でリコーダーを吹いて試す場面を設定し、知・技の学習状況を把握しよう。ペアで互いの演奏を聴き合ってチェックするのもよさそうだ。ただ、リコーダーの学習は、この後の題材でも続くから、**知・技については、この題材では記録に残さず**、形成的評価に絞って、課題が見られる子供にしっかり働きかけをしよう。

思・判・表は、曲をリコーダーで演奏するところで評価場面を設定しようと思っていたけど、評価規準例には「思いや意図をもって」とあるから、思いや意図を言葉で表す機会も必要だな。

「高次の資質・能力」等を活かした題材計画づくりの参考イメージ(小学校・音楽科)

題材計画書のイメージ

1. 題材名：リコーダーとなかよくなるう

学習指導要領の記述

2. 教科の見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと。

学習指導要領の記述

3. 「歌唱・器楽」区分の高次の資質・能力

統合的な理解	統合的な発揮
音色や響きの特徴などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図をもって歌唱や器楽で表現できることを理解している	音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、曲の特徴を生かした表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって歌唱や器楽による表現がもつ意味や価値を実感しながら、音楽表現を深めることができる

指導要録通知の「学びに向かう力」の「見取る姿」

学習指導要領の記述

4. 学びに向かう力、人間性等の目標、「見取る姿(仮称)」

目標	見取る姿(仮称)
楽しさを味わいながら主体的・協働的に音楽活動に取り組み、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、創造的に音楽に関わり親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う	<ul style="list-style-type: none"> 音や音楽に進んで関わろうとしながら、自分にとっての音楽を学ぶ意義を見いだそうとしている 他者と関わる中で感じ方や考え方を広げ深めながら、学び方を工夫し、思考を巡らせて音楽表現を深めたり音楽を聴き深めたりしようとしている

何を身につけさせたいかを明確にする【目標(評価規準)の設定】

5. 題材の目標、評価規準

知識・技能	思考・判断・表現
音色とその働きを諸感覚で・・・	音色とその働きとの関わり及び曲想と音楽の構造との・・・

※児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：音色

6. 指導と評価の計画

学習内容、評価場面と評価方法を計画する

時間	○学習内容・学習活動	知 技	思	・留意事項【評価方法】
1	○音色とその働きを諸感覚で捉えながら、息や舌、指などを調節して演奏する技能を身に付ける ・リコーダーの扱い方を知る ・教師の範奏をよく聴いて模奏する	↓	↓	・導入ではリコーダーの参考曲を聴き、音色のよさを感じ取り、器楽の学習に意欲をもてるようにする
2	○リコーダーの音色の特徴と息の使い方やタンギングの仕方との関わりについて理解する ・自分の音をよく聴きながら様々な吹き方を試す ・友達と互いの音を聴き合う			・タブレットで自分の音を可視化しながら吹き試す ・ペアで吹き方当てゲームをし、楽しんで学習できるようにする *「知識・技能」の総括的評価は1学期の器楽の題材を通して行うこととし、本題材では行動観察、演奏聴取、発言により形成的評価のみ行う。
3	○曲想と音楽の構造との関わりについて考える ・リコーダーで演奏しながら、旋律の動きやリズムに合った息の使い方やタンギングを工夫する			・旋律を歌ったり、旋律の動きやリズムに合わせて手を動かしたりするなどして、音楽の構造を捉えやすくしたり、息の使い方のイメージをもてるようにしたりする
4	○曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもって演奏する ・友達と演奏を聴き合ったり、タブレットで自分の演奏を録音して聴いたりし、よりよい演奏になるよう繰り返し吹き試す ・よいと思った吹き方の工夫とその理由をワークシートに記入する			・自分や友達を音をよく聴き、そのよさに気付くよう働きかける 【行動観察、演奏聴取、ワークシート】

7. 課題が見られる児童への働きかけの例

- ・タンギングの仕方と音色の関わりが実感できていない場合・・・
- ・考えた表現の工夫を、実際の演奏につなげられていない場合・・・

高次の資質・能力を踏まえて作成する



このように、学習指導要領を基にして作成することができるんだね。

「高次の資質・能力」等を活かした題材計画づくりの参考イメージ（中学校・美術科）

補足イメージ



3年生になり、将来への希望や進路への不安など揺れ動く気持ちを抱えている生徒が多い。次の題材では、自己の内面を見つめることを大切にしていこう。そのためには、生徒が強く心の中に表したいことを思い描けるようにすることが大切だ。主題を深めて豊かに表現できるようにしたい。生徒の学びが深まるにはどうすればよいだろう。そもそも、この学習内容は本質的にどのような資質・能力を育てていけばよいだろうか。



まず、学習指導要領の記述を確認してみよう。

デジタル学習指導要領（イメージ）

目標		他教科等や前後の学習内容も確認できる。デジタル学習指導要領では解説の記述や評価規準例も見られる。
見方・考え方		
	高次の資質・能力	内容
総合的な発揮	自分と美術との関わりから対象や事象を見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に、豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	思・判・表
統合的な理解	自分と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、場面や状況に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	知・技

学習を終えた後に目指したい学習の深まりの姿を確認できる。



「自分と美術」の「高次の資質・能力」を見ると、心の内面を描く授業で目指す学習の深まりがイメージできるな。造形の要素の働きやイメージなどを手掛かりに、場面や状況に応じて活用できる技能を身に付け、豊かに発想や構想をしたことを、意図に応じて表現できるようにしたいな。



「知識や技能」、「思考力、判断力、表現力等」の内容事項を見ただけでは、それらの関係や学習の過程がイメージできなかったけど、区分ごとの「統合的な理解」や「総合的な発揮」を手掛かりにすると、**生徒の学びのプロセスを思い描けそう**だ。具体的に考えてみよう。 . . .



「**総合的な発揮**」には「**自分と美術との関わりから対象や事象を見つめ**…」とあるな。外見には現れない本質や、自分の心を見つめて深く考えることを大切にしていきたい。昨年度は、「木の生命感」をテーマに表現したので、本題材では、空想の世界をテーマにしていこう。

遠近や空間の視点をもてればさらに創造的に表現できそう。遠近に着目した**美術作品を鑑賞し、表現と関連させた指導**をしていこう。今回は版で表していく。ドライポイントなら線描の学習をする機会にもなる。これまでに**身に付けた技能を活用**できるよう、題材の最初に表現方法を確認したい。

次に、心の中の世界などを基に**主題を生み出して**、創造的に構成を工夫できるようにしよう。線の強調などについても着目できるかな。

主題を大切に**した表現**となるよう、ニードルの線の特徴を生かして表現方法を追求してほしい。プレス機を使った刷り方についてもおさえ、何度か挑戦できるようにしよう。

これで、題材の学習内容が決まった。本題材に充てる授業時数は合計で8時間だ。



学習内容や学習の順番が決まったので、評価計画を立てよう。生徒の学習状況をしっかり把握して、**着実に資質・能力を身に付けられる**ように働きかけができるよう準備しておこう。



技能については、生徒が材料や用具を使ったり様々な表現方法を試したりする姿を観察して捉えていこう。また、前の題材で鉛筆を使って様々な線描について学んだことが、この題材で活用されているか、**まとめて本題材で捉える**ようにしよう。

思考・判断・表現は、発想や構想をし、工夫して表現している姿を生徒が作品に表している場面から把握していこう。

「高次の資質・能力」等を活かした題材計画づくりの参考イメージ（中学校・美術科）

題材計画書のイメージ

1. 題材名：心の中の世界を描く～ドライポイントの表現方法を生かして～

学習指導要領の記述

2. 教科の見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと。

3. 「自分と美術」区分の高次の資質・能力

統合的な理解	総合的な発揮
自分と美術との関わりから、造形の要素の動きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、場面や状況に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	自分と美術との関わりから対象や事象を見つめ、感じ取ったことや考えたことを基に、豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる

学習指導要領の記述

指導要録通知の「学びに向かう力」「見取る姿」

学習指導要領の記述

4. 学びに向かう力、人間性等の目標、「見取る姿（仮称）」

目標	見取る姿（仮称）
創造することの喜びを味わいながら、主体的・協動的に美術の創造活動に取り組むとともに、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、美術や美術文化に関わり親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う	<ul style="list-style-type: none"> 美術や美術文化に進んで関わり、自分の感じ方や考え方を問い直しながら、自分としての意味や価値をつくりだそうとしている 他者と感じ方や考え方を交流し、様々な視点や考え方に触れ、振り返りながら、自分の表現、見方や感じ方を広げ深めようとしている

何を身につけさせたいかを明確にする【目標（評価規準）の設定】

5. 題材の目標、評価規準

知識・技能	思考・判断・表現
形や色彩などが感情にもたらす効果や、……	自己を見つめ夢や想像などの心の世界を基に主題を生み出し、……

6. 指導と評価の計画

学習内容、評価場面と評価方法を計画する

時間	○学習内容 ・学習活動	知 思	・留意事項 【評価方法】
1	○表現方法などに着目して作品の情報を読み取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考える	↓	※導入では美術作品を鑑賞し、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫について考え、発想や構想に繋げられるようにする
2	○ドライポイントの制作の手順を知り、材料や用具の特徴を確かめる ・塩ビ版とニードルを使い試す ・プレス機での刷り方を知る	↓	※ICT端末を使って、様々な表現の特徴について調べ、ニードルの使い方を試す
3 4	○夢や想像などを基に主題を生み出し、画面全体の構成などについて考えながら構想を練る ・立体感や遠近感に着目して、線の効果を考える	↓	※感じ取ったことや考えたことを基に深く自分を見つめ、主題を生み出し構想することができるよう働きかける
5 6	○発想や構想をしたことを基に、意図に応じて工夫して表現する	↓	※意図に応じて表現できるよう働きかける
7	○ニードルの特徴を生かした表現方法を追求する	○	※ニードルの特徴を生かして使い、表現方法を追求している様子を観察して学習状況を把握し、記録に残す【活動の様子、対話・発言】
8	○さらに意図に応じて工夫して表現する ・全体と部分の関係に着目して、作品を仕上げる ・プレス機で刷る	○	※工夫して表している様子を観察し、発想や構想をしたことが表現できているか学習状況を把握し、記録に残す。【活動の様子、ワークシート、作品】

7. 課題が見られる生徒への働きかけの例

高次の資質・能力を踏まえて作成する

- ・夢や想像などを基に主題を生み出せていない場合…
- ・意図に応じた表現の工夫を、制作につなげられていない場合・

このように、学習指導要領を基にして作成することができるだね。

「高次の資質・能力」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ（高等学校・芸術科「書道Ⅰ」）

補足イメージ



「楷書の学習」に続いて、「行書の学習」に入るぞ。行書は中学校国語科の書写でも学習しているけれど、国語と芸術では学習する目標や内容が違うのはもちろんだけど、芸術としての書道の学習が始まってまだ間もない生徒たちに学習内容についてどう伝えたいのだろう。そもそもこの学習内容は本質的にどうい**う資質・能力を育てたい**んだっけ？



まず、学習指導要領の記述を確認してみよう。

デジタル学習指導要領（イメージ）

目標		他教科等や前後の学習内容も確認できる。デジタル学習指導要領では解説の記述や評価規準例も見られる。
見方・考え方		
	高次の資質・能力	内容
総合的な発揮	自分と社会、文字や書の歴史や文化等との関わりから、書の伝統と文化、作品や書的美、その意味や価値について深く考え、自らの価値意識を形成しながら、創造的、個性的に美を表現したり自己表現したりすることができる	思・判・表
統合的な理解	作品や書における美の構造やその働き、書の伝統と文化について実感を伴って捉えながら、身体の機能や感覚を駆使して目的や状況に応じて自在に活用できる技能を身に付けることにより、創造的、個性的に表現できることを理解している	知・技

学習を終えた後に目指したい学習の深まりの姿を確認できる。



なるほど、生徒が学習し個別の資質・能力を身に付け、さらに「**高次の資質・能力**」へと高めていけるように、学習内容を組み立てるのか。個々の学習を通してどのような資質・能力を身に付けようとしているのかがよく分かるし、目指すべき生徒の姿もイメージしやすいな。



指導事項が資質・能力で整理されていることは理解しているけれど、指導を通して資質・能力をバランスよく育成できているかはいつも不安だった。でも、「**統合的な理解**」や「**総合的な発揮**」の記述を見ると、資質・能力の関係や**目指すべき方向がよくわかり**そうだな。



古典の表現を、知識と技能の両側面から捉え、それらを関連付けながら古典の表現の特徴を把握し、表現を体現する臨書を通して、歴史的・文化的背景等を含む古典に関する知識の深化と、古典の表現を形作る基本的な技能の習得が図れるように指導しよう。評価にあたっては、思考・判断する活動の中での**知識の習得・定着の状況**や活用状況を見取ることや、構想・工夫を実践する活動の中での**技能の習得の過程を見取ることが必要**だな。

思考力、判断力、表現力等については、構想・工夫する中で思考・判断している内容と、それを言語化して表現したり、構想・工夫して創造的に表現したりして働かせられるように指導しよう。評価にあたっては、ワークシート等の学習記録と成果物としての作品から**思考・判断・表現の過程を丁寧に見取ることが**できるよう準備が必要だ。もちろん生徒に資質・能力を働かせることを意識させる工夫も欠かせない。



それじゃあ、高次の資質・能力を、本単元における学習の深まりを意識した指導と評価にどう生かしたらよいだらう。



領域で目指す高次の資質・能力は、内容のまとまりを構成する複数の単元の**積み重ね**や、別の内容のまとまりでの学習との**関連**により総合的・統合的に働いている状態を目指すものだから、臨書から創作へ展開する本単元では、臨書により習得した知識や技能を使って何ができるかということを経験を通して理解しながら、表現することに取り組む創作の活動が、高次の資質・能力へとつながる活動と考えてよさそうだな。

活動を通して習得していく知識や技能を、思考・判断・表現する活動の中で活用し、資質・能力を往還させることにより、それぞれを高次の資質・能力へと高めていくためには、他者との相互鑑賞や意見交換を効果的に位置付けることが重要になるだろう。また、身に付けた資質・能力を発揮して創造的に表現する体験をして、自身や他者にとっての意味や価値を見いだすことにつなげることも意識し、生徒と共有しよう。

「高次の資質・能力」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ（高等学校・芸術科「書道Ⅰ」）

単元計画書のイメージ

1. 単元名：行書の学習

2. 教科の見方・考え方

感性を働かせ、文字や書を、書的美を構成する要素とその働き、伝統と文化などの視点で捉え、意味や価値を追求すること。

3. 高次の資質・能力

統合的な理解	総合的な発揮
作品や書における美の構造やその働き、書の伝統と文化について実感を伴って捉えながら、身体の機能や感覚を駆使して目的や状況に応じて自在に活用できる技能を身に付けることにより、創造的、個性的に表現できることを理解している	自分と社会、文字や書の歴史や文化等との関わりから、書の伝統と文化、作品や書的美、その意味や価値について深く考え、自らの価値意識を形成しながら、創造的、個性的に美を表現したり自己表現したりすることができる

4. 学びに向かう力、人間性等の目標、「見取る姿（仮称）」

目標	見取る姿（仮称）
主体的・協働的に書道の幅広い創造的な活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に関わり親しみ、書によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う	<ul style="list-style-type: none"> 書の伝統と文化に進んで関わろうとしながら、自分にとっての文字や書の意味や価値、それらを学ぶ意義を見いだそうとしている 他者と交流し、自分の感じ方や捉え方、考え方を広げ深めながら、書的美を追求し深めようとしている

5. 単元の目標・評価規準

知識・技能	思考・判断・表現
行書の古典の特徴・書風を構成する諸要素の働きや・・・	行書の古典の特徴・書風に基づく表現とその価値について、・・・

6. 指導と評価の計画

授業内容、評価場面と評価方法を計画する。

時間	○学習内容・学習活動	知 技	思	備考
1	○既習の知識の習得・定着の確認 ○行書の古典の特徴・書風に基づく表現とその価値について考える。 ・行書の古典を鑑賞し意見交換して、ワークシートに記入	↓	↓	※既習の学習内容を振り返り、既得の知識や観点を確認。 ※直感的鑑賞に基づき意見交換して記入したワークシートと活動の様子を踏まえ形成的評価を行う。
2 3	○「古典1」の特徴・書風、歴史的・文化的な背景の理解 ・「古典1」の鑑賞 ○「古典1」の書風を表現するための技能の習得 ・「古典1」の臨書 ・構想・工夫し、相互鑑賞・意見交換し、ワークシートに記入	↓	↓	※古典1の表現を自ら体現するために、知識と技能を身に付け生かしながら構想・工夫し相互鑑賞・意見交換して記入したワークシートと活動の様子を踏まえ形成的評価を行う。
4 5	○「古典2」の特徴・書風、歴史的・文化的な背景の理解 ・「古典2」の鑑賞 ○「古典2」の書風を表現するための技能の習得 ・「古典2」の臨書 ・構想・工夫し、相互鑑賞・意見交換し、ワークシートに記入	↓	↓	※古典2の表現を自ら体現するために、知識と技能を身に付け生かしながら構想・工夫し相互鑑賞・意見交換して記入したワークシートと活動の様子を踏まえ形成的評価を行う。
6 7	○行書の古典の書風を生かして、自身の思いや意図に基づいて効果的、創造的に構想し、表現を工夫して表す。 ・行書の創作 ・構想・工夫し、相互鑑賞・意見交換し、ワークシートに記入	○	↓	※古典の臨書を通して身に付けた知識と技能を生かした創作について、単元が進むに従って創造的な活動へと段階的に展開できるように支援する。 【評価：活動の様子、学習記録、成果物】
8	○古典の特徴・書風を構成する諸要素の働きや、歴史的・文化的な背景への理解を深める。 ○行書の古典の特徴や書風について、自身や他者にとって意味や価値を探究する ・全体で相互鑑賞、意見交換し、学習を振り返り、ワークシートに記入	○	↓	※単元冒頭の鑑賞活動の記録も活用し、学習を通して広がった見方・考え方や価値意識を実感できるように支援する。 【評価：観察、学習記録】

高次の資質・能力を踏まえて作成する。

7. 課題が見られる生徒への働きかけの例

- ・古典の特徴や書風を捉えて表現の工夫につなげられていない場合・・・
- ・自身の思いや意図に基づいて構想・工夫につなげられていない場合・・・



このように、学習指導要領を基にして作成することができるんだね。

特別活動における高次の資質・能力の活用イメージ (高等学校 生徒会活動)



生徒の声を生かした生徒会活動にしたいけど、**結局、前年踏襲の計画になりがち**...



生徒会活動はホームルーム活動や各種委員会活動が基礎となっていて、**年度途中での計画変更は難しいから、どうしても硬直的な運用になってしまう**...



学習指導要領における生徒会活動が目指す**高次の資質・能力の記述を確認してみよう**

学習指導要領 (イメージ)

目標

見方・考え方

高次の資質・能力

(生徒会活動)
 異年齢の生徒で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して学校運営に関わることを通して、以下の資質・能力を育む。

- 自他のよりよい生活づくりに向け、主体的に役割を見いだし担おうとする
- 身近な生活上の課題や地域社会の課題を解決しようとする中で、対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解を形成し、それらを不断に見直そうとするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる
- 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する

内容



生徒会活動において、予算編成や決算、活動計画や報告、役割分担も大切だけど、**つい活動をこなすこと自体が目的化しがち**... **何のために行うのかを生徒が意識できるようにしたい**...



(生徒アンケートの結果)
 ・「**生徒会選挙が形骸化しているのではないか**」
 ・「**毎年やっている避難訓練って、本当にこれで意味があるのだろうか**」



高次の資質・能力を見てみると、「学校生活の充実と向上」「学校における自他のよりよい生活づくり」という**生徒会活動のねらいを確認できた**。
 生徒の実態や育みたい力等を踏まえると...
 ✓ **生徒アンケートを踏まえると、例えば「役員選挙の見直し」「避難訓練の見直し」といったことに重点を置くことも考えられるな**
 ✓ **重点テーマを踏まえ、ホームルーム活動で話し合うための時数、全校生徒で話し合う下準備 (役員活動) に必要な時数、全校生徒での話し合い (生徒総会) に必要な時数等について考えてみよう**



でも、ホームルームによって話し合いの質は違い、**決められた時数内で合意形成は難しい**... **結局安易な多数決になってしまう**...

「○○の見直し」ができたかどうか、が目標ではないよな... **特活の評価って難しい**... **ただでさえ忙しいのに、どう評価すればいいのか**...



活動の目標や学習過程を考える上でも、高次の資質・能力を見てみよう。
 ⇨ **予定調和や安易な多数決では「対立や葛藤を乗り越え」「多様な個性や価値観を包摂」しようとする力を身に付けるのは、難しいな**
 ⇨ **かといって時間は限られているけれど、「自他の意見、価値観を捉え直し」ながらその時点での「納得解、暫定解を形成」する、といったポイントが見えてくるな**。デジタルも上手く使い、合意に至らなかった経験も含めて今後の「不断の見直し」につなげることならできるかもしれない
 ⇨ 高次の資質・能力を見ると、どう生徒に声がけし、価値付け・意義付けをするのか、**評価の方向性が見えてくるな**。**生徒の自己評価や相互評価についても、これを見ながら考えられそう**

生徒会活動の計画・運用の具体イメージ①

※実事例を基にしたイメージ

- 避難訓練は毎年同内容で実施していたが、「**避難訓練を見直そう**」を生徒会活動の重点テーマとして設定。生徒会がホームルームで検討した意見を改善案としてまとめ、次年度に向けた行事計画の見直しを図ることとした。
- **行事の見直し自体が目的化しないためにも、高次の資質・能力を参照することで、声掛けや指導にあたって押さえるべきポイントを共通認識することができた。**また、毎年度、見直しを継続することで、学校行事の精選だけでなく、充実にもつながった。

(1年目)

重点テーマ「避難訓練を見直そう」

時間	学習活動
1、2、3	【学校行事】地震・大津波を想定し、 幼稚園児を伴い高台避難
4、5	【ホームルーム活動】今回の避難訓練の見直し、 次年度の避難訓練に向けた検討、意見表明
6、7	【生徒会】各ホームルームの意見を集約し、 次年度に引き継ぎ



・避難訓練はずっと同じ内容で実施していて、形骸化も見られるな。見直しを生徒自身で考えることを次年度の重点にしよう。
・自分たちで課題を見出して「納得解」を検討し、実際に変化をつくることは、高次の資質・能力にある「主体的に役割や責任」を担おうとする姿にもつながるのでは

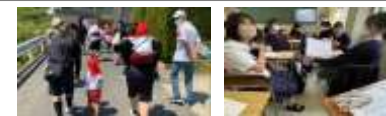


・遠い高台への、増水しうる川沿いを通る避難は**園児には不向き**
・高台避難ではなく**垂直避難**にした方がよいのでは

(2年目)

時間	学習活動
1	【生徒会】昨年度からの引き継ぎ確認
2 (0.5 (0.5)	【学校行事】大地震・大津波を想定し、 幼稚園児を伴い校舎の垂直避難
	【ホームルーム活動】今回の避難訓練の見直し、 次年度の避難訓練に向けて建設的な意見表明
3	【生徒会】各ホームルームの意見を集約し、 次年度に引き継ぎ

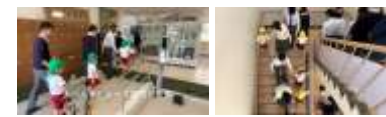
生徒会で改善案をまとめ、**次年度の避難訓練を高台避難から垂直避難に見直し(5コマ→1コマへ)**



1年目：3km離れた高台に避難



・ただ園児を連れて歩くだけでよいのか
・園児も学ぶことで**行動や意識が変わるのでは**

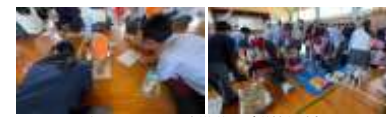


2年目：3階以上の垂直避難に見直し

(3年目)

時間	学習活動
1	【生徒会】昨年度からの引き継ぎ確認
2 3 (0.5 (1.5)	【学校行事】大地震・大津波を想定し、 幼稚園児を伴い垂直避難
	【学校行事】 幼稚園児と一緒に防災学習
4 5)	【ホームルーム活動】今回の避難訓練の見直し、 次年度の避難訓練に向けて建設的な意見表明
	【生徒会】各ホームルームの意見を集約し、 次年度に引き継ぎ

生徒会で改善案をまとめ、**園児との防災学習(学校行事)を新設(1コマ→3コマへ)**



3年目：園児との防災学習(学校行事)を新設



行事の見直し自体が目的化しないためにも、高次の資質・能力を参照することで、声掛けや指導にあたって押さえるべきポイントを共通認識することができた。また、毎年度、**不断に見直しを継続することで、学校行事の精選のみならず、充実にもつながった。**

生徒会活動の計画・運用の具体イメージ②

※実事例を基にしたイメージ

- 生徒会活動は前例踏襲や、活動の意図が曖昧になりがちなか中、**生徒の課題意識や高次の資質・能力を踏まえ**、次年度の生徒会活動の**重点テーマ**を「**生徒会活動と役員選挙の見直しを図ろう**」として設定、必要なコマ数を 6 コマとして当初計画を立案。
- しかしながら、実際に活動する過程で、検討に行き詰まりが発生。**改めて議論したい、との生徒の声を受け、高次の資質・能力にある「葛藤を乗り越え」「納得解を形成しようとする」力を育む上で必要と判断し、ホームルーム活動を 1 コマ追加して実施。**
- **活動の振り返り**にあたって**高次の資質・能力を参照**。

重点テーマ「生徒会活動と役員選挙の見直しを図ろう」

(当初計画)

時間	学習活動
事前活動	【生徒会執行部】 ● 生徒会活動の形骸化、生徒会執行部のなり手不足について協議 全校アンケートの実施 【中央委員会】 ● 各ホームルームでの話合いの提案
1	【ホームルーム活動】 ● 生徒会活動（役員選挙）の形骸化、なり手不足について話合い
2	【生徒会執行部】【中央委員会】 ● 生徒会活動や生徒会役員選挙の見直しについて協議、提案
3	【選挙管理委員会】 ● 執行部の人数と役割分担、役員選挙の方法は適切か協議 【中央委員会】 ● 各ホームルームでの話合いの提案
4	【ホームルーム活動】 ● 執行部の人数と役割分担、役員選挙の方法は適切か協議
5	【生徒会執行部】【選挙管理委員会】 ● 県選挙管理委員会への聞き取り
6	【生徒総会】 ● 生徒会活動改革、生徒会役員選挙の見直しについて提案、協議
事後活動	【生徒会役員選挙】 ● 新たなルールを適用して実施 ● 振り返り（実施してみて分かったことの確認、次年度への反省等）

(活動結果)

- 部活や勉強で時間がない
- 役員選挙に興味がない
- 役員になってもどうせ学校は変わらない

- 端末を活用して集合会議を削減、事務作業を改善しては
- 生徒会の声が学校を変える実感が必要

- 生徒会執行部と各種委員長の重複立候補を可能にしては
- 生徒会活動改革なら端末活用して電子投票をしては
- せっかく投票しても生かされない（死票になる）を変えては
- 生徒会も働き方改革が必要では

(県選管への聞き取りの結果、実社会ではここまで議論してきたことが実現困難であることが判明)

- **改めて議論したい**

生徒の声を受け、高次の資質・能力にある「**対立や葛藤を乗り越え」「納得解を形成しようとする」力を育む**ためにも、**柔軟な教育課程の運用として、ホームルーム活動を 1 コマ追加し、話合いの機会を確保しよう**

+	【ホームルーム活動】 ● 重複立候補、死票の見直しは公平性を欠くか ● 端末活用で事故や投票情報の漏洩は起こるのか
1	

生徒の主体性を活かした生徒会活動の計画・運用にあたって、高次の資質・能力が年度途中の判断の参考になった。また、生徒同士で振り返る際にも有用だった。

「高次の資質・能力」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ（情報・技術科（仮称））

参考

中学校 情報・技術科（仮称） 1. 情報技術（仮称）（2）コンテンツとデータ（仮称）

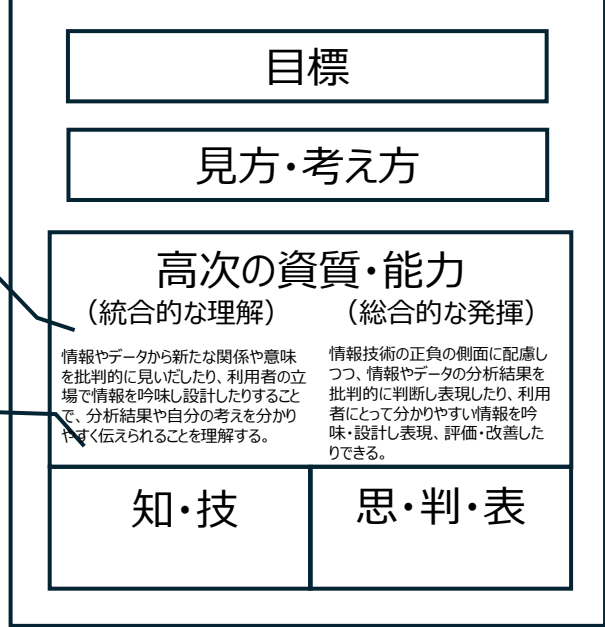


この学年では、今回新たに入った「**情報デザイン**」を学ばせる必要があるな。教科書をなぞるだけでは、子供達も学習内容を深く理解したり技能を身に付けたりできないだろうし、資質・能力も身につけにくいだろうな。そもそもこの学習内容は本質的にどういった資質・能力を育てたいんだっけ？



まず、学習指導要領の記述を確認してみよう。

デジタル学習指導要領（イメージ）



学習を終えた後に目指したい学習の深まりの姿を確認できる。

他教科や前後の学習内容も確認できる。デジタル学習指導要領では解説の記述や評価規準例も見られる。



なるほど、生徒が最終的に「高次の資質・能力」を身に付けられるように、学習内容を組み立てるのがか。**情報技術による問題解決を設計する過程で情報デザインを学び、それを生かしてわかりやすい表現を設計できるようにしたいな。**デジタル学習指導要領では、学習指導要領解説の記述も確認できるからヒントになるし、前後の学習内容なども確認しておけば取り残される生徒も減りそうだ。



教科書の見開き2ページを毎コマ積み重ねるだけでは実践的・体験的な探究活動にならないし、深い理解にも繋がらないから、うまくポイントを重点化して単元を組まないといけないな。育成したい「高次の資質・能力」や前後の学習内容や教科書の該当ページなどを踏まえて、設計の活動を通じて情報デザインを学ばせた場合に、この単元に充てられる授業時数は何時間になるだろうか、...



情報技術で生活や社会における情報の表現に関わる問題を解決する探究活動の中で、その設計に情報デザインを学ぶことが必要な学習の流れを設定しよう。また、生徒が個別に学習課題を決めることに大きな負担を感じさせず、かつ、私が支援可能な状況をつくるために、「地域の高齢者の運動に関わる問題」と、問題の範囲を決めよう。その時、**情報デザイン**を考える上では、ユーザを意識して考えることが大事だから、ユーザに直接かかわったり、関係する人と意見交換できる場面を単元全体に意図的に多く設けよう。

まずは、「問題と課題を設定」に3時間あてよう。この時、従前のデータの学習を生かして、**情報やデータから新たな関係や意味を批判的に見いだしたりすることを体験的に理解**させよう。

次の「情報デザイン」では、高齢者のAIアプリにつながる例示を用いて、その基本を学ぶ時間を3時間設けよう。この時、美術科で学ぶことも生かしながら、**UI以外についても情報デザインにも育成した力を発揮**できるようにしよう。

そして、情報デザインの知識を活用して、アプリのUIを設計を探究する学習活動を5時間設定しよう。



学習内容や学習の順番が決まったので、評価計画を立てるか。育成したい資質・能力をきちんと見とれる評価にしたいな。



特に、情報デザインについて、その知・技や思・判・表が、**学校外の場面に近い状況で設計で発揮されているかを見取りたいな。**

よし、**制作した設計を、評価・改善することをパフォーマンス課題に設定して、その実現状況を読み取る**ことにしてみよう。

デジタル学習指導要領を使えば、評価規準例も一括で見られるのが便利だな！

「高次の資質・能力」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ (情報・技術科 (仮称))

参考

中学校 情報・技術科 (仮称) 1. 情報技術 (仮称) (2) コンテンツとデータ (仮称)

単元計画書のイメージ

1. 単元名：エンジニアになって地域の高齢者の問題を解決するAI連携アプリを設計しよう

学習指導要領の記述を転記する。

2. 教科の見方・考え方

生活や社会の問題を、技術的視点で正負の両面を含め多角的に捉え、包摂的で豊かな生活や社会の実現に向けて、情報技術を適切に活用したり、創造したりすること

3. 分野・区分の高次の資質・能力

学習指導要領の記述を転記する。

統合的な理解	総合的な発揮
情報の受け手の視点に立ち、情報を吟味し、分かりやすく表現することが、・・・	情報を吟味・設計・表現し、評価・改善を繰り返すことで、・・・

学習指導要領の記述や生徒の実態を踏まえて設定する。【検討①】

4. 単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性
データを利用した問題発見と課題設定の方法、情報デザインを踏まえたコンテンツの設計を理解する。	問題を情報やデータの分析結果をもとに多角的に捉え、課題を設定するとともに、試作や検証等を通じて、・・・	生活や社会の技術に関心や好奇心を持ち、多様な他者の発想や価値観を尊重し協働しながら・・・

単元の目標を基に、評価の観点の趣旨を踏まえて設定する。【検討②】

5. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性
・データを利用した問題発見と課題設定の方法、情報デザインを踏まえたコンテンツの設計を理解している。	・問題を情報やデータの分析結果をもとに多角的に捉え、課題を設定することを考えている。 ・試作や検証等を通じて、・・・	※「○」のつけ方など、具体的な評価の在り方については今後検討予定

6. 指導と評価の計画

授業内容、評価場面と評価方法を計画する。【検討③】

時間	学習活動	重点	記録	備考
1 2 3	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の高齢者の運動に関わる問題を見だして課題を設定する ● 地域の高齢者の運動に関わる問題を調べる ● 調査結果を分析し、解決する課題を設定する ● 運動に関わるアプリを調べて、開発するAI運動アプリの構想を立てる 	知思	○	<ul style="list-style-type: none"> ※ 問題の調査では、高齢者や専門家といった人から実際に情報を集めることを大切に ※ 調査結果の分析では、前単元における、データの活用に関わる学習を生かして、集めた情報の種類を踏まえさせる。 ※ 課題設定するアプリが、利用する高齢者だけでなく、高齢者をサポートする方々を不快にさせていないか、個人情報を適切に守ることができるか、などの情報を表現・生成する技術の持つ正負の両面を多角的に吟味させる。 ※ 生成AIを単元すべての活動で補助的に利用させる
4 5 6	<ul style="list-style-type: none"> ● 人にやさしい設計を学ぶ ● 情報デザインの原則 ● 情報デザインの考え方をを用いた簡易なデザインの制作 ● 情報デザインの考え方のまとめ 	知思	○	<ul style="list-style-type: none"> ※ 情報デザインの原則では、デジタル化されたものだけでない情報デザインを、美術との関連も踏まえて取り上げる。 ※ この学習で育成した資質・能力を、以降の成果の発表や発信で繰り返し発揮させる。
7 8 9	<ul style="list-style-type: none"> ● AI運動アプリを設計する ● UIを設計する ● 情報処理の手順を設計する 	知思	○	<ul style="list-style-type: none"> ※ 設計に当たっては、ユーザのニーズを踏まえるだけでなく、包摂性や倫理観にも配慮させる ※ AIモデル、及び連携のために必要な命令等は教師側で用意する。 ※ 情報処理の手順の表し方は、この学習ではアクティビティ図を採用する。
10 11	<ul style="list-style-type: none"> ● 設計を評価・改善する ● 設計のアプリを一部試作し、検証する ● 試作の発表会を行い、設計の改善、修正をする ● 作業工程を計画する 	思態	○	<ul style="list-style-type: none"> ※ 試作の発表のため、そのプログラムを事前にクラウドで共有し、発表会までにある程度生徒同士で体験できるようにしておく。 ※ 高次の資質・能力を踏まえたパフォーマンス課題で、資質・能力の深まりを確認する。

7. パフォーマンス課題

高次の資質・能力を踏まえて作成する。【検討④】

「発表を踏まえて設計を改善・修正し完成させよう！」



このように、学習指導要領を基にして作成することができるんだね。

※高次の資質・能力等を活かして単元構想を行う際の思考プロセスを明確にするために作成しているイメージであり、各教師に常に参考イメージに示した資料を作成することを求める趣旨ではないことに留意。教科書会社が編集に当たってこうした整理を行いながら教科書を編集し、指導書等でその構造を示していくことで、経験の浅い教師でも資質・能力を関連付けて深めていく授業づくりが徐々にできるようになっていく環境を整えていくことが重要。

「高次の資質・能力」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ（情報科）

高等学校 情報 I （2）情報デザインとデザイン思考（仮称）

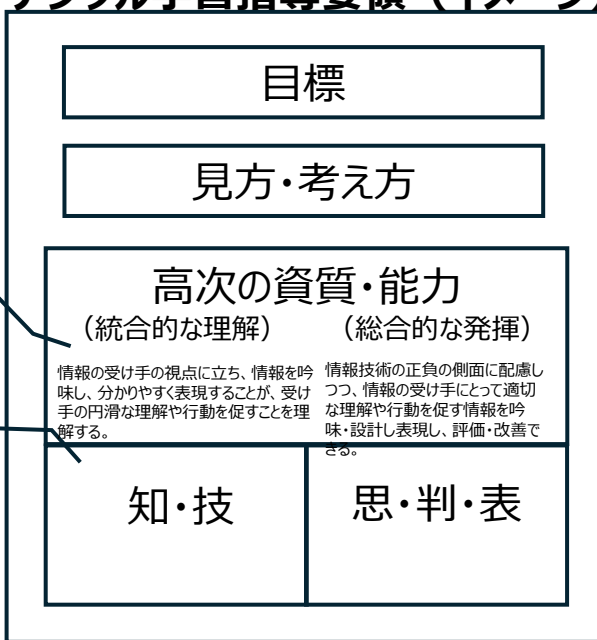


次は「デザイン思考」か。教科書をなぞるだけでは、子供達も学習内容を深く理解したり技能を身に付けたりできないだろうし、資質・能力も身につけにくいだろうな。そもそもこの学習内容は本質的にどういう資質・能力を育てたいんだっけ？



まず、学習指導要領の記述を確認してみよう。

デジタル学習指導要領（イメージ）



学習を終えた後に目指したい学習の深まりの姿を確認できる。

他教科や前後の学習内容も確認できる。デジタル学習指導要領では解説の記述や評価規準例も見られる。



なるほど、生徒が最終的に「高次の資質・能力」を身に付けられるように、学習内容を組み立てるのか。デザイン思考の考え方をもとに探究の活動を通じて、情報デザインや価値創造につながるようにしたい。デジタル学習指導要領では、学習指導要領解説の記述も確認できるからヒントになるし、前後の学習内容なども確認しておけば取り残される生徒も減りそうだ。



教科書の見開き2ページを毎コマ積み重ねるだけでは探究的な活動にならないし、深い理解にも繋がらないから、うまくポイントを重点化して単元を組まないといけないな。育成したい「高次の資質・能力」や前後の学習内容や教科書の該当ページなどを踏まえて、この単元に充てられる授業時数は何時間になるだろうか。...



「デザイン思考の考え方」を体験しながら学ぶことが大事だから、ループブックを設定して生徒が学びを自己調整できるようにしよう。

まずは、「ユーザー分析」と「問題の定義」に1時間、「企画書の作成」に1時間あてて、人間中心設計を理解できるようにしよう。

「プロトタイプング」に3時間かけて、試行錯誤できるようにすることで「情報デザイン」の技能が身に付くようにしよう。

特に、価値創造につながるために評価・改善を行うことに重点を置きたいから、「テスト」の学習内容に2時間を充てよう。

第6時には、「評価」を重点として、

第7時には、「改善」を重点として、実施しよう。

ここまでの活動をメタ認知できるように、最後に振り返りをして「デザイン思考の考え方」のプロセスの中でどのような「情報デザイン」ができたか確認する時間を1時間指導しよう。

これで、本単元での学習内容の順番が決まった。

これから、本単元に充てる授業時数は合計で8時間になるな。



学習内容や学習の順番が決まったので、評価計画を立てるか。身につけさせたい資質・能力をきちんと見とれる評価にしたいな。



知・技も、情報デザインの技能に関する本質的な理解をペーパーテストで見取るのは難しそうだな。今回は、作品で見取ってみようか。

特に思・判・表は、探究の過程で身につけた資質・能力を総合的に発揮して表現するようなパフォーマンス課題を設けたらよさそう。

デジタル学習指導要領を使えば、評価規準例も一括で見られるのが便利だな！

「高次の資質・能力」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ（情報科）

高等学校 情報 I（2）情報デザインとデザイン思考（仮称）

単元計画書のイメージ

1. 単元名：デザイン思考

2. 教科の見方・考え方

事象を、情報とその結び付きの視点で正負両面を含め多角的に捉え、包摂的で豊かな生活や社会の実現に向けて、情報技術を適切に活用し、問題を発見・解決したり、新たな価値を創造したりすること

3. 分野・区分の高次の資質・能力

統合的な理解	総合的な発揮
情報の受け手の視点に立ち、情報を吟味し、分かりやすく表現することが、…	情報を吟味・設計・表現し、評価・改善を繰り返すことで、…

学習指導要領の記述を転記する。

学習指導要領の記述を転記する。

学習指導要領の記述や生徒の実態を踏まえて設定する。
【検討①】

4. 単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性
デザイン思考（共感・定義・発想・試作・テスト）の基本的な考え方や流れを理解するとともに、…	利用者のニーズを分析して課題を定義し、情報を効果的に伝えるための構成や表現方法を設計し、…	受け手の立場を尊重し、多様な視点を取り入れながら協働的に制作・改善に取り組もうとする態度を…

単元の目標を基に、評価の観点の趣旨を踏まえて設定する。【検討②】

5. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性
・デザイン思考の各段階の目的と役割を理解し、ユーザー分析を踏まえて情報を整理し、ワイヤーフレームやサイトマップを作成するとともに、…	・ユーザのニーズに基づいて課題を設定し、情報の構成や表現方法を適切に設計し、評価結果やフィードバックを基に、…	※「○」のつけ方など、具体的な評価の在り方については今後検討予定

授業内容、評価場面と評価方法を計画する。【検討③】

6. 指導と評価の計画

時間	学習活動	重点	記録	備考
1	<ul style="list-style-type: none"> 単元のガイダンス ユーザ分析 <ul style="list-style-type: none"> 簡易ペルソナの作成 問題の定義 	態	知	※ガイダンスでは、 <ul style="list-style-type: none"> 単元の概要と流れ ルーブリック デザイン思考の考え方 前後の学習内容とのつながり ポートフォリオへの記録を指導する。 ※ポートフォリオは自己の変容に気付かせるために行う。
2	<ul style="list-style-type: none"> 企画書の作成 Webサイトの要件の作成 	思		
3	<ul style="list-style-type: none"> プロトタイプング ワイヤーフレーム、配色設計、サイトマップの作成 Webページのコーディング、素材の作成 Webサイトの統合 	知	思	※個々の役割分担に分かれて制作する場面と、協働学習により制作する場面を組み合わせる学習を行う。
4				
5				
6	<ul style="list-style-type: none"> テスト 評価 改善 	知	思	※観点別学習評価は、 <ul style="list-style-type: none"> 情報デザインを踏まえた表現をしているか 企画書と作品の整合性を考察しているかを記述分析で評価する。
7				
8	<ul style="list-style-type: none"> 振り返り ポートフォリオを活用した振り返り パフォーマンス課題 	態	知	※観点別学習評価は <ul style="list-style-type: none"> 学習前後の自己の変容を基に、次の学習にどのように生かそうとしているかを記述分析で評価する。 ※高次の資質・能力を踏まえたパフォーマンス課題で、資質・能力の深まりを確認する。

7. パフォーマンス課題

「Webサイトの制作について、レポートを作成しなさい。」

高次の資質・能力を踏まえて作成する。
【検討④】



このように、学習指導要領を基にして作成することができるだね。

※高次の資質・能力等を活かして単元構想を行う際の思考プロセスを明確にするために作成しているイメージであり、各教師に常に参考イメージに示した資料を作成することを求める趣旨ではないことに留意。教科書会社が編集に当たってこうした整理を行いながら教科書を編集し、指導書等でその構造を示していくことで、経験の浅い教師でも資質・能力を関連付けて深めていく授業づくりが徐々にできるようになっていく環境を整えていくことが重要。